

編集  
発行

金沢市広岡町イ25-10（石川県薬事センター内）  
公益社団法人 石川県薬剤師会 会長 中森 慶滋

2024.8  
No.91

# いしかわ 県薬レポート



## 【栢野大杉（かやのおおすぎ）について】

菅原神社の境内にある樹齢2300年と言われている御神木で、国の天然記念物にも指定されています。幹の周囲は11m、高さ54mの堂々たる巨木で、樹の下から見上げると、天高く視界いっぱいに青々とした枝が広がっています。昭和22年10月27日、昭和天皇北陸巡幸に際し、天覧の栄を賜ったことから「天覧の大杉」とも呼ばれています。

# 目 次

|                                                |                                              |    |
|------------------------------------------------|----------------------------------------------|----|
| ◆ Above Us Only Sky (巻頭言)                      | 石川県薬剤師会 会 長 中森 慶滋                            | 1  |
| ◆ 第128回定時総会及び会長表彰                              | 石川県薬剤師会 事務局長 谷内 一大                           | 7  |
| ◆ 日本薬剤師会第104回定時総会                              | 石川県薬剤師会 副会長(日薬代議員) 綿谷 敏彦                     | 11 |
| ◆ マイナ保険証利用で石川県薬剤師会が表彰                          | 石川県薬剤師会 副 会 長 藤原 秀範                          | 12 |
| ◆ 令和6年能登半島地震 支援薬剤師 活動報告                        |                                              |    |
| ● 能登半島地震における薬剤師活動の概要について                       | 石川県薬剤師会 副 会 長 柏原 宏暢                          | 13 |
| ● モバイルファーマシーの運用開始と、グーグルアカウントを活用した情報共有について      | てまり西泉薬局 橋本 佳奈                                | 22 |
| ● 能登半島地震における薬剤師活動 ～次世代の薬剤師につなぐ想い～              | 白山ののいち支部 理 事 直田 弥丈                           | 23 |
| ● 令和6年能登半島地震で輪島市を担当して                          | 石川県薬剤師会 常務理事・開局部会長 乙田 雅章                     | 26 |
| ● 令和6年能登半島地震 災害初動対応報告                          | 能登北部支部 支 部 長 原 将充                            | 30 |
| ● 正月におきた能登半島地震(羽咋支部のとりくみ?)                     | 羽咋支部 支 部 長 平場啓一郎                             | 32 |
| ● 志賀町富来の支援から見た被災地における薬剤師の役割                    | かがやきクリニック/かがやき在宅診療所<br>北陸大学薬学部 みなし専任教員 小林 星太 | 34 |
| ● 石川県薬剤師会の災害対応と1.5次避難所の運営について                  | 石川県薬剤師会 常務理事 伊藤 昭一                           | 36 |
| ● 能登半島地震における県薬災害本部を中心とした災害支援活動に参加して            | 金沢市薬剤師会 理 事 山口 昌也                            | 38 |
| ● スポセン1.5次避難所における災害支援概要と活動現場で感じたこと             | 石川県薬剤師会 開局部会 常任幹事 北 一晃                       | 40 |
| ● 令和6年能登半島地震二次避難所での活動について                      | 白山ののいち支部 副支部長 松本 暁人                          | 43 |
| ● 加賀支部における支援活動について                             | 加賀支部 支 部 長 北出 清明                             | 44 |
| ● テキストマイニングを利用した、震災支援活動時の情報分析について              | 薬剤師災害支援活動事業委員会 小松能美支部委員 永井 博人                | 45 |
| ● 令和6年能登半島地震における医薬品卸の活動と課題について                 | 明祥株式会社 執行役員 調剤部長 曾山 大輔                       | 47 |
| ● 薬剤師の活動状況について                                 | 石川県薬剤師会 副 会 長 藤原 秀範                          | 49 |
| ◆ 能登半島地震チャリティー報告会「発災から3ヶ月ー薬剤師の支援活動を振り返るー」を開催して | 石川県薬剤師会 副 会 長 藤原 秀範                          | 51 |
| ◆ 薬剤師国家試験にチャレンジ                                | 北陸大学薬学部 実践実学系 准 教 授 興村 桂子                    | 54 |
| ◆ 医療DXについて                                     | 石川県薬剤師会 常務理事 松田 泰美                           | 57 |
| ◆ マット・デニス、ソングブック                               | なかもり けいじ                                     | 59 |
| ◆ 祖父(薬剤師4代目渡辺為三郎)の薬剤師免許証と陸軍薬剤官辞令書等の発見          | 金沢大学附属病院 緩和ケアセンター長 山田 圭輔                     | 61 |
| ◆ 小説の人物表現について                                  | やまだの かかし                                     | 64 |
| ◆ 第6回簡易懸濁法実技セミナー in 金沢を終えて                     | 北陸大学薬学部 興村 桂子・毎田千恵子・高野 克彦                    | 66 |
| ◆ ソフィアが作ったこの世界…グノーシス主義                         | 中森 慶滋                                        | 68 |
| ◆ 第64回北陸信越薬剤師大会・第57回北陸信越薬剤師学術大会について            |                                              |    |
| ● 葦原海さんとの対談「私はないものを数えない」                       | 北陸信越薬剤師大会 大 会 長 中森 慶滋                        | 71 |
| ● 開催要綱                                         |                                              | 74 |
| ◆ 石川県職員(薬剤師)採用試験のお知らせ                          |                                              | 75 |
| ◆ 令和6年度会務日誌                                    |                                              | 75 |
| ◆ 連盟だより                                        |                                              |    |
| ● 本田あきこ オレンジ日誌                                 | 参議院議員・薬剤師 本田 顕子                              | 80 |
| ● 政幸だより                                        | 参議院議員・薬剤師 神谷 政幸                              | 83 |
| ● 令和6年能登半島地震に心を寄せて                             | 金沢市議会議員・薬剤師 宇冢 裕基                            | 86 |



## 巻頭言

# Above Us Only Sky

## Imagine By John Lenon

公益社団法人 石川県薬剤師会  
会 長 中 森 慶 滋

### Chapter.1

#### 輪島 朝市通り

東日本大震災時、僕は石巻の渡波小学校に派遣され薬剤師活動を行ってきた。宿舎は石巻高校である。僕が行った4月中頃、石巻高校にある桜は満開となりその美しさは悲惨な被災地と対比して際立った。能登鉄道の能登鹿島駅は桜並木で有名である。今年も桜は咲いた。そして満開の美しい桜が鉄道の沿線を彩った。悲惨な震災があっても鉄道が復旧してなくても、自然は何も変わらず訪れる。無常の世界なのだが自然は力強く訪れるのだ。

2月に入ったころ能登の避難所にあるモバイルファーマシーを激励に行くという目的で各エリアの拠点、穴水、珠洲、宇出津、輪島、門前の5か所と柴垣本部に行った。

まだ日が昇っていない真っ暗な早朝6時に待ち合わせをして澤野専務理事と乙田開局部会長の3人で出発した。乙田開局部会長は毎日輪島に日帰りで金沢より往復し指揮を執っている。

まず我々は早朝穴水に入り河合薬局さんと穴水あおば薬局さんの被災状況を確認する。それから珠洲を目指した。道中他府県のパトカーや救急車、水道局の車両を目にする。山間の崖が崩落している。そのため

臨時につくられた迂回路をスピードを落として通過する。道路が波打っていて破断し段差もある中、気がつくと3時間で珠洲の道の駅「すずなり」に到着した。ここには廃線となった鉄道の珠洲駅のホームが残されている。駐車場に入ると広島県薬剤師会所有のモバイルファーマシーがすぐに目に入り、その横には日本赤十字社のテントが設営されていた。時刻は9時ちょうど、朝の朝礼が始まる時間だ。携帯からZoomで入ることにする。朝礼の様子が映し出された。石川県薬本部では我々の映像を見つけたのか手を振ってくれている。珠洲駅の看板を映し、いま珠洲にいることを伝える。崩落した家の屋根を映す。モバイルファーマシーに行くと広島県薬剤師会の豊見会長がいらっしゃったのを見てびっくりする。豊見会長は3週間ほど前に石川県薬剤師会に来られ、直接会長から義援金を受け取っている。心より感謝の気持ちが沸き起こる。豊見先生に携帯のレンズを向け広島県薬剤師会会長の豊見先生がいらっしゃいましたとZoomで紹介した。

それから見附島へと行き崩落した島を眺める。このエリアは津波にもあったようで施設の中を見ても津波で洗い流された様子がわかる。「もっと海が好きになる」と破れたポスターの文字が痛々しい。

宇出津本部には横浜薬科大学のモバイルファーマシーが設置してあった。宇出津の役場に隣接する公共施設のトイレは使えていたので驚いた。おそらく給水タンクと水道が直結しているため、給水車でそこを満たすと通常の状態となるのではないと思う。

輪島に近づいたとき谷の先にある山が崩れているのを目にする。そこにあった民家が押し流されているのがわかる。多くの人が作業にあたっていた。民家に続く道路には10台以上の消防車や救急車が停まっていた。乙田先生が言う。「ここはいつ来てもこういう状態なんです。おそらく土砂の中に民家の住民の方が埋まっているのでしょね。」

輪島市内に入る。ビルが倒壊した交差点を左折して薬剤師会の輪島本部があるふれあい健康センターにはいる。その駐車場にはモバイルファーマシーが置いてありしばらくすると薬剤師の隊員たちが次々と集まってきた。皆さんで集合写真を撮った。

車は海沿いにある駐車場に停めた。そこは朝市通りに隣接していて、観光客用に設置されたものだ。朝市通りには日吉酒造という長年の伝統がある造り酒屋がある。この酒屋に金沢から僕の家内の姪が嫁いだ。結婚式は輪島で行われた。結婚式が行われ

る朝、前泊したわれわれ夫婦はその駐車場に停めすぐその近くにあった日吉家に挨拶に行くと部屋には花嫁のれんが飾ってあった。日吉酒造の左隣は小道があり駐車場を出てすぐその小道を歩いていくと玄関だ。この小道が火災を堰き止めることとなった。風向きも変わって来たため消防団は「よし、日吉酒造の手前で火を消すぞ!」と叫び貧弱な水資源で決死の消火活動を行ったという。

駐車場で車を降り、朝市通り方向に出ると、目の前に日吉酒造の裏の酒蔵が見えた。消失はしていなかったものの細長い家と酒蔵の真ん中の建物が崩落し小道を塞いでいた。それから輪島の火災現場に行くことにする。かつて太平洋戦争で米軍が日本中の都市を焼き尽くした光景とはこういうものだったのだろうと思いながら廃墟と化した輪島朝市通りを眺めた。持ってきた花束をどこに供えようかと思えばしばらく行くとこれまで何名かの人たちが備えた祈り壇があったのでそこにあった水をたたえた器の中に花束を供えお祈りをした。震災が起こるまで自分が死に至るとは思っていなかった人たちの声が聞こえてきたように思えた。なんという悲惨なことなのだろうと思う。晴天の青空の中、焼け落ちた4階建てのビルの骨格がかろうじて立っている。





Above Us Only Sky

その時ジョン・レノンの歌Imagineが僕の頭の中に流れてきた。

Above Us Only Sky～♪

我々の上には空があるだけ

日吉家の母屋は無事でつぶされることはなかったが、津波が来るというのでみな高台に避難したそうだ。そこで目にした火災の光景をみたため家内の姪は精神状態が不安定となり、いまだにフラッシュバックが起こるという。今は金沢の実家に避難してお子さんは4月から金沢の小学校に通うこととなるらしい。

僕の髪を切ってくれる理髪店のおやじさんは輪島出身でお兄さんは輪島で美容室を震災まで経営していたそうだ。店舗は朝市通りからほど近いところに位置しているらしく、店舗部分は倒壊し住居部分は無事であったが、再開は難しく金沢に移住し長年の手の職をあきらめ運送業に転職したという。輪島の復興は極めて難しくどんどん人は他の地域へと移住し街の存続は望めないのではと言っていた。

その後富来を通り柴垣の宿泊所で本部職員に激励をして帰ってきた。

家に帰った時思い浮んだのは被災し亡くなった人のことであった。「この地震を

我々は記憶しておかなければいけない」と乙田開局部会長は車の中で言っていたことを思い出す。

## Chapter.2

### 「日本薬剤師会代議員会

お礼の挨拶 2024/3/9」

戦場から帰ってきた気持ちです。

あの日、棚から本が全て落ちてきて、本に埋まって呆然としていた16時13分、山本会長から電話がありました。会長の声を聞いた時に怖かったことを思い出しどっと感情が戻ってきました。

全国から多くの方が災害支援に来ていただきました。

今はもう全国どちらの方向に足を向けて眠れません。北があるかと思いましたが北には被災した能登があります。そこで海の方に足を向けて寝ていましたら「ベッド狭い」と家内からしかられました。(会場：爆笑)

珠洲に行ったとき、広島のマイルファーマシーが活動していました。「おはようございます。」と言うと「はい」と中から出てきたのは豊見会長さんだったのにはびっくりしました。

先日山本会長と輪島の火災現場に行きました。

火災で消失した日吉薬局さんの痕跡がないか探しました。柱も何も残っていない焼け落ちた中に陶器でできたロートとアルコールランプの三脚が見つかりました。

それから亡くなった人を悼み花を手向けお祈りした時に心に浮かんたのは「悲愴」という言葉でした。

そしてベートーベンピアノソナタ第8

番、この悲愴のメロディーが心に浮かびました。（「悲壮」を携帯から流しマイクに近付け会場に流す）

そのとき「悲愴」には希望が旋律の裏側に隠されている気がしました。祈りに似た旋律の美しさに言葉では近づくことができない神の領域を描いているのではと思ったからです。

悲しく心が痛む悲劇的なさまを意味する「悲愴」の愴はりっしんベンに倉を書きます「ひそう」にはもう一つ漢字があります。悲しみに壮大の壮をあて「悲壮」これは悲しさの中に凛々しさと勇壮さを湛える意味であるそうであります。

悲壮感そして覚悟をもった先生方が石川県薬剤師会の災害本部に全国から次々と到着していただきました。そして柴垣本部を起点とし被災地に出発されました。

そうして「柴垣」は薬剤師の聖地となりました。

全国から来られたのべ4,173人（3月時点）にもなる薬剤師の方々。

モバイルファーマシー13台が石川県に来ていただきました。

この善意の気持ちにどう報いればいいかわかりません。今はただ感謝の気持ちしかありません。その重さに押しつぶされそうです。

これから能登地震を総括し次の世代へと受け継いでいくことが我々の使命であると考えています。

11月に金沢で北陸信越学術大会を予定していました。開催についてはいろんな意見があることを承知しています。しかし僕はハイブリッドで開催したいと思います。

能登地震を総括し、この地震は薬剤師にどんな意味があったのか何を変えたのか何

が足りなかったのか全国の先生方と考えるみたいと思います。また4月21日に現在までの取りまとめを行います、案内が行くと思いますのでよろしくお願いします。

地震発生後、日本薬剤師会は素晴らしい対応と指揮をとっていただきました。

そして僕は思いました。日本薬剤師会はなんと素晴らしい組織なのだろうかと。

日本薬剤師会の石川県薬本部の撤収の日が決まりました。3月11日です。

この日を聞いて「あーっ」思いました。この日は東日本大震災があった日です。

次の日の3月12日奈良の東大寺の二月堂でお水取りが行われます。

テレビのアナウンサーは必ず次のように言います。

「この日から日本列島は春に包まれます」能登に今年も春はやってくるでしょう。

ありがとうございました、心より感謝を申し上げます。

2024/3/10 9:33 能登地震支援に謝辞、次世代に教訓伝える「使命」 | PHARMACY NEWSBREAK (ファーマシーニュースブレイク) - 薬師...

**PHARMACY NEWSBREAK**  
2024年3月10日 (日)

特集 (詳細) 日薬総会

能登地震支援に謝辞、次世代に教訓伝える「使命」  
石川県薬・中森会長、11月の北陸信越学術大会は開催へ

2024/3/9 15:24



石川県薬・中森会長

日本薬剤師会 第103回臨時総会 石川県薬剤師会の中森慶滋会長は9日、日本薬剤師会臨時総会の開会に先立ち挨拶し、1月に発生した能登半島地震での各地からの支援に感謝を述べた。また被災県薬として対応を総括し次世代へ受け継ぐことが「使命」と述べ、11月の北陸信越薬剤師学術大会は予定通り実施して、今回の災害対応をテーマの一つにする考えを示した。

中森氏は、震災直後から日薬の指揮の下、全国各地から13台のモバイルファーマシーや多くの派遣薬剤師の応援があったことに「本当に感謝申し上げたい」とし「日薬は薬

## Chapter.3

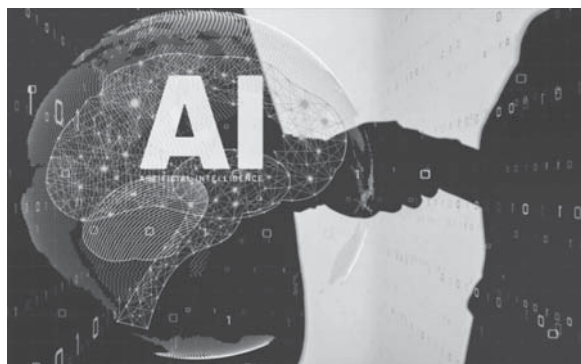
## テクノ新生 生成AI

☆我々は震災を乗り越え新世紀に向かって  
前進しなければならない

日本経済新聞に「テクノ新世」(Technopocene)という特集が一面に組まれていた。

我々がChatGPTを生成AIとして認識したときの衝撃を受けてからすでに1年半が経ちその影響はさまざまなエリアにもたらされている。世界のルールをことごとく変えている生成AIについては批判的意見も見られるものの、それはこれまで様々なテクノロジーが開発されるたびに言われているネガティブな現象との見方もある。

例えば小型の電卓が発売された当初これを使うようになると子供たちは計算ができなくなってしまうと言われていたが。しばらくすると計算の能力を付与し時間は削減され効率的な学習ができることに気がついた。また自動車による交通死亡事故死者数が昭和45年16,765人だった当時には自動車の価値よりもその弊害に目が向けられていた、など。



生成AIが得意ではない領域は「創造性」と「社会的知性」だと今は言われているが果たしてそうなのだろうか。人類を上回る社会的知性を獲得する日はすでに目の前に

来ているのではないだろうか。

6月18日の「テクノ新世」「もっと人間らしく(2) 牧師もブッダもAI」では次のように書かれている。

\*\*\*\*\*

「信仰を保つために定期的に祈り、聖書を読み教会に通う必要があります」。ドイツ南部バイエルン州の聖ポール教会。約300人の聴衆に向け、スクリーンに映しだされた若い男性牧師は厳かに語りかけた。

彼は人間ではない。聖書を学び、自然な言葉で説教する人工知能(AI)だ。信者からは「悪魔崇拝者の所業だ」との批判があった一方、若い世代からは「神の存在を感じた」と好意的な声もあった。

「テクノ新世」2024年6月18日 日本経済新聞

\*\*\*\*\*

WEBにあった記事「AIが牧師の役割を果たす：ドイツの教会での礼拝におけるAIの実験」では次のように書かれている。

\*\*\*\*\*

#### AIと人間：共存の可能性

AIが宗教の領域に進出することで、人間とAIの関係性についても再考する必要があります。AIは人間を超越する存在ではなく、人間の生活を豊かにする道具であるべきです。

<https://note.com/hiroyukimonchy/n/n77ed18f81c2a>

\*\*\*\*\*



人類が「AI語」を話すようになりこれまでの言語はAIによって作り出されたものに置き換わるかもしれない。この記事では論文の文章にこれまであまり使われることがなかった単語が急に使われるようになったという。

\*\*\*\*\*

著名プログラマーで作家のポール・グレアム氏は4月メールに記されていたある単語に注目した。詳しく調べる「掘り下げる」という意味の delve という動詞だ「ChatGPTで書かれた文章の兆候」という。「テクノ新世」2024年6月21日 日本経済新聞

\*\*\*\*\*

これまで話し言葉では使わない単語「delve」は2022年以降、医学論文で使われている割合が急激に増加した。ChatGPTが口癖のように delve を使う頻度が多いからだ。この話言語では使われない delve はナイジェリア人が使う英語だと頻繁に使われているらしい。

\*\*\*\*\*

実はチャット GPT は開発時に、適切な受け答えを学ぶため人間と大量に対話の訓練をした。相手は時給2ドル以下で雇われたアフリカの人々と報じられている。英紙ガーディアンによると delve はナイジェリアなどで頻繁に使われている。

「テクノ新世」2024年6月21日 日本経済新聞

\*\*\*\*\*

そのため ChatGPT を使ったと思われる論文には明らかにが delve が頻出しているという。

今日6月22日の「テクノ新世」にはマイケルサンデル氏の言葉を引用している。

「真の問題は、AIによって私たちが現実と仮想の区別を失うかどうかだ」

さらに記事では次のように結論付けている。

\*\*\*\*\*

考え判断することだけが人間だけの特権ではなくなる未来には、技術そのものも「倫理的であること」が求められる。今後テクノロジーのあり方をめぐる議論は、人間性とは何かを考える議論に近づいていくだろう。

何が正しいことなのか、思索する努力を放棄しない。テクノロジーを制御する手綱は決して手放さない。技術が文明をけん引するテクノ新世においても、人類と地球の命運を決めるのは私たちの知性と理性だ。「テクノ新世」2024年6月22日 日本経済新聞

\*\*\*\*\*

ここで使われている「テクノ新世」を日本経済新聞は次のように定義づけている。

「人類が生み出した技術が覇権を握り、人々の暮らしや社会のあり方塗り替える未来の年代記を「テクノ新世」と名付けた。「テクノ新世」2024年6月22日 日本経済新聞」



我々の前にはどのような未来が待っているのだろうか。そしてこう思うのである。

**【新世紀薬剤師よDXを実装せよ】**

## 第128回 定時総会及び会長表彰

石川県薬剤師会 事務局長 谷 内 一 大

第128回定時総会は、令和6年6月16日（日）午前10時から、ホテル日航金沢において、会員数813名のところ、本人出席64名、議決権行使書による出席190名、委任状による出席301名、合計555名の参加を得て開催されました。

今庄常務理事の司会により、崔副会長の「開会のことば」で第128回定時総会が開会され、冒頭、令和6年能登半島地震でお亡くなりになった方々、令和5年度及び令和6年度にご逝去された会員へのご冥福を祈り黙とうを捧げました。

この後、石川県薬剤師会会長表彰式が執り行われました。

表彰式終了後、業務多忙な中、来賓としてご臨席いただいた神谷政幸参議院議員からご祝辞を頂戴いたしました。神谷先生はこの後の公務のためここで退席されました。

開会にあたり、中森会長は挨拶の中で、令和6年能登半島地震では、全国から4,701名の薬剤師が支援に来ていただいたこと、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本保険薬局協会、日本チェーンドラッグストア協会など、さまざまな団体が支援くださったこと、全国から13台のモバイルファーマシーが駆けつけ、そこで1,834枚の災害処方箋が発行され、モバイルファーマシーのおかげで、能登では完璧な医療を提供することができたことなどを話され、御礼を申し上げられました。

さらに、全国から多くの義援金が集まり、日本薬剤師会からは約5,400万円が、石川県薬剤師会は約1,500万円を集め、合



挨拶 中森会長

計で約6,900万円となり、義援金は被災した薬局などに公平かつ公正に分配されることを話されました。

また、石川県が電子処方箋の運用率が5月19日時点で52.9%と全国1位で、マイナ保険証の利用率が10.1%と高い水準を維持しており、7月17日に馳知事ご臨席のもと厚生労働省から表彰状が贈呈されることにも触れられ、会員の皆様のDXに対する深い理解に敬意を表されました。

そして、来年2月22日から24日にかけて金沢で開催する「北信越薬剤師学術大会」の概要を説明し、会員の皆様の協力をお願いし、石川県薬剤師会はDXを推進し全国でも屈指の薬剤師会として活動しているので、これからもこの流れを止めないよう頑張っていくと決意を表明されました。

続いて、来賓としてご臨席された馳浩石川県知事、佐々木紀衆議院議員、小森卓郎衆議院議員、村山卓金沢市長、紐野義昭石川県議会議員、米澤賢司石川県議会議員、宇冢裕基金沢市議会議員からご祝辞を頂戴いたしました。また、安田健二石川県医師会会長、飯利邦洋石川県歯科医師会会長、



挨拶 馳知事



会場の様子

小藤幹恵石川県看護協会会長、加藤将夫金沢大学医薬保健研究域薬学系長、折本健次石川県薬事振興会会長・石川県薬業卸協同組合理事長、黒崎隆博石川県医薬品工業会会長、西田昭二衆議院議員秘書土倉豊氏、岡田直樹参議院議員秘書丹後智浩氏、宮本周司参議院議員秘書山田正博氏を紹介いたしました。

定時総会は、上田和雄議長、三浦智子副議長が登壇し、議事録署名人に山口昌也先生、宇多裕基先生を指名して議事に入りました。まず、第1号報告「令和5年度会務並びに事業報告に関する件」について、澤野専務理事から総会資料に基づき、令和5年度薬局ビジョン、薬剤師職能及び学術などの主要事業報告の説明がなされました。

部会別の会務並びに事業報告は、乙田常務理事から開局薬剤師部会について、村田常務理事から学校薬剤師部会について、森戸常務理事から病院薬剤師部会について、橋場理事から県庁勤務薬剤師部会について、金田理事から女性薬剤師部会について、吉野理事から青年薬剤師部会について、総会資料に基づき会務並びに事業報告がなされました。

続いて、第2号報告「令和6年度収入支出予算に関する件」については、北嶋総務

担当から、第3号報告「令和6年度事業計画に関する件」については、中森会長から、第4号報告「令和6年度資金調達及び設備投資の見込みに関する件」については、澤野専務理事から総会資料に基づき説明がなされました。

議事に入り、第1号議案「令和5年度計算書類等承認に関する件」について、北嶋総務担当から貸借対照表及び正味財産増減計算書などの説明・報告の後、森内部監事から監査報告がなされ、質疑応答がなく挙手多数により承認されました。

第2号議案「令和6年度会費額と賦課徴収に関する件」について、柏原副会長から総会資料に基づき説明・報告がなされ、質疑応答がなく挙手多数により承認されました。

第3号議案「令和6年度借入限度額承認に関する件」について、柏原副会長から総会資料に基づき説明・報告がなされ、質疑応答がなく挙手多数により承認されました。

以上で全ての議案が採決されたので上田議長、三浦副議長が降壇し、最後に、綿谷副会長の「閉会のことば」で第128回定時総会を閉会しました。

## 会 長 表 彰

総会会場において長年にわたり石川県薬剤師会の会務及び事業の運営に尽力された6名の方々に表彰状と記念品が贈られ、その功績が称えられました。その後、受賞者を代表して、田中和久先生（プラス薬局）が謝辞を述べられました。



謝辞 田中先生

### 令和6年度 石川県薬剤師会会長表彰受賞者

|      |          |         |          |
|------|----------|---------|----------|
| 加賀支部 | 久保 里美 先生 | 開局薬剤師部会 | 原 将充 先生  |
| 金沢支部 | 岡田 葉子 先生 | 開局薬剤師部会 | 岩崎 富和 先生 |
| 羽咋支部 | 向瀬 紀男 先生 | 学校薬剤師部会 | 田中 和久 先生 |
|      |          | 病院薬剤師部会 | 板井 進悟 先生 |



[後列] 岩崎先生 向瀬先生 板井先生  
[前列] 久保先生 田中先生 中森会長 原先生

先生方のご栄誉をたたえ、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

## 令和6年度 石川県薬剤師会役員

令和6年6月16日

| 役 職     | 氏 名       | 役 職       | 氏 名     |
|---------|-----------|-----------|---------|
| 会 長     | 中 森 慶 滋   | 理 事       | 田 中 清 志 |
| 副 会 長   | 柏 原 宏 暢   | 理 事       | 橋 本 秀 隆 |
| 副 会 長   | 崔 吉 道     |           |         |
| 副 会 長   | 橋 本 昌 子   |           |         |
| 副 会 長   | 綿 谷 敏 彦   |           |         |
| 副 会 長   | 藤 原 秀 範   | 外 部 監 事   | 池 水 龍 一 |
| 専 務 理 事 | 澤 野 和 彦   | 内 部 監 事   | 森 正 昭   |
| 常 務 理 事 | 村 田 世 里 子 |           |         |
| 常 務 理 事 | 松 田 泰 美   |           |         |
| 常 務 理 事 | 乙 田 雅 章   |           |         |
| 常 務 理 事 | 今 庄 恵 子   | 顧 問       | 能 村 明 文 |
| 常 務 理 事 | 竹 端 裕     | 顧 問       | 中 村 正 人 |
| 常 務 理 事 | 森 戸 敏 志   | 顧 問       | 加 藤 将 夫 |
| 常 務 理 事 | 伊 藤 昭 一   | 顧 問       | 小 倉 勤   |
| 理 事     | 野 村 政 明   | 参 与       | 院瀬見 義 弘 |
| 理 事     | 菅 幸 生     | 参 与       | 向 孝 次   |
| 理 事     | 百 野 貴 秀   | 参 与       | 上 田 和 雄 |
| 理 事     | 高 山 成 明   | 参 与       | 兼 田 春 生 |
| 理 事     | 塩 谷 明 美   | 参 与       | 永 江 典 之 |
| 理 事     | 吉 野 貴 大   | 参 与       | 吉 藤 茂 行 |
| 理 事     | 坂 野 由 宇 希 | 参 与       | 三 浦 智 子 |
| 理 事     | 石 浦 祐 喜 子 | 参 与       | 宮 河 哲 夫 |
| 理 事     | 政 氏 藤 玄   | 議 長       | 上 田 和 雄 |
| 理 事     | 橋 場 久 雄   | 副 議 長     | 三 浦 智 子 |
| 理 事     | 金 田 孝 子   | 日 薬 代 議 員 | 綿 谷 敏 彦 |

## 日本薬剤師会 第104回定時総会

石川県薬剤師会 副会長（日薬代議員） 綿 谷 敏 彦

2024年6月29日（土）、30日（日）の両日、東京都江東区にある「ホテルイースト21東京」にて日薬定時総会が行われました。

初日の午前中は冒頭に正副議長を選出した後、出席者全員で薬剤師綱領唱和を行いました。その後、山本会長の演術、安部副会長より令和5年度会務並びに事業報告の件に関する報告と荻野常務理事より令和5年度決算承認の件に関する議案の説明があり、引き続き田尻副会長より重要事項の経過報告がなされました。

午後はブロック代表質問が行われました。私の印象に残った内容としては、「選定療養について」「敷地内薬局について」が挙げられます。選定療養費制度は10月から実施されますが、消費税課税対象となることも含め患者への説明が難しいため、国がきちんと国民に説明していくようにとの要望が挙げられました。また、日薬として引き続き敷地内薬局に反対、認めないとの方針も確認されました。

2日目は午前中に一般質問が行われ、昼食をはさんで午後から採決がありました。今回は監事及び理事の選出期であり、理事選出に関しては代議員による投票が行われました。その結果、岩月進氏が正式に次期会長となり、北陸信越ブロックからは、荻野構一氏が副会長、橋場元氏が常務理事として役員となりました。

今回は久々に全体懇親会が催されまし

た。本田あきこ議員や神谷まさゆき議員にも足をお運びいただき、いろいろとお話することができました。また、北陸信越ブロック内の交流を深めることもでき、有意義なひとときでした。



## マイナ保険証利用で石川県薬剤師会が表彰

石川県薬剤師会 副会長 藤 原 秀 範

令和6年7月17日（水）、石川県庁において、今年4月の薬局でのマイナンバーカードの保険証利用率（マイナンバー保険証利用件数／オンライン資格確認の利用件数）が全国1位となった石川県薬剤師会が厚生労働省から表彰されました。表彰式で濱地雅一厚生労働副大臣は「12月2日に新規の健康保険証の発行が停止される。しっかりと利用率を上げる取り組みを厚生労働省一丸となって行なっていく。」と述べられました。

厚生労働省は今年5月～7月を「マイナ保険証利用促進集中取組月間」と定め、利用率上位の都道府県や関係団体などを表彰

しています。表彰対象は4月の利用率を参考に選び、薬局の上位は、石川10.1%、福島9.6%、鳥取9.3%でした。

中森慶滋会長は「能登半島地震では、オンライン資格確認システムにより避難先でも患者の薬歴情報などが閲覧できた。どれだけ医療に役立ったかは計り知れない。」と述べられ、今後も薬局を挙げてDX（デジタルトランスフォーメーション）を進める考えを示されました。

薬剤師会のほか、都道府県で3位（10.1%）だった石川県や、病院での利用率が3位（18.8%）だった石川県病院協会、石川県医師会も表彰されました。



記念品  
(マイナちゃん)



濱地副大臣 中森会長



関係者の記念撮影（右端：中森会長）

# 令和6年能登半島地震 支援薬剤師 活動報告

## 能登半島地震における薬剤師活動の概要について

石川県薬剤師会 副会長 柏原 宏 暢

令和6年の元日16時10分、能登半島地震が起きました。この地震は、能登半島を中心に甚大な被害をもたらし、今もなお被災地の方の生活に影響を及ぼしています。その際の薬剤師活動に当たっては、石川県薬剤師会の会員の皆様、さらに全国の薬剤師の皆様から多数のご支援を頂き誠にありがとうございました。紙面を借りて感謝申し上げます。支援薬剤師の様々な活動は、テレビ・新聞などの報道を通して様々なシーンが紹介されたりしています。しかし、石川県薬剤師会災害対策本部（以下、県薬本部）においては薬剤師の支援活動を取りまとめていたにもかかわらず、その活動はあまり知られていません。そこで、その概要を1活動組織、2活動地域、3活動内容の三つに整理して報告します。

### 1 活動組織

組織は、石川県薬剤師会（県薬）、日本薬剤師会（日薬）、日本病院薬剤師会（日病薬）、石川県庁内に設置された医療調整本部、県庁薬事衛生課（県庁）、そして厚生労働省（厚労省）です。

#### (1) 県 薬

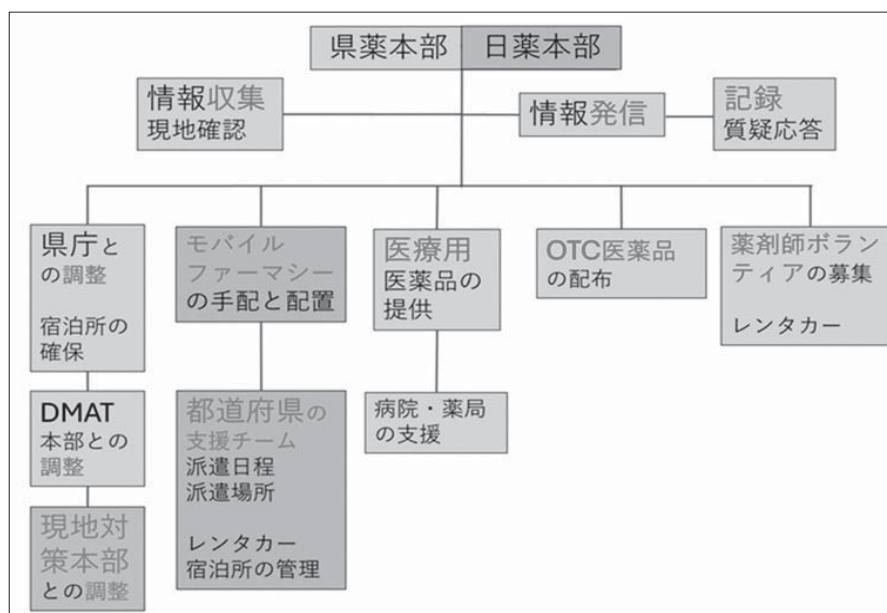
県薬の本部会議では、薬局や病院・診療所の被害はどうか？どうしたら医療が継続できるか？県薬の能力でどこまで支援できるか？被害の範囲はどこまで及んでいるのか？2市2町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町）までか、それとも3市3町（プラス七尾市、志賀町）までかについて協議しました。

県薬役員の現地視察で、避難所にたくさんの人があふれている。薬局の棚が倒れ、

| 薬剤師会の取組について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 活動組織                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 2 活動地域                                                                                                                                                                        | 3 活動内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>県薬本部</b>（石川県薬剤師会）</li> <li>・<b>日薬本部</b>（日本薬剤師会）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県チーム</li> <li>・NPhA（日本保険薬局協会）</li> </ul> </li> <li>・日本病院薬剤師会</li> <li>・石川県保健医療福祉調整本部               <ul style="list-style-type: none"> <li>・DMAT</li> </ul> </li> <li>・石川県庁健康福祉部薬事衛生課</li> <li>・厚生労働省</li> <li>・その他</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・珠洲市</li> <li>・輪島市</li> <li>・能登町</li> <li>・穴水町</li> <li>・志賀町</li> <li>・七尾市</li> <li>・1.5次スポンサー</li> <li>・余浜市、鶴谷、自山市、小松市、加賀市</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>OTC医薬品</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本チェーンドラッグストア協会</li> <li>・医薬品卸協同組合</li> </ul> </li> <li>・<b>医療用医薬品</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モバイルファーマシー</li> <li>・災害処方箋</li> <li>・オンライン資格確認</li> </ul> </li> <li>・<b>支援薬剤師</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集</li> <li>・派遣</li> </ul> </li> <li>・避難所の環境衛生</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害薬事コーディネーター</li> <li>・クロノロ</li> <li>・本日のミッション</li> <li>・継続的な課題</li> <li>・質疑応答</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所</li> <li>・モバイルファーマシー</li> <li>・臨時調剤所</li> <li>・薬局</li> <li>・病院</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の応募・活動報告</li> <li>・グーグルフォーム</li> <li>・グーグルドライブ</li> <li>・LINE・オープンチャット</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|            |              |          |           |     |     |     |  |  |  |
|------------|--------------|----------|-----------|-----|-----|-----|--|--|--|
| 県薬<br>役割分担 | 対外折衝         | ○中森      |           |     |     |     |  |  |  |
|            | 役割分担         | ○柏原      |           |     |     |     |  |  |  |
|            | 課題の調整        | ○伊藤      | 橋本        | 藤原  | ○綿谷 |     |  |  |  |
|            |              | 宇野       | 県庁医療調整本部) |     |     |     |  |  |  |
|            | 現地本部         | ○直田      | ○村井       | ○橋本 |     |     |  |  |  |
|            |              | ○乙田      |           |     |     |     |  |  |  |
|            |              | ○小西      |           |     |     |     |  |  |  |
|            |              | ○原       | ○竹端       | ○澤野 | ○柏原 |     |  |  |  |
|            | 1.5 & 2次避難所  | ○笠原      | ○小林       |     |     |     |  |  |  |
|            |              | ○伊藤      | ○綿谷       | ○小林 | 北   | 高井  |  |  |  |
|            |              | ○村田      |           |     |     |     |  |  |  |
|            |              | ○吉田      |           |     |     |     |  |  |  |
|            | 医薬品          | ○下野      | 永井        |     |     |     |  |  |  |
|            |              | ○綿谷      | 伊藤        | 坂野  |     |     |  |  |  |
|            | OTC          | ○伊藤      | 今庄        | 山口  | ○柏原 | 松田  |  |  |  |
|            |              | 橋本       |           |     |     |     |  |  |  |
|            | 薬剤師ボランティアの調整 | ○伊藤      | 藤原        | 崔   | 山口  | ○綿谷 |  |  |  |
|            |              | 北        | 永井        |     |     |     |  |  |  |
|            | 情報発信         | ○橋本      | 堀田        |     |     |     |  |  |  |
|            | 質疑応答         | ○柏原      | 松田        | 乙田  | 伊藤  |     |  |  |  |
|            |              | ○崔       | 森戸        |     |     |     |  |  |  |
|            | 病院の支援        | ○中森      | 崔         | 伊藤  | ○柏原 |     |  |  |  |
|            | 保険医療の正常化     | ○藤原      |           |     |     |     |  |  |  |
|            | 県への報告書       | ○澤野      | 北島        | ○柏原 |     |     |  |  |  |
|            | 義援金の配布       |          |           |     |     |     |  |  |  |
|            | 機材管理         | 携帯電話     | 谷内        |     |     |     |  |  |  |
|            |              | PC・プリンター | 谷内        |     |     |     |  |  |  |
|            |              | レンタカー    | 藤原        | 谷内  |     |     |  |  |  |
|            |              | 予算全般     | 澤野        |     |     |     |  |  |  |

○は責任者      □は災害薬事コーディネーター



医薬品が散乱している。病院では薬剤師が疲弊している。現地の薬剤師自身も自宅が被災し、被災者である。ことなどが判明しました。

以上を踏まえて、支援について協議し、  
①避難所にOTC医薬品を配布する。②避難者を必要な医療に繋げる。③災害処方箋に対応して調剤する。④現地に薬剤師を派遣することなどを決定しました。

#### 1) 県薬の役割分担と組織図

最初に役割分担を決め、新たな業務が生

じた際には組織図にその都度、追加しました。

#### 2) 県薬と日薬で役割分担

県薬と日薬で担当業務を分けました。

##### ①県薬

- ・ 情報収集、情報発信、記録
- ・ 県庁と調整
- ・ DMATと調整
- ・ 医療用医薬品の手配
- ・ OTC医薬品の配布
- ・ 薬剤師ボランティアを募集

## ②日薬の主な担当業務

- ・モバイルファーマシーの手配と配置
- ・都道府県薬剤師会の支援チームの日程と場所を調整

## 3) 県薬本部の情報共有

### ①クロノロ

情報を時系列で記録して、何が起きているのかを確認し、情報の共有に役立てました。速やかに電子化され、グーグルドライブでも見ることができるようになりました。



クロノロの貼られた県薬本部の廊下

### ②本日のミッション

クロノロで記録された事柄から、本日に行動すべきものを「本日のミッション」として取り上げました。本部に詰めている薬剤師の誰が適任か判断し、ミッションが割り振られました。例えば、1月11日のミッションを示します。

- ・OTC医薬品の配布システム
- ・モバイルファーマシーの配置する地区
- ・現地本部（宿泊所）の確保と管理
- ・ボランティア薬剤師の管理
- ・県庁医療対策本部との連携
- ・2市2町の責任者の設定
- ・各地域でのLINEグループの作成
- ・1.5次避難所での処方箋応需体制
- ・朝礼と報告会の実施

### ③継続的な課題

1日では解決できそうにない事案については、「継続的な課題」として、掲示し、県薬役員全員の課題として取り組みました。1月中旬の課題を示します。

- ・支援薬剤師の確保
- ・保健医療体制のオペレーション（運用）
- ・現地本部との情報共有（責任者の設定、宿泊場所の確保）
- ・OTC医薬品配布の遅れ（チェーンドラッグストア協会、卸、都道府県チームの活用）
- ・モバイルファーマシーの撤退時期（地域別）
- ・災害処方箋から保険調剤への切替（地域別）
- ・オンライン診療とオンライン服薬
- ・義援金

### ④質疑応答

本部立ち上げ時から、薬局、診療所、病院、一般の方から下記のような質問が相次ぎ、その対応に一番人手と時間がとられました。

- ・どここの薬局が開局しているか？  
（病院、クリニックから）
- ・処方箋なしの調剤ができるのか？  
（薬局、避難者から）
- ・一部負担金の対応について？  
（支援薬剤師、薬局から）
- ・オンライン資格確認の方法について？  
（支援薬剤師、薬局から）
- ・災害処方箋について？  
（薬局から）
- ・ボランティア薬剤師の応募について？  
（薬剤師から）

## (2) 日 薬

金沢市にある県薬事務所に日薬現地本部が設置されて、日薬災害対策委員会メンバーが交替で詰めていました。そして、全

国にあるモバイルファーマシーを手配し、被災地への配置について県薬担当者を通じて能登の現地調整本部と検討した上で、日程と派遣場所を決定しました。また、都道府県薬剤師会の支援チーム（都道府県チーム）の日程と場所を調整しました。

奥能登に向うモバイルファーマシーと都道府県チームに対しては、毎日事前レクチャーを実施し、その説明書にLINEでの情報共有及びグーグルフォームを活用するための2次元バーコードを印刷して渡しました。各チームはそれを読み取ることで、必要な情報に接することができ、また、活動報告に使用することができました。

なお、薬剤師の宿泊所として中能登に位置する羽咋市柴垣の「国立能登青少年交流の家」に50人分前後を確保できました。そこは上水道と下水道の被害がない北限だったので、日薬の現地対策本部（柴垣本部）とし、都道府県チームの活動拠点として機能しました。

### (3) 日病薬

日病薬には、主に奥能登の応援要請のあった公立病院の薬剤部を中心に金沢近郊

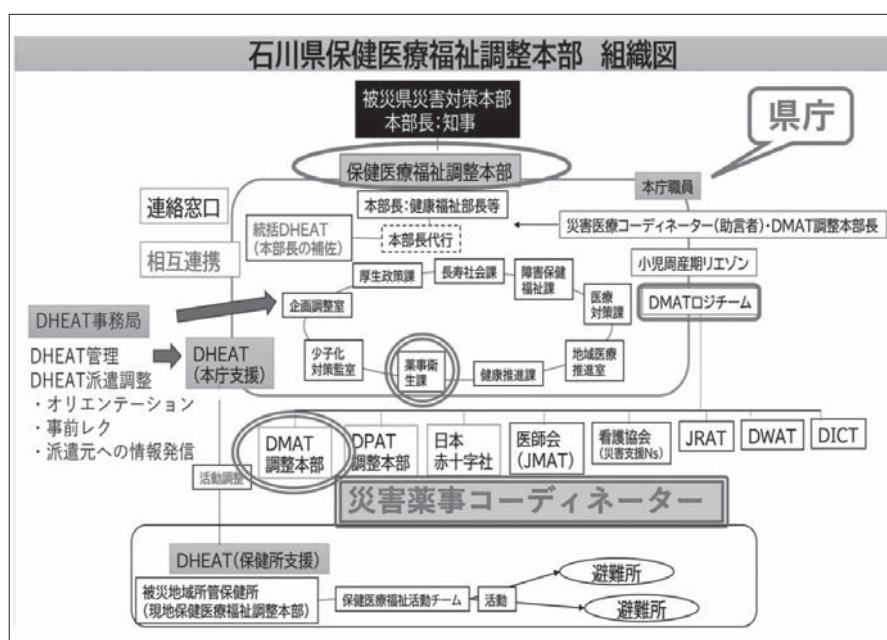
の病院薬剤部の支援を担ってもらいました。また、ほとんどのDMATチームには病院薬剤師が同行していました。

### (4) 石川県医療対策本部（災害薬事コーディネーター）

石川県庁の医療対策本部にDMATロジチームが設けられ、その傘下にDMAT調整本部があり、そこに大学病院や県薬の薬剤師が詰めて、災害薬事コーディネーターの役割を担い、県薬と調整しました。県薬では、課題調整に当たる担当者や現地でのリーダーが、災害薬事コーディネーターの役割を果たしていました。

### (5) 薬事衛生課

薬剤師会を所管する県庁の薬事衛生課とはお互い頻繁に連絡しあいました。被災直後にはOTC医薬品の調達と避難者への配布、モバイルファーマシーの出動要請が県薬にありました。薬剤師の宿泊所の確保にも尽力してもらいました。また、被災地への薬剤師の派遣等の活動について、薬剤師会が報告することにより、県災害対策本部の会議資料として被災地の支援活動に活用されて、情報共有の重要性が示されました。



## (6) 厚労省

厚生労働省が奥能登にある360か所余りの避難所へ届けるOTC医薬品の調達をはかりました。OTC医薬品の配布については、県薬チーム、都道府県チーム、石川県医薬品卸協同組合の他に、厚労省が依頼した日本チェーンドラッグストア協会が、奥能登に点在する避難所に届けました。

## 2 活動地域

### (1) 活動市町

珠洲市、輪島市、輪島市町野地区、輪島市門前地区、能登町、能登町柳田地区、能登町小木地区、穴水町の2市2町です。次に七尾市、志賀町の富来地区が加わって3市3町です。都道府県チームが柴垣本部を経由して、前のチームからの情報を引き継いで奥能登へ向かいました。

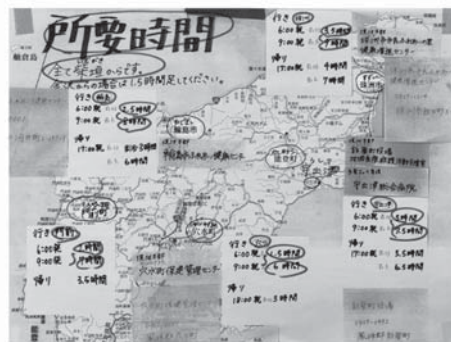


### (2) 情報提供

都道府県チームに柴垣から派遣先までの車での所要時間を情報提供しました。震災直後は、例えば、珠洲へは朝6時に出発すると3.5時間で到着可能でした。しかし、9時に出発すると自衛隊、警察、消防、医療チーム等の支援が多数に及ぶことによる渋滞があり、9時間かかることを知らせました。

被災状況については、奥能登には過去に

### 奥能登までの所要時間 石川県薬から



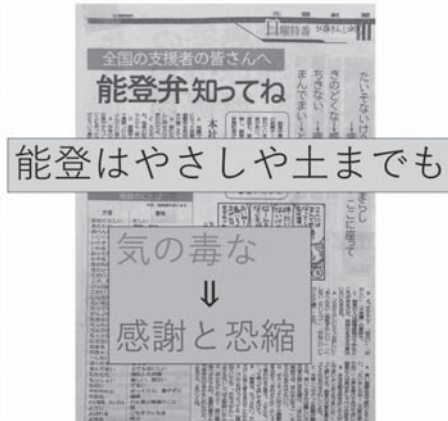
### 地域ごとの被災状況 石川県薬から

| <地域ごとの被災状況>                                        |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                                                                                             |  |
|----------------------------------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 輪島市                                                | 能登町              | 穴水町              | 志賀町              | 七尾市              | 富来町              | 中津町              | 1.5次避難所          |                                                                                             |  |
| 21,788<br>48,352                                   | 227-93人          | なし               | なし               | なし               | なし               | なし               | なし               |                                                                                             |  |
| 住民<br>過去、奥能登には15万人<br>現在、過疎化により5万人<br>その内3万人以上が避難所 |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  | 1. 世帯数、人口<br>2. 死者、重症、軽症<br>3. 全壊、半壊<br>4. 孤立集落<br>5. 停電戸数<br>6. 断水戸数<br>7. 避難所数<br>8. 避難者数 |  |
| 約5,200-5,100                                       | 約2,300-2,400     | 約710-210         | 約310             | 約1,100           | 約1,100           | 約1,100           | 約1,100           |                                                                                             |  |
| 約15,000<br>(過去全壊)                                  | 約4,800<br>(過去全壊) | 約2,200<br>(過去全壊) | 約1,100<br>(過去全壊) | 約1,100<br>(過去全壊) | 約1,100<br>(過去全壊) | 約1,100<br>(過去全壊) | 約1,100<br>(過去全壊) |                                                                                             |  |
| 149-137                                            | 49-47            | 43-35            | 38               | 28               | 41-40            | 2                | 2 (大規模、重<br>要施設) |                                                                                             |  |
| 6,335-6,226                                        | 3,170-2,796      | 1,809-1,710      | 1,769-1,761      | 1,718-1,741      | 1,130-1,107      | 52-41            | 239-237          |                                                                                             |  |

### 生活情報 DMAT 石川県薬から

| 項目      | 内容 |
|---------|----|
| 1. 宿泊   |    |
| 2. トイレ  |    |
| 3. 食事   |    |
| 4. ガソリン |    |
| 5. 交通状況 |    |
| 6. 通信   |    |
| 7. ゴミ   |    |

### 能登弁知ってね 石川県薬から



15万人住んでいましたが、過疎化により5万人に激減しており、そのうちの3万人以上が避難所にいることなどを説明しました。地域ごとに断水状況や避難者数などを提供しました。また、トイレなどの生活情報も提供しました。

能登は方言がきつく聞き取りにくいですが、意味が分かるように能登弁の一覧表も提供し、「能登はやさしや土までも」と言われる能登の人の気質を知らせ、避難所で頻繁に言われる「気の毒な」は、「感謝と恐縮」をあらわす方言だと伝えました。

### (3) 活動状況

#### 1) モバイルファーマシーの活動

1府11県1市の計13台のモバイルファーマシーが支援に来て、1月7日から2月25日まで活動しました。例えば、1月16日におけるモバイルファーマシーによる調剤は60枚です。2か月で、1,834枚

| 活動地域     | 都道府県<br>チーム | 1月16日(火)<br>処方箋枚数 |
|----------|-------------|-------------------|
| 珠洲市      | 広島県         | 29枚               |
| 輪島市輪島地区  | 静岡県         | 18枚               |
| 輪島市門前地区  | 宮城県         | 7枚                |
| 能登町宇出津地区 | 横浜市         | 2枚                |
| 穴水町      | 和歌山県        | 4枚                |
| 合計       |             | 60枚               |

| 処方箋枚数<br>1月 | 処方箋枚数<br>2月 | 処方箋枚数<br>合計 |
|-------------|-------------|-------------|
| 1205枚       | 629枚        | 1834枚       |

の災害処方箋が調剤されました。

#### 2) 薬剤師の派遣状況

1月10日には、珠洲市、輪島市、門前、能登町、穴水町の避難所やモバイルファーマシー、さらに珠洲市総合病院の薬剤部、宇出津総合病院の薬剤部などに75人の支援薬剤師が活動していました。1日でも多いときは100人を越えるときもありました。他にも薬局の支援や1.5次避難所、防衛省チャーター船、OTC医薬品の配布など、様々なところに支援が入りました。

薬剤師のすべての活動人数は、3か月で4,701人に及びます。能登では、1月3日に始まり、3月9日に撤退しています。奥能登への薬剤師の派遣者は、全部で2,443名になりました。1.5次避難所、2次避難

| 薬剤師<br>派遣地域      | 1月16日(火)<br>薬剤師数 |
|------------------|------------------|
| ①珠洲市             | 12人              |
| ②輪島市輪島地区         | 15人              |
| ③輪島市門前地区         | 9人               |
| ④能登町宇出津柳田地区      | 6人               |
| ⑤穴水町             | 13人              |
| ⑦1.5次避難所スポーツセンター | 3人               |
| ⑦1.5次避難所白山市総合体育館 | 1人               |
| ⑧珠洲市総合病院         | 2人               |
| ⑧宇出津総合病院         | 2人               |
| ⑧石川県立中央病院        | 1人               |
| ⑧石川県庁DMAT本部      | 1人               |
| ⑪県薬本部            | 10人              |
| 合計               | 75人              |

| 被災地       | MP派遣薬剤師会                                                                                | 派遣薬剤師数 | 災害処方せん枚数 |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------|
| 珠洲市       | 岐阜(1/7~1/13)、広島(1/14~2/20)                                                              | 123名   | 1,184枚   |
| 輪島市       | 三重(1/10~1/13)、静岡(1/14~1/25)<br>山梨(1/26~2/6)、三重(2/7~2/12)                                | 95名    | 172枚     |
| 輪島市<br>門前 | 宮城(1/14~1/17)、大阪(1/18~2/2)<br>徳島(2/3~2/6)、福岡(2/7~2/20)<br>和歌山(2/17~2/22)、八千代(2/21~2/25) | 129名   | 252枚     |
| 能登町       | 宮城(1/10~1/11)、横浜(1/12~2/5)                                                              | 108名   | 190枚     |
| 穴水町       | 和歌山(1/10~1/19)、鳥取(1/19~1/22)<br>宮城県(1/23~1/24)、福岡(1/25~2/3)                             | 73名    | 36枚      |
| 計         | 13台(延18台)                                                                               | 528名   | 1,834枚   |

| 薬剤師の派遣者数<br>1月 | 薬剤師の派遣数<br>2月 | 薬剤師の派遣数<br>3月 | 薬剤師の派遣数<br>合計 |
|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 2129人          | 2009人         | 563人          | 4701人         |

| 地域       | 活動開始日 | 活動終了日 |
|----------|-------|-------|
| 珠洲地区     | 1/3   | 3/9   |
| 輪島地区     | 1/4   | 3/4   |
| 門前地区（輪島） | 1/14  | 3/4   |
| 能登町地区    | 1/4   | 2/18  |
| 穴水地区     | 1/4   | 2/8   |

### 薬剤師の派遣状況

| 被災地 | 日薬スキーム<br>(薬剤師チーム・MPチーム)  | 石川県薬剤師会                | 計      | 支援内容                                                                                                                    |
|-----|---------------------------|------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 珠洲  | 567名<br>(444名 + 123名)     | 55名                    | 622名   | ◆モバイルファーマシー等での調剤及び服薬指導<br>◆医薬品使用に関する医師や看護部等へ情報提供<br>◆一般用医薬品の保管・管理及び被災者への供給<br>◆避難所における医薬品や健康に関する相談<br>◆避難所における衛生管理や環境管理 |
| 輪島  | 419名<br>(324名 + 95名)      | 223名<br>(内NphA 177名)   | 642名   |                                                                                                                         |
| 門前  | 400名<br>(271名 + 129名)     | 2名                     | 402名   |                                                                                                                         |
| 能登町 | 269名<br>(161名 + 108名)     | 3名                     | 272名   |                                                                                                                         |
| 穴水  | 247名<br>(174名 + 73名)      | 127名<br>(内富山27名、福井27名) | 374名   |                                                                                                                         |
| 志賀町 |                           | 58名                    | 58名    |                                                                                                                         |
| 七尾  |                           | 73名                    | 73名    |                                                                                                                         |
| 計   | 1,902名<br>(1,374名 + 528名) | 541名                   | 2,443名 |                                                                                                                         |

所には、900名が活動しています。災害対策本部には695名が活動しています。日本病院薬剤師会の派遣状況ですが、今回の震災が初めての派遣となり、合計572人が病院等に派遣されました。薬剤師はこれ以外にDMATや日赤チームにも含まれていますが、その人数は把握できていません。日薬スキームと石川県薬スキームに分けてありますが、日薬による都道府県チームが大変多かったのが分かります。あらためてお礼申し上げます。

## 3 活動内容

### (1) OTC医薬品

発災直後に県庁から依頼があり、石川県薬剤師会が準備したOTCを、2市2町に50セットほど配布しました。また、柴垣本部を設置した「国立能登青少年交流の家」の講堂を厚生労働省が主導したOTC

| 1.5次避難所等       | 日薬スキーム | 石川県薬剤師会 | 計    | 支援内容              |
|----------------|--------|---------|------|-------------------|
| いしかわ総合スポーツセンター | 147名   | 303名    | 450名 | ◆地方薬応需、お薬相談、服薬指導等 |
| 金沢ふれあい額谷体育館    |        | 304名    | 304名 |                   |
| 松任総合運動公園体育館    |        | 44名     | 44名  |                   |
| 小松市総合体育館       |        | 25名     | 25名  |                   |
| 防衛省チャーター船舶     | 77名    |         | 77名  |                   |
| 計              | 224名   | 676名    | 900名 |                   |

| 災害対策本部            | 日薬スキーム | 石川県薬剤師会 | 計    | 支援内容                        |
|-------------------|--------|---------|------|-----------------------------|
| 石川県薬剤師会<br>災害対策本部 | 130名   | 426名    | 556名 | ◆全体指揮（各地区への支援班の派遣や支援活動の調整等） |
| 柴垣現地本部            | 139名   |         | 139名 | ◆現地情報管理、宿泊管理、OTC医薬品の管理等     |
| 計                 | 269名   | 426名    | 695名 |                             |

### 日本病院薬剤師会の派遣状況

|    |                                              |      |
|----|----------------------------------------------|------|
| ※3 | 珠洲市総合病院、市立輪島病院、宇出津総合病院、公立あなみず総合病院            | 225人 |
| ※4 | 石川県済生会金沢病院、JCHO金沢病院、金沢赤十字病院、浅ノ川総合病院、石川県立中央病院 | 89人  |
| ※5 | 石川県庁本部内活動                                    | 245人 |
| ※6 | 各本部の本部内活動含む                                  | ？人   |
| ※7 | DMAT、JMAT、DPAT<br>日本赤十字社、ピースウィンズ・ジャパン        | ？人   |
| 合計 |                                              | 572人 |

医薬品の保管場所にして、360か所あまりの避難所にOTC医薬品を配布しました。発災直後の避難所においては、OTC医薬品の果たす役割は大きく、避難者に感謝されただけではなく、避難所の管理者にも大変喜ばれました。

OTC医薬品の管理に当たっては、複数の団体関係者が配布に協力したので、配布が重ならないようにグーグルフォームで配布済みの避難所を入力するようにしまし



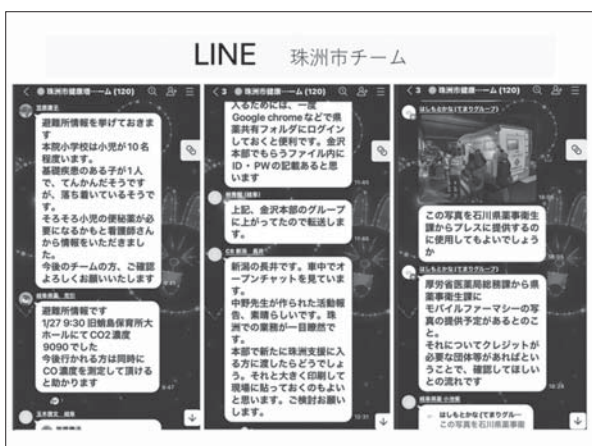
OTC医薬品の保管場所：柴垣本部





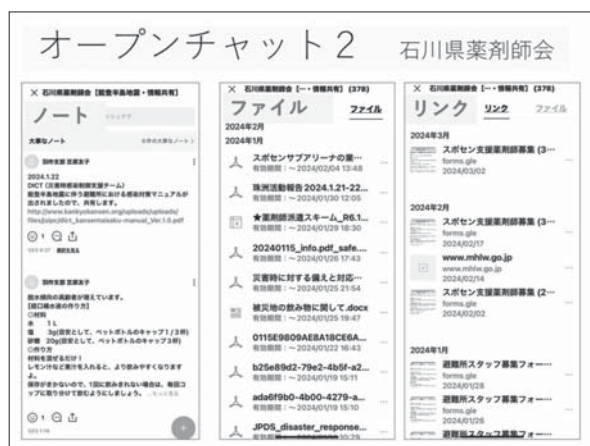
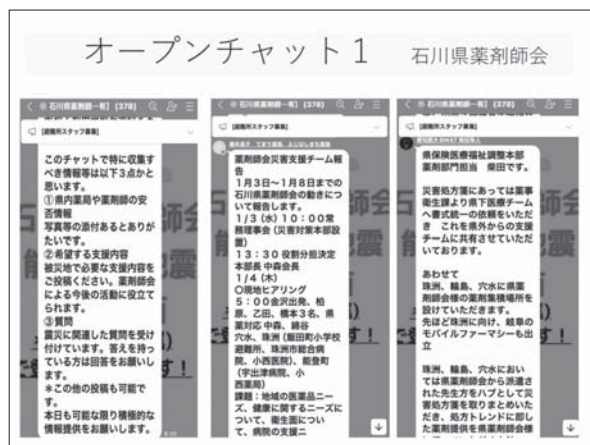
- ③LINEでチーム間の業務の引継ぎ、チーム内の業務連絡、派遣地域だけの情報交換に非常に活発に使用されました。LINEグループの一覧ですが、これ以外にも立ち上がっていました。

| LINEグループの一覧          |     |
|----------------------|-----|
| 石川県薬剤師会【能登半島地震・情報共有】 | 377 |
| 石川県薬 災害本部            | 181 |
| 日薬本部 石川県本部           | 13  |
| 1.5次避難所 薬剤師          | 46  |
| 珠州市健康増進センター 医薬品供給チーム | 80  |
| 輪島市MP-DMA T P hグループ  | 68  |
| NPha厚労省O T Cセット輪島在庫  | 5   |
| 門前1月18〜チーム           | 38  |
| 乙田先生-NPha連絡ページ       | 7   |
| 石川県災害薬事コーディネーター      | 8   |
| 石川県開局部会              | 16  |



- ④オープンチャットでは、ルールを定めて、情報交換、質疑応答、活動記録、県庁からの連絡等にも使用されました。また、オープンチャットのノート機能、ファイル機能、リンク機能も情報の整理

に役立ちました。



## 4 まとめ

- (1) 県薬の限られた人数で、どのように役割分担し、関係部署との連絡調整を図り、何ができるかを整理することが重要である。
- (2) 日薬には、県薬ではできないことを役割分担する。
- (3) 情報共有のためには、SNSを最大限活用する。
- (4) 県薬本部としては、現場にいる薬剤師を信頼し、地域ごとのやり方を尊重する。
- (5) 支援に入った際は、薬剤師としての信念に基づいて行動する。信頼出来る人に相談する。現場では協調する。
- (6) 思考や行動の柔軟性がないと対処できないこともあるので、できるだけ視野を広くして捉えることが必要である。

## モバイルファーマシーの運用開始と、 グーグルアカウントを活用した情報共有について

てまり西泉薬局 橋 本 佳 奈

令和6年能登半島地震の発災後、初めにモバイルファーマシー（移動薬局車。薬局の機能を備えたキャンピングカー。以下MP）が設置されたのは、珠洲市でした。薬局が1店舗もなく、医療ニーズが高い場所であり、石川県薬剤師会の副会長を務める私の母親の故郷でもあります。私は、災害支援の経験はありませんでしたが、橋本副会長と一緒に支援に行くことを決めました。

珠洲市は私にとっても思い出深い場所です。幼少期は、祖父に連れられて、寝惚け眼をこすりながら飯田港へ釣りに行きました。堤防に立って見渡す空と海は飲み込まれそうなほど青く、磯の香りが風に乗り漂い、鳥の声はどこまでも響きわたります。思い出が詰まった場所が一変した光景を目の当たりにすることは、とても哀しいことでした。

1月7日、岐阜県から薬剤師会、岐阜薬科大学の先生ら3名がMPを運転してきてくださり、計5名で珠洲市へ行きました。現地では、全国から支援のために集まった大勢の方々が、今そこにある命を守るために、できる限り迅速に、判断は冷静に、支援が途中で切れることのないように活動

していました。石川県民でも知らないような奥能登の地名が飛び交い、どうしたら救えるかの議論が白熱する光景に目頭が熱くなり、喪失感以上に医療従事者としての使命感を感じました。MPの体制を整えるため、私は翌日まで活動しました。

珠洲市の災害対策本部では、そこを拠点として活動する方のルールに関するオリエンテーションが実施され、グーグルアカウントを共有していました。刻一刻と状況や運用が変化し、人員が入れ替わる中で、グーグルドライブを活用した情報共有は、大変有用でした。

珠洲市から戻り、石川県薬剤師会事務局でも、同様にグーグルアカウントを作成し、災害関連の情報共有や報告体制の整備をすることになりました。このアカウントは災害に関わる薬剤師等がアクセスでき、災害支援のどの段階においても、大変役立ちました。

そして、支援に入った薬剤師からの活動報告のためのフォーマットを、グーグルフォームを用いて作成しました。その日ごとの状況確認はもちろんですが、あとから見返すことができるような、詳細の記録や写真を残しておくことは非常に重要です。





宮城県薬剤師会から共有していただいた、東日本大震災の災害支援の記録を参考に、フォーマットは、できるだけ簡便で、集計などが容易で、報告者によって報告事項に差がでないようなものにしました。写真の添付を依頼したことで、災害支援拠点から離れている石川県薬剤師会事務局においても、活動状況がよく分かりました。そのフォーマットは日本薬剤師会にも共有し、結果として、日本全国から支援にきた薬剤師全員が、そのフォーマットによって活動報告をしてくださいました。

活動報告については、「報告にあたり、記載例を示しておけたらよかった」「フォーマットに改善の余地があったが、途中で変更すると集計が煩雑になるため、できなかった」「リアルタイムでもっと活



用できる運用にすべきだった」「報告によって現場負担が大きかった」などの課題がありました。

しかしながら、そのような活動報告のフォーマットを作成し、運用できたことは、現地で体を動かして災害支援に携わる方々の軌跡を残すための仕組みづくりに貢献できたという点で非常によかったと思いますし、今後、全国のどこかで起こりうる災害に活用できるものと確信しています。「アートがどんなもんなんか知らんけど、能登の景色にはなんも適わんやろ。」

以前、私が奥能登国際芸術祭を観に行った際に、珠洲市に住む知り合いから言われた言葉です。これからも、美しい能登の復興のために、できる最大限の支援を続けていきます。

## 能登半島地震における薬剤師活動 ～次世代の薬剤師につなぐ想い～

白山ののいち支部 理事 直 田 弥 丈

能登半島地震においては約300人（関連死含む）の尊い生命が奪われ、いまなお多くの方が日常を取り戻せない状況で避難等を余儀なくされています。心から哀悼の意とお見舞いを申し上げます。

このたび1月中旬から2月下旬にかけて珠洲市の支援に携わらせていただきました。

県薬のボランティア薬剤師募集が始まり、エントリーするにあたり不安はありました。

それでも躊躇せずに応募できたのは、2011年東日本大震災の際に、当時の県薬副会長の中村正人先生に同行し宮城県の支援に参加させていただいた経験があったからでした。

今回の珠洲市での私の任務は①全国各地の薬剤師会から派遣されてお越しいただく先生方の活動の分担や調整 ②石川県薬と現地との調整や要望等の伝達 ③現地の災害本部にてDMATや保健師チームなどとの調整などでした。発災当初から1/15(月)まで珠洲市で支援を続けていただいた金沢市薬の村井先生から引き継ぎを行い活動が始まりました。

珠洲市における医療チームの支援拠点は、珠洲市健康増進センターに設置されており、センター内の1区画(検診等で利用されていた3部屋)が薬剤師班の活動場所兼衣食住の拠点となっていました。まず現地で行ったのは薬剤師拠点のゾーニングでした。3部屋あるので、1つ目は災害処方箋の調剤を主に行う部屋、2つ目は事務作業を行う部屋、3つ目は飲食のできる休憩室としました。ちなみに薬剤師の多い日は3つの部屋で10人程が寝袋で就寝しました。全国各地の薬剤師の皆さんとの懇親も楽しかったです(写真①)。

当初はモバイルファーマシーにて災害処方箋対応を行なっていました。1月中旬からは災害処方箋の枚数が一気に増えてきたので薬剤の種類も増加して、備蓄品目数は市中の薬局並みになり分包機も導入していただきました。まさに臨時調剤所のような感じでした。

その背景として、珠洲市総合病院および

市内医院はすべて院内調剤で、発災によりほとんどの医院で診療や投薬できない、また珠洲市総合病院も当初は入院患者対応のみで外来患者対応があまりできなかったことが挙げられます。※総合病院の人員が揃い外来患者対応ができるようになった2月頃からは災害処方箋枚数は減少しました。

珠洲市における災害処方箋の発行から調剤の流れは、DMATや自衛隊などの医療班が避難所等を巡回→センター内の本部(写真②)の所定の場所に災害処方箋を入れる→薬剤師が決まった時間に処方箋をピックアップし調剤実施→必要事項の記載漏れが多く医師に疑義照会を実施→翌日までに避難所ごとにお薬をまとめて医療班が持参というものでした。

本来ならば薬剤師班が避難所に赴きお一人お一人に服薬指導を行いたいところでしたが、1月中旬は本部から避難所まで自衛隊しかお薬を届けられないという場所もありました。

その際の対応として、石川県薬に専用携帯電話を依頼して準備していただき、患者様や医療関係者からの問い合わせ窓口を一箇所ですべて受けられるようにしました。

その後、道路状況が改善して薬剤師班の人員に余裕が出てきたので、避難所などに薬剤師がお薬を届けて服薬指導を行うスタイルに変わっていきました。薬剤師班では避難所を巡回してお薬を届けるだけではな



①福岡、岐阜、広島の薬剤師さんと休憩室にて



②医療班の災害本部 1日2回全体会議開催



③避難所にて処方されたお薬を届け服薬指導

く、患者様の目線で心情に寄り添うこと（写真③）や安心して服薬していただけるように配慮しました。

薬剤師班の重要な任務の一つが避難所の衛生環境の確保です。普段、学校薬剤師をされている先生方には馴染みのある環境検査も含まれます。基本的には薬剤師単独で活動せず保健師班など同行して行いました。避難所になっているのは各地の小中学校や保育所などが中心で、各教室で多くの方が生活されている状況でした。極寒の時期ということで教室内でエアコンに加えて石油ストーブを使用する所も多く見受けられました。避難所では、コロナやインフルエンザなど感染症が蔓延しており、二酸化炭素濃度測定（写真④）を行い数字で見いただき換気の必要性をお伝えして巡回しました。また、ノロウイルスなども一部で流行しており、トイレの衛生環境や断水下における手洗いやうがいなどのアドバイスも行いました。小学校を巡回している中で、養護教諭から子供たちに薬物乱用防止教室の開催依頼がありました。石川県薬の橋本副会長に授業を行なっていただき、こんな時だからこそその大切なお話を伝えていただき喜んでいただけました。

1月中旬に珠洲市の支援に行き嬉しく感じたことの一つは、各県から支援に来ていただいている若い薬剤師（20代後半～40代）が多いということ。きっと石川県内の



④避難所の衛生環境を確認するのも大切な役割

若い薬剤師さんも想いはあるけれど、平日に有給休暇を取得しての参加などハードルが高いのではと感じました。また1月中旬までは男性薬剤師のみで女性薬剤師が参加しやすい環境ではなかったとも感じました。そこで1月下旬～2月中旬には土日のみのボランティア募集を行い、女性でも衣食住に困らない環境を整えることができました。

結果的には県内の若い薬剤師（男女とも）さんにも珠洲市の派遣に同行していただけて、微力ですが次世代の薬剤師に想いをつなぐことができたと感じました。

最後になりますが、被災された能登地区の先生のお話をうかがうと「震災は全く終わっていない。まだ復旧も半ば、これから復興にむけた本番です」と仰っていたことが印象的でした。石川県内でも震災に関して温度差はあるので、これからも継続的にできる支援を続けていきたいと感じています。

そして、今後も全国各地で様々な災害は発生する可能性があります。その際に今回石川県が受けた恩を次の被災地に恩送りできるように準備することも大切。特に20～40代の先生方には災害薬事研修などにも積極的にご参加いただき備えていただきたいと思います。

## 令和6年能登半島地震で輪島市を担当して

石川県薬剤師会 常務理事・開局部会長 乙 田 雅 章

令和6年能登半島地震にて被災された方には心からお見舞い申し上げます。今回の地震で私が経験したことをお話いたします。

令和6年元日、近隣の医療機関の当番医で午前中薬局業務をしており、自宅で娘とテレビを見ているときに地震が起きました。これまでに経験したことのない揺れました。まず、娘と身の安全を確認しました。妻ともう一人の娘は初詣に出かけていたため、家には二人でした。家族の無事を確認しました。外に出たところ、ご近所さんも外に出てきており、消防団員が来たので津波の有無などを確認しました。

翌日から石川県薬剤師会ではオンライン会議が始まりました。「我々は何をしたらよいか。薬剤師は何ができるか。薬剤師会として何をすべきか。」状況を少しずつ集めながら会議は進みました。

そして、3日には県薬事務所に役員が集まり対策会議が行われました。そこで私からの提案です。「まず現地を見ましょう」その提案に全ての役員の賛成を頂き、柏原副会長、橋本副会長と私の3人で現地を見に行くこととなりました。

4日5時に3人で能登に向かって出発しました。報道、行政などの情報を頼りに行けるところまで行こうと車を走らせました。金沢から羽咋を過ぎた辺りから状況は変わり始めました。のと里山海道は道路に亀裂や段差が出始め、進めば進むほどひどくなっていきました。緊急車両のステッカーを貼っていたため徳田大津インターまで行き、そこからは下道です。悲惨な状況でした。地震による被害が目に見えます。道路は亀裂や崩落、建物が潰れて崩壊しています。運転が怖くなったことを



覚えています。周りは自衛隊、パトカー、消防など緊急車両ばかりで、初めて見る光景でした。7時に穴水町に入りました。穴水あおば薬局、河合薬局、公立穴水総合病院に伺い、原先生のお顔を見てほっとしました。その後、10時30分に珠洲市に着きました。家の倒壊や津波の被害を目の当たりにしました。避難所となっていた珠洲市立飯田小学校を訪れ、現状を確認しました。その後珠洲市総合病院、内科医院に伺い、状況の把握に努めました。それから能登町に入り小西薬局に伺い、宇出津総合病院の状況を確認しました。暗くなる前に帰路につきましたが、金沢に着いたのは21時頃だったでしょうか。

5日には石川県庁の災害対策本部に行き、現状を伝えました。5日、6日と石川県薬剤師会対策本部にて対策会議があり、7日、8日は自ら輪島市に入ることを提案しました。そして小松会営薬局の筒井先生と行くこととなりました。

石川県庁の災害対策本部から、輪島市役所に輪島市災害対策本部があり集積所は輪島市ふれあい健康センターであることを聞き、朝5時に待ち合わせして輪島市役所を目指しました。4日に珠洲市に行ったので

ある程度は状況を把握しているつもりでしたが、輪島市へ向かう途中の山の崩落は地震の大きさをさらに感じさせられました。そして輪島市の中心部に入ると家の倒壊、ビルの倒壊、道路の寸断などを見て言葉を失いました。

輪島市役所に着き、輪島市災害対策本部に行きました。そこは戦場でした。自衛隊がいて、DMAT、日赤、国土交通省他担当の方々がひしめき合い、それぞれの業務を行っていました。すさまじい人数が狭い部屋で戦っていました。DMATの薬剤師に会うことができ、現状を聞くことができました。それは輪島市のほとんどの方が避難所にいること、避難所の数が120カ所？とはっきりわからないほどとてつもない数であること、道路が寸断されているため孤立している被災者がいることでした。経験したことのない現状に何をしたいかわかりませんでした。DMAT 薬剤師がやっていることを聞いて、その後我々薬剤師がしなければならないことを考えました。その後輪島市ふれあい健康センターに行き、担当の保健師さんにお会いしました。東日本大震災で一度支援に行ったことはあるとは言え、私は名ばかりの災害対策委員であり、まともに訓練も受けたことはありません。考えても答えなど見つかるわけがありません。何をしたいかわからないのです。そして時間は過ぎ、その日は金

沢の石川県薬災害対策本部に戻りました。状況を伝達し、翌日以降の指示をもらおうと思いましたが、自分で考えてということでした。とりあえず、翌日も筒井先生と輪島に向かい、2人で何をするか考えながら行動しました。この日は薬局の現状を把握するために輪島菜の花薬局、輪島あおぞら薬局に伺い、現状をお聞きしました。また、避難所となっていた輪島中学校、輪島高校に伺い、OTCを届けました。そして再び金沢の石川県薬災害対策本部に戻りました。この時点でもまだ何が自分にできるか、何をしなければならないかわかっていません。指示を仰いでも答えは返ってきません。自分で考えるしかないのです。そんな時、石川県薬に2人の女性がいらっしゃいました。日薬の災害委員である伊藤先生とNPhAの災害対策委員の岡村先生です。輝いていました。やっと全国から我々の仲間が来てくれるんだとほんの少し希望が持てたような気がしました。翌日からの私の相棒は岡村先生となりました。

日が変わり、6時に石川県薬で待ち合わせをして、また輪島に向かいました。岡村先生の行動力には感心しました。感心している場合ではないのですが、一緒に輪島市災害対策本部へ行き、DMAT 薬剤師と打ち合わせをし、派遣される薬剤師がすることを相談しました。しかし、この時点ではまだ何人の薬剤師が輪島に入れるのかわ



かっていません。要望を聞くだけです。ふれあい健康センターでは「モバイルファーマシー」はいつ来るのか？と聞かれましたが、それさえもまだよくわかっていない状況でしたが、準備はしていると伝えるにとどまりました。この時点で、私がしなければならないと思っていたのは

- ①厚生労働省からOTCをすべての避難所に配布すること。
  - ②日薬からの派遣薬剤師の宿泊施設の確保。
  - ③あると思っていたら無かったので、ふれあい健康センターに集積所を確保すること。
  - ④モバイルファーマシーの駐車スペースの確保。
- くらいでした。

翌日は岡村先生と石川県薬からの先生にお願いして、門前地区に行ってもらいました。次の日、私も輪島に向かいました。

1月9日、モバイルファーマシーが輪島市ふれあい健康センターに到着し、稼働しました。熊本県薬の寺元先生をはじめ、日薬からの派遣薬剤師も来てくれました。ここから支援は大きく変わりました。何をしていたか迷っていた私をよそに、派遣薬剤師の先生方はご自身の判断でどんどん支援を進めてくれました。輪島市の保健師さんやDMAT、日赤など関係団体と積極的に連携をとり、支援を実行していただきました。私一人ではできないことがどんどん前に進みました。

ふれあい健康センターの課長さんに交渉して、震災後手つかずの物置を集積所として使うことができるようになり、そこに輪島市の地図を貼り避難所をプロットし、輪島市内の医療機関の状況、薬局の状況を一目で見られるようにしてくれました。

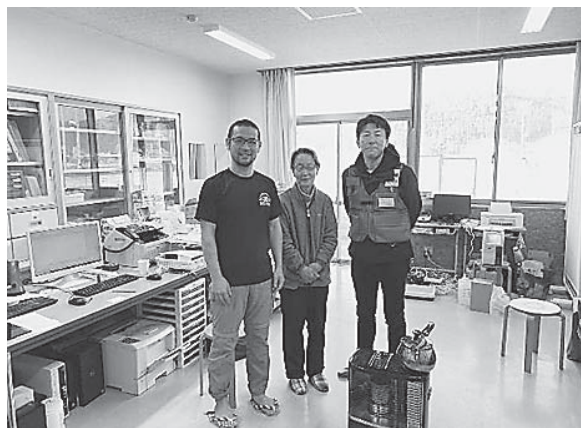
1月の3週目に入り、輪島市内の医療機関や薬局も少しずつ保険診療、保険調剤ができるようになってきました。また、遅いのですが、輪島市保健医療福祉調整会議に



出席するようになり、ようやく支援の状況が見えるようになってきました。輪島市内で石川県薬の薬剤師が来ているという情報があったようで、関係者から連絡をするように伝えていただいたおかげで会議に参加できました。この時点でも最初のミッションである輪島市の宿泊施設は確保できず、私は金沢から通うことを続け、日薬からの派遣薬剤師の先生方も羽咋市柴垣の国立能登青少年交流の家から通うこととなりました。当然かもしれません。輪島の町全体が地震の被害を受けているのですから宿泊できるところなどあるわけがありません。

調整会議に出ることにより、DMAT、日赤、地元医師会、歯科医師会、行政他関係支援団体と連絡を密にとれるようになりました。それから、必ず私がいない日でも薬剤師が出席するようになり、情報を正確に把握することができるようになりました。また、少し遅れて町野町、門前地区に行くことができました。

輪島市は医療のエリアから見ると3つの地区となります。旧輪島市内、門前地区、町野町です。この3つの地域でそれぞれ状況は異なります。旧輪島市内は中心部です。人口も多く、輪島市立病院、クリニック、保険薬局、ドラッグストアも数件あります。門前地区には2件の医院と2件の保険薬局があります。1軒の医院は震災直後から診療をしており、薬局もすぐに再開し



ました。町は崩壊状態ですが、医療は何とか継続できていました。しかし、避難所があちこちにあり一人の医師に負担がかかるということで、モバイルファーマシーが配備されました。町野町には1件の医院と1件の薬局がありましたが、両方とも全壊し、ともに避難所で仮の診療所と薬局として再開しました。町野は一人の医師が頑張っておられ、医療支援はいらないとのことで、DMAT、日赤はしばらくして撤退しました。しかし、薬局から支援要請があったため、NPhAの先生に2月いっぱい支援に入ってもらいました。NPhAの先生には避難所に宿泊してもらい、支援を継続していただきました。精神的にもとてもご負担だったと思います。感謝が絶えません。

このように、輪島市とはいっても3つの状況の違う地区を3月の撤退まで担当しました。私がしたことは、避難所に出向いての医療支援やモバイルファーマシーでの調剤業務、病院や薬局での調剤業務ではなく、薬剤師として情報を収集し、DMATや日赤、行政、地域医師会などと支援薬剤師をつなぐことでした。全国から来られた薬剤師の先生方は初めて来た地域で土地勘もなく、平時の医療状況もわからないのですから、先生方の力を発揮していただくための支援でした。私は震災支援の現場で支援薬剤師の先生方に「わからないことがあったら何でも電話してください。」と

言って電話番号を名刺に書いて配りました。行政や、地域医師会の先生、DMAT、日赤の方々には、「薬に関することで困ったら何でも電話してください。」と言って名刺を配りました。毎日何回も電話がかかりました。避難所の職員から「避難所でおなかが痛いと言っている方がいる。同じ薬はないか?」、DMAT医師、日赤医師から「災害処方箋はどこにもっていけばいい」「調剤してすぐ届けてほしい」「コロナの薬はあるか」、地元医師から「保険診療の患者負担はどうしたらいい」モバイルファーマシーから「すぐに欲しい薬があるがどうしたらいい?」などたくさんありました。

私のやっていたことが正解かわかりませんが、今回の災害支援で学んだのは情報の収集と的確にその情報を求める方に伝えることだと思いました。そのためにも継続して一人の担当者をそのエリアに配置することが必要だと思いました。2か月半の輪島市の支援は大変でもありましたがあっという間でもありました。今でも月に1回輪島市に行っています。震災前のようになるにはまだまだ時間がかかります。これからもできる支援を続けていけたらと思います。起こってほしくないですが、気候の変動などで災害はいつ起こってもおかしくないと思います。この経験が生かせるのなら、微力ですがどこかでお力になればいいなと思います。



## 令和6年能登半島地震 災害初動対応報告

能登北部支部 支部長 原 将 充

令和6年能登半島地震により亡くなられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、そのご家族や被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

発災から薬剤師支援チームが入るまでの急性期災害対応について何をしてきたか時系列で報告いたします。

【1月1日】16:10私はかほく市で家族とともに被災し直後大津波警報が発令されたためショッピングモールの2階に避難した。その後自宅と薬局のある穴水町に帰宅するか、こちらに留まるか、私1人で帰るか、家族も帯同するか選択することとなった。親族には強く反対されたが全員での帰宅を家族で決めた、が能登への動脈である「のと里山海道」の通行止めが想定されたので、高岡市、氷見市をぬけ七尾市から穴水町へ帰ることとした。道中住宅倒壊、がけ崩れ、橋の隆起による迂回が何か所もあり2日0:00に穴水町に到着した。町中が静まり返り光もなく真っ暗で、家屋が倒壊し道路が陥没するなど悲惨な状況でした。

すぐに自宅、薬局を確認に行ったが幸い

なことに建物の倒壊は逃れたが建物内は物が散乱し足の踏み場もなかった。電気、水道も止まっていた。余震も続いていた。何とか寝床を確保しいつでも逃げ出せるようにし横になった。

【1月2日】早朝から薬局へ向かい、散乱した薬局内を片付け始めた。6:00頃近隣の開業医から連絡があり安否確認と薬局が稼働できるかの連絡があった。

穴水町内では50か所以上の避難所が開設された、比較的中心部にある7か所の避難所を医師と共に巡回することにした。すべてには対応できないので血圧はCa拮抗薬、糖尿病はDPP4と決め5日緊急処方し調剤した薬剤をお届けした。甲状腺薬、ステロイドなどはなるべくいつも通りの物を調剤した。昼頃、石川県薬剤師会から状況の確認があった。支部では会員各位の安否確認は機能していなかったが県薬剤師会事務のみなさんが順次安否確認、開局状況など調べてまとめてくれました。大変感謝しております。

【1月3日】昨日と同じように避難所を





回り緊急処方を調剤し届けました。

消防、警察の緊急車両、自衛隊車が多く入ってきた。

【1月4日】穴水病院副院長、能登北部医師会、薬剤師会として私が参加し初めての穴水町医療調整会議が行われた。服用薬の現物、お薬手帳のある方にはできるだけ同じ薬が処方されはじめた。家族が体調を崩したため金沢へ行き、私ひとり残った。

【1月5日】薬局、自宅の家屋調査が入った。自衛隊の給水支援が始まった。電気が復活した。幸いなことにレセコンは稼働可能であったこと、薬局内の片付けが進んだことでいつも通りの服用薬での調剤、印字での薬袋作成が可能になった。お薬手帳での調剤依頼も増えてきており地域の開業医に事後処方せんを発行することの承諾をいただいた。

【1月7日】あいにくの積雪の中、薬剤師会支援隊1陣が穴水入りした。町と交渉し穴水町健康センターに拠点を置くことができ活動を開始した。以降2月8日まで石川県薬剤師会の先生方をはじめ全国から200名以上の先生方に穴水町に入っただき、避難所へのお薬の配達、衛生管理、モバイルファーマシーでの調剤、OTCによる健康管理、医薬品仕分けをご支援いた

だきました。誠にありがとうございました。地域住民、行政、医療機関に成り代わりまして御礼申し上げます。支援の皆様の温かいお言葉、励まし、ご助言は本当に心強くありがたかったです。以前の震災の恩返しに来られたと話される先生も多く胸が熱くなりました。また、被災地の支部長として手探りで災害対応している中「私も先生と同じ立場であったこと、無理しないしてほしい」とのお言葉をいただいたことは忘れません。以降は穴水町医療福祉調整会議への出席と地域医療の平時移行のため薬局を開けることへ注力することが出来ました。ちなみに水道は1月30日開通した。

さて、現在（6月末）穴水町では家屋の解体が急ピッチで進んでいます。飲食店もちらほら開店してきています。しかし震災の爪痕は甚大で4月には奥能登の小中学生が2割減ったとの新聞報道がありました。子どもは新しい学校に入ればまた戻ってくることはほぼない。以前から奥能登は2040年消滅する可能性が示唆されていたが、この震災で目の前に突き付けられました。今後、奥能登にて薬局、薬剤師会として薬のインフラをどのように支えるか関係各位と共助し尽力して参ります。皆様からの応援、ご支援いただければ幸いです。

## 正月におきた能登半島地震（羽咋支部のとりくみ？）

羽咋支部 支部長 平 場 啓一郎

令和6年1月1日昼 それは毎年あるごく普通の正月でした。大晦日の夜更かしをしたため10時頃にゆっくり活動を始めました。午後2時頃、毎年恒例の行事である気多大社まで歩いて往復2時間くらいかけてお参りに行ってきました。帰宅後、テレビをつけてくつろいでいたところ、午後4時10分に緊急地震速報が鳴り、音だけで「またか」と少し舐めていましたが、すると直ぐに立っていると振り落とされそうな揺れが続きました。直ぐに第2波の地震がおき自分では体感したことのないような揺れが強く長く続きました。でも、その時自分は倒れそうになる薄型テレビを抑えて何とか立っておりました。

その後直ぐにテレビから緊急地震速報が鳴り大津波警報が発令され、市民の皆さんが高台にある市役所に集まってきました。道路は渋滞し、市民の方々は着の身着のまま集まっておりとても寒かったのを覚えています。その周辺以外の場所はゴースタウンのようで、誰もいませんでした。私の薬局は比較的高台にあったので、自宅よりこちらに居た方が安全と思い、しばらくここで時間を過ごしておりました。すると近隣の疋島医師から、「今、市役所におる、何人かお薬を持たずに逃げてきた方もいるので、しばらく薬局におってもらえるか。」と連絡が入りました。それでも処方箋1、2枚だったと思いますが、お薬を持たずに逃げた方のお薬が処方されました。

ただ、当日の当番薬局には連絡がとれませんでした。あちら側から切られた感じで電話が終わりました。すこし残念な気分に

なり「こんなんで羽咋支部の当番薬局輪番制度は成り立っているのか」と感じました。

発災2日目、この日はたまたま当番薬局が当たっており、もしかしたら多くの患者さんが来られるのではないかとビビっていました。私ともう1名の薬剤師で当番薬局にあたる予定でしたが、金沢在住の薬剤師は勿論里山海道は通れず、下道でいつもの倍以上の時間をかけて薬局に来てくれました。その日の処方箋は30枚弱、地震の影響で外傷の方も多く来られました。

話は少し逸れますが、なぎさ薬局では大雪が降ったときの融雪のため昨年、井戸を掘りました。雪が降ったことで活躍したのは昨年2、3回だったのでしょうか？電動のポンプでくみ上げるものですが、発災後1週間ほど、羽咋市には水道が通っていませんでしたので、この井戸がとても役立ちました。トイレへの給水や近隣の方々の生活用水への活用など、はじめは融雪だけしか考えていなかったのですが、近隣の皆さんのお役に立てて喜んで頂けすごく感謝されました。

発災3日目も、疋島先生が頑張っておられ、避難所などから3枚ほど休日処方箋をいただきました。

翌週、富来の笠原先生より連絡があり、富来地区に薬剤師として支援に来てほしいと依頼がありました。炊き出しをしたいから紙の皿やラップなどあったら買ってほしいといわれましたが、すでに羽咋のスーパー・ホームセンターからはそういった商品は売り切れていました。1月7日（日）に薬剤師として笠原健招堂薬局（笠



原薬局)に朝から集合してました。そこでは県外からの薬剤師会の方3名ほどと小林先生、笠原親子、平場で避難所を巡回しました。

皆さん着の身着のまま逃げてきた方ばかりで、中にはペットがおり避難所の中には入れずインスリンが必要な方もいました。1週間ほどインスリンを注射してなく体調も悪そうでした。

とくに気になったことは、根本的に歯磨きもしてない方が多く、また喘息の患者さんが咳をすると周りの人から嫌がられる。ステロイドの吸入器を使っているが水が使えないのうがいができないなどいろいろありました。避難所の中にはコロナやインフルエンザ感染といった感染症も流行っており、一応隔離部屋が作られていましたが、とても衛生環境がいいとは言えない状態でした。

そんな中、笠原友子先生が用意したお薬のアンケート用紙をもらい、お薬の相談や残薬があとどれくらい残っているか、お薬手帳の無い方にはどこでお薬をもらっていたかなど確認を行いました。昼から笠原薬局に戻り、小林先生がオンライン資格確認等システムの緊急時医療情報・資格確認機能で、お薬手帳の無い患者さんの薬歴を調査していました。こんな状況でもアクティブ化のおかげで何を飲んでいるか分からな

い患者さんのお薬が分かり心強かったです。

帰りはだいぶ暗くなってから帰路につきましたが道が悪く見えにくい状態だったので大変でした。

2月12日に、石川県薬剤師会の応援ではくい薬局の村上先生、笠原健招堂薬局の笠原秀行先生と輪島に行ってきました。富来もひどかったですが、輪島も言葉を失うくらいひどく朝市の道路は焼け焦げた土地と鉄筋だけが残っていました。ふれあい交流センターに集まり、その時は東京都薬剤師会が主な担当だったので指示に従いました。仕事はコロナ感染も怖かったのでCO<sub>2</sub>モニターを利用して体育館の二酸化炭素の量を測定し換気が十分に行われているかと、災害処方箋で処方されたお薬を避難所に届けるといったところでした。その時は三重県薬剤師会のモバイルファーマシーが常駐しており、遠い中わざわざ輪島市民を助けていただきありがたかったです。午後からは県薬の乙田先生も合流して仮設住宅に救急箱を配ってまわりました。



羽咋支部からは私、村上先生、笠原先生以外に戸部先生、徳島先生にも行っただき、戸部先生と徳島先生には輪島だけでなく珠洲市にも行っただき羽咋支部としても誇らしいです。

最後に、私は、「バモスはくいソフトテニスジュニア」というチームで小学生を対

象にしたソフトテニスのコーチをしています。旧能都町や七尾市もソフトテニスが盛んなところですが、そのテニスコートが災害廃棄物の集積所になっていますし、金沢市のスポセンも1.5次避難所として利用されて続けています。うちのチームも、雨天時に使用している体育館が震災の荷物置き場で雨の日は練習できません。コロナからここ3、4年子供たちがスポーツをする機会が失われてきました。

そんな中、先日、内灘で「能登半島地震ソフトテニス復興イベント」が開催されま

した。多くのトップ選手が集まっていたので子供たちに教えてくれました。最後に、陸前高田市から「頑張ろう能登」とメッセージが込められた白いソフトテニスボール1ダースをいただきました。いまこの文書を書いていても涙がでるくらいありがたいです。石川県薬剤師会もモバイルファーマシーを作ろうか議論が持ち上がっていると思います。是非、この震災を機会に支援の輪を広げていく方向で進んでいただければと思います。

## 志賀町富来の支援から見た被災地における薬剤師の役割

かがやきクリニック／かがやき在宅診療所

北陸大学薬学部 みなし専任教員 小 林 星 太

元日の震災で最大震度7を観測した地区が2か所あります。1か所は皆さんご存じの通り輪島です。もう1か所をご存じですか？なぜかほとんど報道されないので知らない方も多いことでしょう。実は志賀町富来です。私は1月7日に富来の支援に入りました。「震度7」の威力は私の想像を絶する被害をもたらしていました。中でも被害の大きかった在所の1つ「領家地区」は多くの家屋が倒壊し、壊滅的な景色が広がり、ほとんどの住民の方が指定避難所に身を寄せていました。

そんな領家地区に店舗を構えるのが笠原健招堂薬局さんであり、発災後、富来地区で営業を続けていた“唯一”の保険薬局です。まさにこの町の薬事衛生を守る「最後の砦」。富来の住民約8,000人の薬事衛生はこの薬局1つに重くのしかかりました。しかも、この薬局の笠原友子先生と秀行先生（通称：ひでちゃん）は自らも大きく被災し、

店内はめちゃくちゃな状況。断水によりお風呂にも入れず（お二人ともまったく臭くはありませんでした）、十分な食事もとれない中で（本当は残っていたおせち料理で意外と贅沢できたという噂も…）、住民への医薬品供給や避難所の衛生管理を必死に守っておられました。今だから言えますが、とにかく大変な状況下、ぎりぎりの精神状態で頑張っておられたように思います。

1月7日、笠原先生が富来の避難所を巡回するため人手が必要とお申し出いただいたことから、私は県薬の派遣薬剤師として富来に向かいました（普段から県薬の仕事はろくにしていないくせに「ここは俺に行かせてくれ！」と図々しく理事の先生に頼み込んだことをこの場を借りてお詫びします）。避難所を巡ると、薬が切れたり残薬がわずかな避難者が大勢みつかりました。循環器疾患や呼吸器疾患の患者が薬を中断している状況を知り、まるで災害関連死の

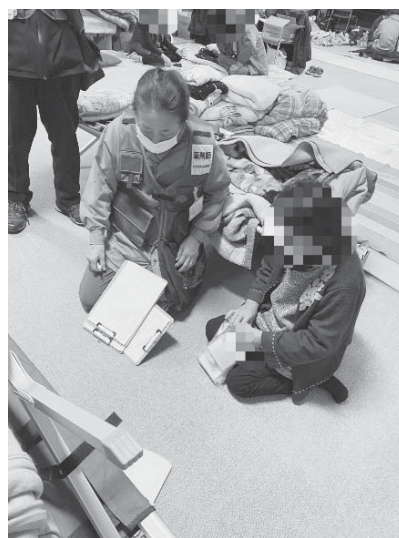
足音が聞こえてくるようでした。実は、無能な私は何も準備せずに富来に入ったのですが、笠原先生は避難者情報を効率よく集めるためのチェックシートを事前に作成されていました。そのおかげで巡回した薬剤師全員が統一した患者情報を迅速に集めることに成功したのです。笠原先生の綿密な作戦と準備がなければ私など何の役にも立たなかったでしょう。とにかく！薬に問題を抱えた避難者を丁寧に拾い上げ、1月1～2日に発出された「処方箋に基づかない保険調剤」（某報道の影響で皆さんが大変な思いをしたやつ）や「オンライン資格確認のアクティブ化」の特例通知をフル活用して避難者に薬を届けました。ところが…笠原親子はそれだけでは飽き足らず、避難

所のトイレや衛生環境の維持、炊き出し支援、避難者へのOTC供給などにも尽力されているのです!!私は初めて、薬剤師法第1条「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって…国民の健康な生活を確保する」を愚直に遂行する薬剤師をこの目で見ました（嘘です。本当はいつも地域で見かけています）。

今回富来にお邪魔して、災害時における薬剤師の果たす役割の重要性を知りました。復興は全く先の見えない状況ですが、1日でも早く能登に平穏な日常が戻り、いつかひでちゃんと一緒に世界一長いベンチに座り、富来男爵芋アイスに塩をかけて頬張りながら「あの時は大変だったね」と語れる日が来ることを祈っています。



笠原健招堂薬局にて



避難所にて被災者と面談



オンライン資格確認による患者情報の閲覧

## 石川県薬剤師会の災害対応と1.5次避難所の運営について

石川県薬剤師会 常務理事 伊 藤 昭 一

発災直後、石川県薬剤師会では災害対策本部を設置し、被災地域の薬局・病院・診療所の被害状況を把握し、医療提供の継続の可否を確認しました。また、石川県薬剤師会がどのように支援できるかを協議し、日本薬剤師会との連携や情報収集、発信などの対応を行いました。

1.5次避難所は、当初医療ニーズはないとされていたのですが、必要性が出てきたとのことで、1月末からは今回の災害で全国で初めて設置された「1.5次避難所」での対応を5月初めまで行い、その後は避難所からの質問等の対応に移行しました。県薬本部や1.5次避難所で災害支援を実施して感じたこと、注意事項、知識として知っていてほしいことは次のとおりです。

### 〈石川県薬剤師会災害対策本部の

#### 在り方について〉

- ・県の中央災害本部との情報の収集、伝達など連携が重要であるため、薬剤師会から派遣する人員の選定について  
→今回は、薬剤師議員である宇冢金沢市議がその役割を果たしてくれた。
- ・中央災害対策本部会議では、薬剤師会の活動状況等をどのようなフォーマットで何を伝えれば良いのか不明。
- ・DMATやJMATが入った際の診療について、災害診療か保険診療かを理解することが重要であり、避難所では、災害処方箋から保険診療への早期移行が求められた。
- ・モバイルファーマシー（MP）を手配するにあたって、法的な問題や条件、指示

命令系統の理解が必要。

- ・マスコミ対応の難しさと時間の取られ方に注意が必要。  
→「処方箋なしで薬がもらえる」という報道について、会員薬局や患者から直接薬剤師会へ電話の質問があり、回答に時間を要した。
- ・平時から若い人材や時間の取れる人、動ける人を確保し、研修や訓練が必要。
- ・県内からの支援薬剤師だけでは維持・継続が難しく、日本薬剤師会に全国からの支援薬剤師の手配を依頼。
- ・応援薬剤師の募集と受け入れコントロールは日薬の応援が必須（どこに・どのようなニーズがあるかの情報収集）
- ・国からのOTC送り込みに関して、事前の打ち合わせが必要。
- ・災害処方箋の金銭的な取り決めに早急に県とすり合わせ、金額等を県内薬局等へ周知する必要性。
- ・支援活動を行う薬剤師の補償保険をどの予算でだれが掛けるか。
- ・LINEのオープンチャット、各支援地域でのグループLINEの作成などSNSの利



用やGoogleドライブによる情報の共有、現地とのZOOM会議、クロノロジーによる情報共有と申し送りが大いに役立った。

- ・保険診療に関して、災害対応用の患者負担金の保留に対する問合せに対応。

#### 〈1.5次避難所での取り組み〉

- ・1.5次避難所は当初2～3日の滞在予定で、ダンボールベッドや簡易テントでの生活であったが、介護度の高い避難者のための介護ベッドの導入など時間経過とともに、医療ニーズの高まりに対応した。
- ・避難所は体育館のため電話回線がなく、FAX導入やWi-Fiの設置等通信環境の確保が重要であり、FAX導入により作業の効率化やオンライン資格確認による患者の保険情報や服薬情報の確保ができた。
- ・避難所全体会議や医療従事者間での介護・福祉・医療の連携会議、ケースカンファレンスなどへの参加による情報共有。
- ・初めは何もないところからスタートし、次第に様々な仕事が増えていく。同時に、避難者や支援者からの要求も増えてくる。緊急時には多少の行き違いは許容されるが、時間が経つにつれて正確性が求められ、それぞれの支援者団体からの要望も増えてくる。「避難所は生き物です（時間経過とともにニーズが変わる）」

- ・仕事を受ける際には、薬剤師班の撤収時のことを考えて、仕事量と内容をコントロールする。

#### 〈1.5次避難所での薬剤師の役割と仕事〉

- ・お薬手帳・薬剤情報・実薬などから、避難者の服用薬の確認。医療従事者に情報共有実施。
- ・オンライン資格確認を利用して、避難者の保険情報と服薬情報を入手し、医師・薬剤師・医療従事者と共有。
- ・避難生活が長引くとQOLが悪化し、自己管理が難しくなるため、一包化やお薬カレンダーを用いて服薬管理の支援。
- ・巡回診療で発行された処方箋を近隣の薬局に伝え、調剤を依頼し、必要に応じて疑義照会を行う。
- ・発行された処方箋を適切に管理。処方情報を避難所内の患者カルテにセット。
- ・避難生活が長期化し、残薬が少なくなった場合、次回の処方箋について医師へ処方依頼実施。
- ・納品された薬剤を確認し、配薬用のセットを作成。
- ・OTC薬での対応相談。
- ・OTC薬や衛生雑貨の在庫の管理と注文。
- ・避難所の環境を定期的に検査し、衛生状態の確保。
- ・支援に来る薬剤師に対して、薬剤師の仕



事内容の説明（動画を作り見てもらうことで時間の短縮）。

石川県薬剤師会の災害対策本部と1.5次避難所での経験を通じて、災害時における薬剤師の役割や業務の重要性、情報共有の

方法、支援薬剤師の効果的な活用方法など、多くの学びが得られました。これらの経験を基に、今後の災害対応においても更なる準備と改善を図り、迅速かつ適切な支援が提供できるよう努めていきます。

## 能登半島地震における 県薬災害本部を中心とした災害支援活動に参加して

金沢市薬剤師会 理事 山 口 昌 也

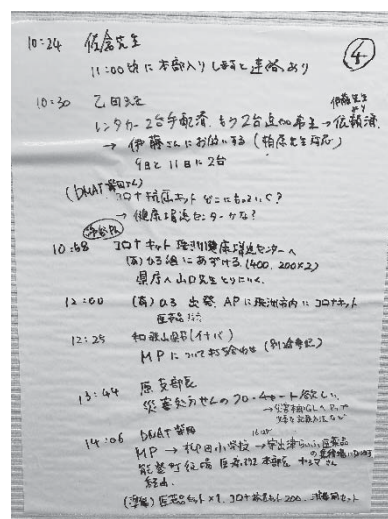
私は、2024年1月1日に発生した能登半島地震に関して、石川県薬剤師会内に設置された災害本部を中心に災害支援活動に参加しました。私自身はこれまで災害支援活動には参加したことがなく、今回が初めての経験となりました。

私が最初に災害本部にお伺いしたのは1月8日でした。前日に金沢市薬剤師会より連絡を頂いたことが、今回の参加のきっかけでした。この時点では、石川県薬剤師会の役員の方々が中心に活動されており、主に被災地と災害本部とに分かれて、今後の薬剤師による災害支援活動を始める準備をされている状況でした。災害本部では、朝から鳴り止まない電話対応に追われる役員方がおられ、また対応するマンパワーも絶対的に少なく、落ち着いて今後の活動に関する説明や話しを聞ける状況ではありませんでした。まずは物品の移動や必要物品の買い出しなど私でも動ける仕事を見つけて行動し、初日の活動は終了しました。

翌日以降は、活動初期の準備としてモバイルファーマシー（以下、MP）が被災地に入り活動するための準備をお手伝いしました。例えば、被災地までのルート上にあるガソリンスタンドの営業状況の確認し、

また県薬事務所から被災地までの所要時間を調べて、その情報を基に被災地での活動スケジュールの作成を行ないました。次にMPに搭載する医療用医薬品（以下、医薬品）の発注を行い、医薬品卸から入荷した医薬品をMP毎に積み込めるように準備して行きました。

他には、厚生労働省と日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）による、各避難所に届けるOTC医薬品（以下、OTC）の準備にも参加しました。場所は運送会社の倉庫を使い、総合感冒薬などの内服薬から湿布薬などの外用薬、消毒剤や絆創膏などの衛生用品などを段ボール箱に



県薬災害本部の壁に貼られたクロノロジー



で災害本部を中心に支援活動に参加しました。2月中旬以降は、1.5次避難所である金沢市額谷ふれあい体育館での支援活動に参加しました。

今回、このような災害支援活動に参加し、多くの経験や学びを得ることができました。その一つを挙げるとすると「柔軟な対応力」です。日常生活においても薬剤師として業務を行う上でも、様々なルールが存在します。今回の震災支援活動では、ルールの解釈の仕方それぞれの現場での対応が違ったと感ずることがありました。また、これまで阪神大震災や東日本大震災などを経験し、年々震災への備えも強化され、技術なども進化してきました。しかし、震災毎に状況が異なり、例えば能登半島地震だと、避難所の数が多く、道路が寸断され、海上ルートも困難など、輸送面で

かなりの困難がありました。特に発災直後はこのような影響が強く、例えばMPの活動時間が制約されたり、OTCが届けられないなどの問題もありました。ですので、もちろん備えや技術の進化だけでなく、その状況に合わせた柔軟な対応力が災害時には必要を感じました。

あと、災害本部での活動を通して感じたことは、「皆様からの支援の有難み」です。全国から薬剤師やMPが石川県に災害支援のために駆けつけて下さり、また各企業からは支援品や義援金、関係団体からは人材などを支援して下さいましたが、これらは今回の災害本部での活動を通して直接知ることができました。今後、もしこのような震災がどこかで起こった際には、今回の自身の活動経験が恩返しを含め少しでもお役に立てればと思います。

## スボセン1.5次避難所における 災害支援概要と活動現場で感じたこと

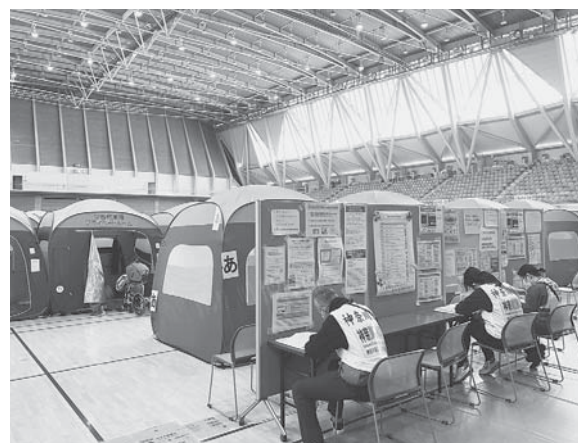
石川県薬剤師会 開局部会 常任幹事 北 一 晃

令和6年に発生した能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、ご遺族、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

石川県災害対策本部より、いしかわ総合スポーツセンターの1.5次避難所へ薬剤師派遣要請があり、県薬剤師会として派遣、活動して参りました。避難所概要と活動を通じて感じたことを紹介させていただきます。

1.5次避難所とは、水道、下水などインフラと役場、介護、医療施設職員も被災している状況のため、まずインフラ、人材と

も安定している金沢市に避難してもらい、数日で2次避難所（ホテル、借り上げ賃貸



1.5次避難所いしかわ総合スポーツセンター

物件など）に避難してもらう想定避難所として開設されました。基本的には数日で避難されるため、健康相談、OTC相談などをメインに活動しました。しかしながら、避難されて2週間経過しても2次避難先が決まらない方が増えてきました。

さらに、能登地区の介護施設から避難者も受け入れており、介護度が高い避難者も増えていました。医療ニーズがどんどん高まるなかではありましたが、金沢市ではDMAT、JMATによる災害処方箋は出せない状況で、体調悪化しても避難所で処置できるのは、厚生労働省から配布されたOTCのみで、緊急搬送するしかできない状況でした。

介護施設避難者はほぼ定期薬を服用されており、大量の持参薬剤が積みあがっている状況でした。医師、看護師のみで整理し管理するには人手が足りず、現場DMAT医師から相談を受け、対応を検討する必要がでてきました。

そして、長期滞在が増え定期薬がすでになくなっている、自力で通院できない避難者が多数みられ、自宅では問題なく生活できている方も、長期化によってADL、認知機能の低下が顕著にみられる高齢者の方も多くなり、服薬管理介入が必要となる

ことも多くなりました。さながら、日々の薬剤師業務での、病棟業務、個人在宅、施設在宅の患者をいきなり3～400人対応してくださいと言われたような状況でした。

その後、県立中央病院の診療所が避難所内に開設され、一般診療が可能になりましたが、対応としては定期処方の方の対応となりました。薬剤師会では金沢市内で応需薬局を募り、調剤を対応して頂きました。詳細な活動については今後、機会があれば報告させていただきます。

最も支援活動で大変と感じたことは、他職種との連携でした。1.5次避難所という全国でも初めての試みの避難所です。多岐の職種が派遣され、常駐して支援活動を行っていました。薬剤師以外に医師、看護師、保健師、理学療養士、介護士、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、介護医療分野以外にも県庁職員、総務省、YMCA（内閣府の委託で避難所現場統括）、観光旅行会社（2次避難所の案内など）、ボランティアなど100人以上が対応しており、情報共有など毎日のように会議を重ねていました。しかしながら職種ごとで県外応援派遣が3～4日で交代していきます。引継ぎはありましたが、人が変わればまた振り出しに戻り、現場で情報共有していかなければなりませんでした。

薬剤師が単独で対応したことで、他職種とトラブルとなったこともありました。日々の通常の薬剤師業務ができれば問題はないのですが、なかなかそうはいきません。カレンダーセットするにしても、1週間セットし、次は誰がするのか、1週間後には2次避難所に行かれている可能性もあります。カルテ、薬歴もないため、情報を誰からどこから得るのかも毎日変わっていききました。



保健師からの薬剤整理依頼

情報統制ができないため活動は限定的になっていきました。力及ばず薬剤師として職能を十分発揮できないことは苦渋の活動でありました。各職種が思うように活動できず疲弊感も日々重なっておりました。

以下に、熊本地震でも避難所運営統括されていた方が、長期化する避難所運営に向けてまとめた文書？つぶやきです。支援者としての心得を平易なことばでまとめられていたので紹介させていただきます。

### 避難所運営で私たちが大切にしたいこと (YMCA) 松田のつぶやき

- ・ 非日常である避難所の活動では、日常での100点満点は目指せないし、目指さないでいきましょう。何事も50点取ればOKで、60点を取れば最高。そんな温度感をもとに支援を考えていけるとよいですね。
- ・ 被災したくて被災した方はいないし、避難者になりたくて避難所に来た人はいないはず。震災までは日常があったことを忘れず、避難されている方の尊厳を

大切にしていきたいと思うのです。

- ・ 一つとして同じ災害はなく、すべては違う災害です。過去に成功した事例は参考にはするけれど頼りきらないようにしたいものです。
- ・ 自分たちができていないことを指摘して数えるより、できていることを認めて数えていくことを大切にしたいなと思います。
- ・ それぞれのチームの専門性や得意なことをできるだけ発揮するには、チーム同士の連携が何よりも大切になってきます。
- ・ 避難所運営では、情報をできるだけオープンにして、チームの情報格差を極力少なくすることを目指すと思います。

薬剤師として職能のみ発揮すればよいことではなく、当事者の尊厳を大切にしながらどこまで手を指し伸ばせるのか、各職種と連携しながら活動していくために必要な心得かと思います。今後も仮設住宅や避難所での生活、食事、気候変化などによる災害関連死のリスクが懸念される中で、長期的な支援が求められます。これからもこの心得をもとに、被災地の方々が早期に日常生活に戻り、健やかな暮らしを送れるよう、復旧・復興に向けて支援していきたいと思っています。

#### 避難所運営で私たちが大切にしたいこと

(YMCA 松田のつぶやき)

- ・ 非日常である避難所の活動では、日常での100点満点は目指せないし、目指さないでいきましょう。何事も50点取ればOKで、60点を取れば最高。そんな温度感をもとに支援を考えていけるとよいですね。
- ・ 被災したくて被災した方はいないし、避難者になりたくて避難所に来た人はいないはず。震災までは日常があったことを忘れず、避難されている方の尊厳を大切にしていきたいと思うのです。
- ・ 一つとして同じ災害はなく、すべては違う災害です。過去に成功した事例は参考にはするけれど頼りきらないようにしたいものです。
- ・ 自分たちができていないことを指摘して数えるより、できていることを認めて数えていくことを大切にしたいなと思います。
- ・ それぞれのチームの専門性や得意なことをできるだけ発揮するには、チーム同士の連携が何よりも大切になってきます。
- ・ 避難所運営では、情報をできるだけオープンにして、チーム間の情報格差を極力少なくすることを目指すと思います。



青森、山口県の先生方と

## 令和6年能登半島地震二次避難所での活動について

白山ののいち支部 副支部長 松 本 暁 人

2024年元日に起きた能登半島地震において白山市・野々市市では中学生の集団避難受け入れや宿泊施設等避難者の受け入れが行われました。その中の一つ白山市松任総合運動公園二次避難所の運営に関わらせていただきました。

松任総合運動公園二次避難所は最大700名受け入れ可能な白山野々市エリア最大の避難所として白山市主導で設置されました。1月13日に白山ののいち医師会・白山市健康福祉部の方々と最初の会議が行われ、連日避難者の安心安全をどのように確保するか協議しました。避難者が来てからも医師会・市職員を中心に、看護師やボランティア、DMAT、JMAT、他県からの保健師等々日に日に関係者も増え様々な職種の方と関り連携させてもらいました。

薬剤師としての主な活動内容は服用している薬剤と残薬の確認、医師診察同行、災害処方箋対応、避難者・保健師・看護師からの相談受付、OTCの管理、お薬カレンダーへのセット、衛生管理・感染症対策、運動栄養管理指導等々薬だけにとらわれず多様な関わりが出来たと思います。

運営に関して薬剤師会白山ののいち支部では以前より白山ののいち医師会・白山市役所・野々市市役所と災害対策会議を行っており、今回の避難所設置に尽力された白山ののいち医師会会長を務める松葉明先生、理事の津山博先生とは何度も災害時の医療体制について東日本大震災や熊本地震の情報を共有し対策を協議していました。その中で作成したグーグルフォームを用いた各薬局の被害状況・開局状況伝達ツールは今回の震災で早速活用する事が出来ました。

白山市健康福祉部職員とは災害対策会議だけでなく、コロナワクチンの充填や白山市健康福祉フェア等以前より薬剤師会と親密な関係があり、この様な関係を災害前に築けていた事が今回の連携をスムーズに出来た大きな要因だと思います。

被災され避難された方々は気持ちの整理も出来ず家や地域の不安を残したまま来られた方がほとんどでしたが、市と医療がワンチームでまとまれた事や、孤立集落ごとの避難受け入れのため知らない場所でも顔見知りの人と避難出来ていた事、能登町にある就労支援事業所「やなぎだハウス」より聴覚障害者とその家族の受け入れのため手話通訳のボランティアが常にいた事は少しでも心のケアに繋がったのではないかと思います。

今回、薬剤師として必要としていただき関わる事が出来た事、貴重な体験をさせていただきました。避難者のため活動し関わったつもりでしたが関わった人全員の力強い姿に元気づけられました。何よりも人と人との繋がり有難さを実感しました。

力足りない時も多くあったかと思いますが、今回の活動を通して少しでも避難者の気持ちに寄り添う事が出来ていたのであれば幸いです。

3月末で医師会・薬剤師会の定期的なボランティア活動は終了しましたが6月5日の時点では11名の方がまだ避難生活をしています。能登の復興まで道のりは遠くまだまだ支援を必要としている方がいます。これからもさらに薬剤師として自分の出来る事を、より大きな地域の輪の中で、より親密な関係を築く事が出来ればと思います。

## 加賀支部における支援活動について

加賀支部 支部長 北 出 清 明

このたびの能登半島地震により、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

加賀市のホテル・旅館等は、被災地の避難所等からの避難民を受入れ「2次避難所」となりました。加賀支部は、加賀市被災者受入支援連絡協議会に参加し医療支援活動に協力しましたので報告します。

### 令和6年1月1日（月）

16時10分：石川県能登地方で最大震度7の地震が発生。加賀地方でも震度5強の揺れを観測。

### 令和6年1月2日（火）

会員35薬局に電話で、1月4日（木）から通常営業できない薬局は、1月5日（金）までに支部長あてにFAXを流すよう依頼。

結果、全薬局が1月4日（金）から営業可能との連絡があった。

### 令和6年1月9日（火）

支部長の北出が「令和6年能登半島地震加賀市被災者受入支援連絡協議会の発足会」に参加。

### 令和6年1月11日（木）

加賀支部役員会を開催し、2次避難者への加賀市からの支援要請について全員一致で協力することを決定。

加賀市に団体連絡登録票を提出。

医師に対して、処方箋に災害処方箋とわかる㊟を入れてほしい旨を要請し、医師会にも伝達。

### 令和6年1月19日（金）

支部会員に対して、2次避難所の被災者

への調剤薬配達の「可・不可」をFAXで確認した。8薬局が配達不可。

### 令和6年1月25日（木）

「被災者受入支援連絡会連携会議」に参加。

場 所：加賀市医療センター

参加者：加賀市健康課職員、加賀市医師会、薬剤師会（支部長、副支部長2名、相談役1名）

内 容：被災者の受入れ状況について意見交換

- ・被災者へのアプローチ

- ・連携した支援の在り方

- ・薬剤師への正式な依頼の

FAXは後日加賀市より届く

### 令和6年1月26日（金）

県医薬調整本部の中出薬剤師（金沢大学附属病院薬剤部）より連絡があり、「ホテル百万石」の2次避難者への医療体制について現状報告。

- ・「ホテル百万石」には500～700名の2次避難者が宿泊し、JMATが災害処方箋を発行していた。

### 令和6年2月14日（水）

加賀市健康課から以下の連絡：

- ・医師会より、先発医薬品と後発医薬品の対比情報の依頼。

- ・さらに、避難者リストの薬剤情報を作成し、薬剤情報の後発医薬品名については先発医薬品名も記入してほしい旨の依頼。

- ・41名の情報をオンライン資格確認情報システムに接続し、災害時医療情報を閲覧して、医師会の要望に対応した処方名をプリントアウト。

〈オンライン資格確認システムと災害  
時医療情報システムは非常に役立った。〉

令和 6 年 2 月 22 日（木）

加賀薬セミナー（加賀支部研修会）開催。  
・これまでの経緯を全員に伝え、加賀市  
から薬剤情報の依頼があれば対応する

ようお願いした。

以上が、石川県薬剤師会加賀支部による  
能登半島地震における支援活動の報告で  
す。まだ、避難所や2次避難所に避難され  
ている方が多くいますので、被災地の1日  
も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

## テキストマイニングを利用した、 震災支援活動時の情報分析について

薬剤師災害支援活動事業委員会 小松能美支部委員 永 井 博 人

今回の震災支援活動中では、いろいろな  
情報が県薬災害対策本部に寄せられまし  
た。デジタル化して残したものとして本部  
のホワイトシートに書かれた「クロノロ」  
とその日の活動目標となる「ミッション」、  
そしてSNSの「LINE」を利用した本部  
宛の情報をテキスト化したものを利用し、  
テキストマイニングという処理を行なっ  
て、時系列に頻出ワードを視覚的に現して  
検証してみました。

テキストマイニングとは、文章からなる  
データを単語や文節などの単位で区切り、  
それらの出現の頻度や共出現の相関、共起  
関係、出現傾向、時系列などを解析するこ  
とで有用な情報を取り出すテキストデータ  
の分析方法とされています。今回は、ユー  
ザーローカルさんのサイトを利用して、視  
覚的に頻度・相関性がわかるようにしてい  
ました。頻度が多いワードは大きく、相関  
性強さからは中央に来るようになっていま  
す。

1月3日から10日までの、テキストマ  
イニングを見ると、「MP（モバイルファ  
ーマシー）」、「DMAT」と、被災エリアの地名  
が大きく中央に寄っているかと思いま

す。支援物資としての「OTC」という  
ワードもあります。

1月11日から15日の情報を分析すると、  
「柴垣」というワードが中心に大きく出て  
きます。これは今回の震災で初めて金沢本  
部以外に、被災地へのアプローチを改善す  
る目的で現地本部を置くことになった地名



2024.01.03-01.10のテキストマイニング



2024.01.11-01.15

です。「国立」「青少年」というワードも、  
現地本部施設「国立能登青少年交流の家」  
からきていると思われます。もちろん被災  
地名や「MP」「OTC」「避難所」なども引  
き続き見られています。

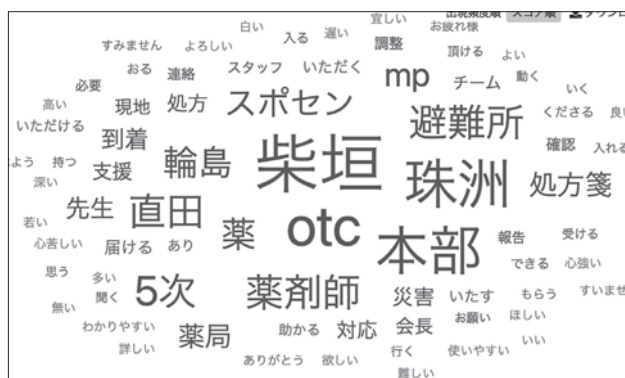
1月16日から20日までの情報を分析すると、現地本部地「柴垣」が中心となるのは変わらず、新しく「5次」と表記されるのが現れます。これは本来「1.5次」を指し、これもこの震災で初めて設置された、「1.5次避難所」を意味します。金沢に設置された1.5次避難所である「スポセン」というワードもで出現しております。

1月21日から25日になると、現地本部  
地「柴垣」が中心となるのは変わらず、  
「MP」「OTC」は中心にはあるものの小さ  
くなっており、「1.5次」の方が大きくなり  
ます。被災エリアでは、「珠洲」が大き  
くなっています。アプローチするのにどうし  
ても遠く、保険調剤薬局の無いエリアのた  
め、ある程度落ち着いて活動できている他  
エリアに比べ、各情報がまだ多いことを示  
しています。

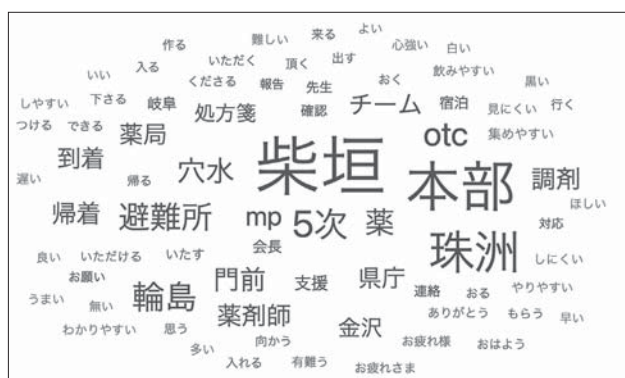
1月26日から31日では、また「OTC」が中央に大きく出ております。これは、プッシュ支援のOTCをどう撤収していくかという話題が出始めた頃となります。「1.5次」の「スポセン」の支援活動も、色々大変であり度々情報交換されているので、大きくなってるのだと思います。

テキストマイニングでは、情報の中にある頻出ワードを分かりやすく表示するもので、背後にどのようなことがあったかまでは把握できません。ただし、これらを時系列的に並べて比較することで、その時の情報の中心がどういうふうに変化していったのかを見ることができます。

今回はとりあえず、1月分の情報进行分析



24.01.16-01.20



24.01.21-01.25



24.01.26-31

してきたのですが、この震災支援活動では、SNS・クラウド・ZOOMなどデジタルツールが各種入って、支援活動している薬剤師どうして情報交換ができることで、プッシュ支援の撤収までが比較的スムーズに行えたのではないかと考えます。また、「1.5次避難所」や「現地本部の設立」などもこれまでの支援活動にはないスタイルであり、今後は今回の反省等を踏まえながら、また次の支援活動に活かしてほしいところです。

## 令和6年能登半島地震における医薬品卸の活動と課題について

明祥株式会社 執行役員 調剤部長 曾 山 大 輔

令和6年1月1日16:10 石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6 最大震度7の地震が発生致しました。

7月1日現在、石川県ホームページによると、石川県内の死者281名（災害関連死含む）、負傷者1,208名、行方不明者3名、住家全壊8,072棟、半壊16,808棟、一部損壊59,703棟と甚大な被害となっております。

このたびの能登半島地震でお亡くなりになられた方々に衷心からお悔やみを申し上げるとともに被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

その様な中でも県民の健康そして笑顔を取り戻すために、ご尽力されている全ての方々に敬意を表します。

被災地の皆様の安全、安寧と1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

### 【被害状況】

地震発生直後、最も懸念したことは七尾市にある七尾支店の状況でした。海沿いであるため津波の危険があることから社員には支店に近づかないよう指示を出しました。しかしながら、偶然、支店近くにいた社員から建屋の写真が送られ、建屋が無事であること、電気が通っている事を発災初日に確認することができました。この日は幹部数名が本社へ出向き、本社屋と物流センター内の被害状況を確認致しました。

幸いにも物流センター内の商品棚から商品の落下はありましたが、商品棚自体が崩れていることはありませんでした。しかも停電も発生しておらず、温度管理品についても品質は確保できている状態でした。もっとも懸念していた七尾支店についても

同様で、商品棚から商品の落下は相当数ありましたが、商品棚自体が倒れている状況ではなく、停電も発生していなかった為、温度管理品の品質も確保できている状態でした。

本社、支店の駐車場の亀裂や社屋、倉庫の一部損壊などの被害は発生致しました。

### 【初動対応】

翌2日午前9:00に社長を本部長とする災害対策本部を立ち上げました。まずは、従業員とその家族の安否確認、物流センター、各支店の建屋、設備、倉庫の被害状況確認と修復、お得意様の被災状況についての確認をするように支店長、部長へ指示を出しました。

この日は石川県からの要請を受けて、インスリンや抗生剤、鎮痛剤、破傷風トキソイドなどの緊急医薬品を被災エリアの医療機関へ配送に向かいました。道路状況など情報が全くない状況での配送となりましたので、社員の安全を第一に2人1組で配送に向かうこととしました。

輪島方面の医療機関にはなんとか2日中に医薬品を配送することができました。しかし、この日は降雨が激しく、帰社途中に



通行止めに遭遇し能登空港まで一旦引き返し一夜を過ごすこととなり、翌3日9:00頃に七尾支店へ帰社致しました。一方、宇出津方面の医療機関へ向かう途中、進行経路がなく警察の方からもSTOPの指示があり、2日中にお得意様へ辿り着けませんでした。一旦七尾支店へ帰社することになり、翌3日に再度配送に向かい14:00頃配送を終了することができました。

また、当社は在宅酸素チームを30年以上前から立ち上げております。地震発生直後から患者さんと機器の状況を確認するため、ご本人や施設に直接、連絡を取りました。また、停電しているエリアの患者さんの元へ酸素ボンベのお届けに走りました。

1月2日～3日については出社可能な社員の協力により、物流センター、各支店で商品棚から落下した商品及び社屋内の修復作業を行いました。1月4日から通常通りの営業、配送体制を整えるべく必死に作業を行いました。

#### 【受発注・電気・通信手段】

防災直後一部停電のエリアがありましたが、すぐに回復し停電の影響はほぼなく、受発注については大きな影響はありませんでした。しかしながら、被災エリアによっては通信障害により携帯電話がつながりにくく、1日ばかりで配送にでている配送員からの情報が寸断される状況もあり、通信可能エリアに入った際に電話をし、情報共有することを徹底しておりました。道路状況や通行可能な道路についての情報は、被災エリアへの医薬品配送において大変重要な情報であり、いち早く大勢の関係者で情報共有するよう努めました。

#### 【配送体制】

1月4日からは方面別に1日1便の医薬品配送ができる体制を整えることができ、



配送については、配送者の安全を最優先に2名1組で行いました。地震により道路の隆起、亀裂、土砂災害による寸断などの影響で、能登エリアでは渋滞が多数発生し、配送は1日ばかりで何とか帰社できるような状況でした。特に夜間や降雪時は視界も悪く時間を要し、帰社時間の予測もつかない危険と隣り合わせの状況もございました。

今回の震災では道路状況の復旧にかなりの時間を要したこと、また、道路状況や交通状況のリアルタイムな情報入手が非常に困難であった印象が強く、今後の課題であると思われます。

また、検査キット（コロナ、インフルエンザ）、消毒剤などを医療機関、避難所へお届けするとともに、支援物資もあわせてお届け致しました。特に被災エリアでの断水が長期間に渡り続いたため生活水、ポータブルトイレ等の物資は大変喜ばれました。生活水については、折り畳み式のウォータータンクが被災エリアの方々にも大変重宝がられました。

このような状況の中、七尾支店のメンバーだけで配送し続ける事は困難でした。体力的、精神的負担もあり、本社及び各支店からローテーションで七尾支店へ支援に入り、全社を挙げて被災エリアへの医薬品配送を行いました。（社員の安全確保最優先2人1組で配送）

【今後の課題】

まずは、実際の災害を想定し、現実在即した避難訓練の実施が不可欠であると感じております。今までも当社では災害訓練を実施していましたが、今回の震災を通じてどれだけ訓練が活かされたのかは課題が残りました。安否確認の運用、緊急連絡網

の改善、災害備蓄品の見直し、災害時の社内規程の周知徹底など様々な課題があげられますが、まずは今回の震災を振り返り、いつ起こるか分からない災害に備えて早急に1つ1つ課題を解決していく事が重要であると感じております。

薬剤師の活動状況について

石川県薬剤師会 副会長 藤 原 秀 範

令和6年能登半島地震では、日本薬剤師会をはじめ、日本病院薬剤師会、日本保険薬局協会、日本チェーンドラッグストア協会などさまざまな団体からご支援を頂き誠にありがとうございました。薬剤師の派遣は、5月16日の1.5次避難所額谷体育館を

最後に終了し、全国から4,759名の薬剤師が支援活動に参加しました。改めまして感謝申し上げます。モバイルファーマシーの活動状況や薬剤師の派遣状況は次のとおりです。

1/2: 石川県薬剤師会災害対策本部立ち上げ(10:00~)  
1/3: 石川県薬剤師会災害対策本部会議(常務理事以上、本部長 中森 慶滋)(10:00~)

1.モバイルファーマシー(MP)活動状況(災害処方せん受付け枚数)

|   |                     | 1月計    | 2月計  | 1,2月合計 | 3月計 | 1,2,3月合計 |
|---|---------------------|--------|------|--------|-----|----------|
| ① | 珠洲地区 [岐阜1/7~1/13]   | 241枚   |      | 241枚   |     | 241枚     |
|   | [広島1/14~2/18]       | 433枚   | 510枚 | 943枚   |     | 943枚     |
| ② | 輪島地区 [三重1/10~1/13]  | 38枚    |      | 38枚    |     | 38枚      |
|   | [静岡1/14~1/25]       | 106枚   |      | 106枚   |     | 106枚     |
|   | [山梨1/26~2/6]        | 22枚    | 2枚   | 24枚    |     | 24枚      |
|   | [三重2/7~2/12]        |        | 4枚   | 4枚     |     | 4枚       |
|   | 門前地区 [宮城1/14~1/17]  | 42枚    |      | 42枚    |     | 42枚      |
|   | [大阪1/18~2/2]        | 100枚   | 17枚  | 117枚   |     | 117枚     |
|   | [徳島2/3~2/6]         |        | 36枚  | 36枚    |     | 36枚      |
|   | [福岡2/7~2/20]        |        | 41枚  | 41枚    |     | 41枚      |
| ③ | 能登町 [宮城1/10~1/11]   | 112枚   |      | 112枚   |     | 112枚     |
|   | [横浜1/12~2/5]        | 75枚    | 3枚   | 78枚    |     | 78枚      |
| ④ | 穴水地区 [和歌山1/10~1/19] | 15枚    |      | 15枚    |     | 15枚      |
|   | [鳥取1/19~1/22]       | 14枚    |      | 14枚    |     | 14枚      |
|   | [宮城1/23~1/24]       |        |      |        |     |          |
|   | [福岡1/25~2/3]        | 7枚     |      | 7枚     |     | 7枚       |
|   |                     | 1,205枚 | 629枚 | 1834枚  |     | 1,834枚   |

MP派遣薬剤師会: 1府11県1市13台(岐阜県、三重県、宮城県、和歌山県、横浜市、静岡県、広島県、大阪府、鳥取県、福岡県、山梨県、徳島県、千葉県(八千代))

2.モバイルファーマシー(MP)医薬品供給状況

MPに医療用医薬品1セットを積載し現地で処方 ※1  
医薬品累積供給件数  
12セット(消費医薬品は、適宜補充)

3.OTC医薬品発出状況

- ① 石川県薬剤師会のOTC医薬品の設置  
珠洲、輪島、穴水に各1セット配布(1/7)
- ② 厚生労働省の能登北部避難所等に設置予定のOTC医薬品  
364セット(1/12柴垣本部搬入)※2  
・160セットは、日本チェーンドラッグストア協会が設置予定  
93セット(1/26現在)能登北部避難所に設置済み  
・204セットは、卸会社等に依頼し設置予定  
41セット(1/20現在)1.5避難所\*等に設置済み  
\*1.5避難所(スポセン9セット、松任5セット、小松1セット)
- ③ 製薬メーカーから寄付のあったOTC医薬品の設置  
輪島、珠洲、穴水、能登町(1/11)  
珠洲、輪島、穴水、能都町に配布(1/13)

4.薬剤師派遣状況

R6.5.30時点 石川県薬剤師会

|                                               | 1月計   | 2月計   | 1,2月<br>合計 | 3月計 | 1,2,3月<br>合計 | 4月<br>小計 | 1,2,3,4月<br>合計 | 5月<br>小計 | 1,2,3,4,5月<br>合計 | 備考                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------|-------|-------|------------|-----|--------------|----------|----------------|----------|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 珠洲                                          | 293   | 286   | 579        | 43  | 622          |          | 622            |          | 622              | ・モバイルファーマシー等での調剤及び服薬指導<br>・医薬品使用に関する医師や看護師等への情報提供<br>・一般用医薬品の保管・管理及び被災者への供給<br>・避難所における医薬品や健康に関する相談<br>・避難所における衛生管理や環境管理 |
| ② 輪島                                          | 304   | 322   | 626        | 16  | 642          |          | 642            |          | 642              |                                                                                                                          |
| ③ 門前                                          | 131   | 250   | 381        | 21  | 402          |          | 402            |          | 402              |                                                                                                                          |
| ④ 能都町                                         | 177   | 95    | 272        |     | 272          |          | 272            |          | 272              |                                                                                                                          |
| ⑤ 穴水                                          | 319   | 53    | 372        | 2   | 374          |          | 374            |          | 374              |                                                                                                                          |
| ⑥ 志賀町                                         | 20    | 25    | 45         | 13  | 58           |          | 58             |          | 58               |                                                                                                                          |
| ⑦ 七尾                                          | 18    | 26    | 44         | 29  | 73           |          | 73             |          | 73               |                                                                                                                          |
| ①～⑦被災地計                                       | 1,262 | 1,057 | 2,319      | 124 | 2,443        |          | 2,443名         |          | 2,443名           |                                                                                                                          |
| ⑧ いしかわ総合スポーツセンター(1.5次避難所)                     | 105   | 244   | 349        | 101 | 450          | 37       | 487            |          | 487              | 処方箋応需、お薬相談、服薬指導等                                                                                                         |
| ⑧2 松任総合運動公園体育館(1.5次避難所)                       | 26    | 18    | 44         |     | 44           |          | 44             |          | 44               |                                                                                                                          |
| ⑧3 金沢市ふれあい額谷体育館(1.5次避難所)                      | 61    | 128   | 189        | 115 | 304          | 17       | 321            | 4        | 325              | 額谷体育館は、5月16日をもって活動終了(待機態勢は5月30日まで)                                                                                       |
| ⑧4 小松市総合体育館(1.5次避難所)                          | 25    |       | 25         |     | 25           |          | 25             |          | 25               |                                                                                                                          |
| ⑧5 防衛省チャーター船舶「はくおう(被災者)」、<br>「ナツチャン(災害支援派遣者)」 | 26    | 51    | 77         |     | 77           |          | 77             |          | 77               |                                                                                                                          |
| ⑧1.5次避難所等計                                    | 243   | 441   | 684        | 216 | 900          | 54       | 954名           | 4        | 958              |                                                                                                                          |
| ⑨ 能登北部二次医療圏内の病院薬剤部を支援している薬剤師 ※3               | 84    | 108   | 192        | 46  | 238          |          | 238            |          | 238              | 病院薬剤部の支援                                                                                                                 |
| ⑨2 能登北部二次医療圏以外の病院薬剤部を支援している薬剤師 ※4             | 33    | 55    | 88         | 1   | 89           |          | 89             |          | 89               |                                                                                                                          |
| ⑨3 病院薬剤部を支援している薬剤師 ※5                         | 87    | 105   | 192        | 53  | 245          |          | 245            |          | 245              | 病院薬剤師災害派遣の支援                                                                                                             |
| ⑨病院薬剤部支援計                                     | 204   | 268   | 472        | 100 | 572          |          | 572名           |          | 572              |                                                                                                                          |
| ⑩ 日本チェーンドラッグストア協会等                            | 91    |       | 91         |     | 91           |          | 91名            |          | 91               | OTC医薬品の配置                                                                                                                |
| ⑪ 柴垣現地本部(医薬品物流拠点)                             | 52    | 68    | 120        | 19  | 139          |          | 139            |          | 139              | OTC医薬品の管理配送準備                                                                                                            |
| ⑫ 石川県薬剤師会災害対策本部                               | 339   | 153   | 492        | 64  | 556          |          | 556            |          | 556              |                                                                                                                          |
| ⑪～⑫災害対策本部等計                                   | 391   | 221   | 612        | 83  | 695          |          | 695名           |          | 695              |                                                                                                                          |
| ⑬ DMATに参加している薬剤師 ※6                           | 集計中   | 集計中   |            | 集計中 | 集計中          |          | 集計中            |          | 集計中              | 医療チームの避難所への巡回診療への同行、<br>調剤、服薬指導、病院薬剤部の一時支援                                                                               |
| ⑭ JMAT等、その他チームに参加している薬剤師 ※7                   | 集計中   | 集計中   |            | 集計中 | 集計中          |          | 集計中            |          | 集計中              |                                                                                                                          |
| 計                                             | 2,191 | 1,987 | 4,178      | 523 | 4,701        | 54       | 4,755名         | 4        | 4,759名           | 累計 4,759名                                                                                                                |

1北海道、2青森県、3岩手県、4宮城県、5山形県、6福島県、7栃木県、8群馬県、9埼玉県、10千葉県、11東京都、12神奈川県、13新潟県、14富山県、15福井県、16山梨県、17長野県、18岐阜県、19静岡県、20愛知県、21三重県、22滋賀県、23京都府、24大阪府、25兵庫県、26奈良県、27和歌山県、28鳥取県、29岡山県、30広島県、31山口県、32徳島県、33香川県、34愛媛県、35福岡県、36佐賀県、37長崎県、38熊本県、39大分県、40宮崎県、41鹿児島県、42沖縄県、1横浜市

5.避難所等での対応

- ① 輪島でのオンライン服薬指導について、NTTDコモの協力で避難所と薬局をつないで実施
- ② フジフイルムより薬剤識別機を貸与
- ③ いしかわ総合スポーツセンター(1.5次避難所)にNTTDコモの協力でFAXを設置し、オンライン資格確認と処方せん送信に利用でき、スムーズに対応
- ④ ユヤマ(株)から以下の無償提供を受け調剤を実施
- ・MDview(医薬品情報検索システム): 県薬剤師会災害対策本部(2台)
- ・分包機: いしかわ総合スポーツセンター(2台)、珠洲健康増進センター(1台)、中学校で仮設薬局開設2か所: 各1台
- ・散剤監査システム: 珠洲健康増進センター(1台)、中学校で仮設薬局開設2か所: 各1台、河合薬局(1台)

※1 1セット: 内用薬、外用薬64種類121医薬品

※2 1セット: 風邪薬、胃腸薬等20種類、643薬品

※3 珠洲市総合病院、市立輪島病院、宇出津総合病院、公立穴水総合病院

※4 石川県済生会金沢病院、JCHO金沢病院、金沢赤十字病院、浅ノ川総合病院、石川県立中央病院、加賀市医療センター、金沢大学附属病院

※5 石川県庁本部内活動

※6 各本部の本部内活動含む

※7 JMAT、日本赤十字社、DPAT、ピースウィンズ・ジャパン

# 能登半島地震チャリティー報告会「発災から3ヶ月 ー薬剤師の支援活動を振り返るー」を開催して

石川県薬剤師会 副会長 藤 原 秀 範

令和6年元日に能登半島を襲った震災に際し、全国の薬剤師や関係者から多大なご支援をいただき、石川県の薬剤師にとって大きな励みとなりました。発災から3ヶ月が経過し、被災地での復旧支援活動が終了したことを受け、能登地区の薬局の復興を支援するとともに、この震災で得た教訓を全国に伝えることが重要と考え、能登半島地震チャリティー報告会「発災から3ヶ月ー薬剤師の支援活動を振り返るー」を令和6年4月21日（日）13:00～16:50に開催しました。

本報告会は、日本薬剤師会雑誌や日薬メールナビ、業界紙等に掲載されたことから、各都道府県薬剤師会から605名もの多くの薬剤師が申込まれ、535名（Web参加516名）が参加しました。

参加費（2,000円 / 1人）の総額1,210,000円から経費（約1割）を差し引いた1,091,787円を全額、石川県薬剤師会の義援金に寄付しました。

また、Web参加の方に本報告会に関するアンケートの協力をお願いしたところ、多くの感想やご意見、被災地への応援メッセージをいただきましたので紹介します。

## 【プログラム】

### I 部「能登半島（珠洲市・輪島市・穴水町・志賀町）における石川県薬剤師会の活動報告」

#### 1 概要報告

- ・ 柏原宏暢先生（本会副会長）  
発災直後より設けられた災害対策本部の

主催：石川県薬剤師会  
PS講座イノベーション（4月）研修会

## 能登半島地震報告会

発災から3か月-薬剤師の支援活動を振り返る-

2024.4.21(日)13:00-16:15

全国の皆様へ

2024年元日に能登半島を襲った震災では、現在に至るまでに全国の薬剤師や関係者の皆様から多大なご支援をいただき、私たち石川県の薬剤師にとって大きな励みとなっています。石川県薬剤師会では、能登地区の薬局の復興を支援すると同時に、この震災で得た教訓を伝えることが重要と考え、能登半島地震チャリティー活動報告会を開催する運びとなりました。参加費は被災した薬局の再建に役立てられます。皆様のご参加とご支援を心よりお待ちしております。

【プログラム】

開会のごあいさつ：中森慶滋（石川県薬剤師会会長）

①能登半島（輪島・珠洲・穴水町・志賀町）における石川県薬剤師会の活動報告（70分）  
概要説明：柏原宏暢  
各地区説明：橋本昌子（珠洲市）、乙田雅章（輪島市）、原将充（穴水町）、笠原秀行（志賀町）

②日本薬剤師会による支援活動報告（30分）  
報告者：山田幸郎・越智哲夫（日本薬剤師会）

③モバイルファーマシーによる支援活動報告（30分）  
報告者：伊藤裕子（日本薬剤師会）、笠原麻子（広島県薬剤師会）

④1.5次避難所における石川県薬剤師会の活動報告（30分）  
報告者：伊藤昭一（石川県薬剤師会）、宇野裕基（石川県薬剤師会・金沢市議会議員）

特別コメント：本田順子参議院議員・文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官

【概要】

- ・ 参加費：2000円（全額を能登地区の被災薬局に寄付）
- ・ 開催方法：Zoom+オンデマンド配信（1か月）
- ・ 申込/支払：Peatix（QRコードより）
- ・ 申込期限：4月21日13時
- ・ 研修単位：石川県薬剤師会研修センター2単位

申込用QRコード

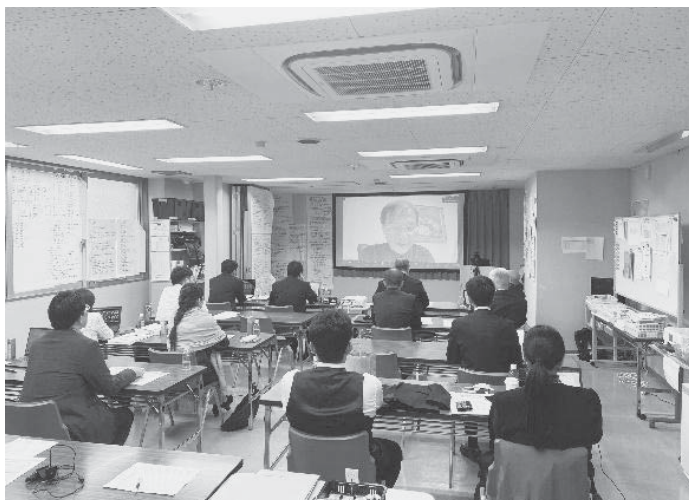


活動や県薬と日薬の役割分担、GoogleドライブやLINEを用いた情報共有などSNSの活用について報告されました。

## 2 各地区の報告

- ・ 珠洲地区：橋本昌子先生  
（本会副会長）
- ・ 輪島地区：乙田雅章先生  
（本会常務理事）
- ・ 穴水地区：原 将充先生  
（能登北部支部長）
- ・ 志賀・富来地区：笠原秀行先生  
（笠原健招堂薬局）

支援薬剤師チームとの連携による避難所の巡回やMP・救護所での調剤、OTC医薬品の供給、環境衛生の指導などについて報告されました。



会場の様子



越智先生



山田先生



本田先生

## Ⅱ部「日本薬剤師会による活動報告」

### 1 山田卓郎先生（日薬常務理事）

初動体制の構築や支援活動の方向性、モバイルファーマシーの派遣要請などについて報告されました。

### 2 越智哲夫先生（日薬災害対策委員会委員長）

日薬と県薬との情報共有や各被災地へのMP・支援薬剤師派遣調整、現地本部での対応について報告されました。

### 3 笠原庸子先生（広島県薬剤師会常務理事）

モバイルファーマシー等の珠洲地区での活動について報告されました。

#### <特別コメント>

本田顕子先生（参議院議員・文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官）

熊本地震の際に熊本県薬剤師会の職員として熊本県薬災害対策本部で支援活動を行った経験を踏まえてのコメントをいただきました。

## Ⅲ部「1.5次避難所における石川県薬剤師会の活動報告」

### 1 伊藤昭一先生（本会常務理事）

- ・いしかわ総合スポーツセンターにおける活動報告

### 2 宇多裕基先生（金沢市議会議員）

- ・額谷ふれあい体育館における活動報告  
「避難所は生き物である」という言葉が示す通り、日々の流れが変わる中での対処判断が難しい状況での支援活動について報告されました。

## 【報告会の感想や意見】

127名の方から心温まる感想やご意見を頂きました。似た内容でまとめました。

### 1 感謝の意を表す内容

- ・貴重なご報告をいただきありがとうございました。
- ・たくさんの先生方ありがとうございました。

- ・皆様、お忙しい中、大変ありがとうございました。
- 2 災害支援に対する学びや反省の内容
  - ・災害時の薬剤師の活動について大いに学ぶことができました。
  - ・災害時の活動について勉強になりました。

- ・災害支援で学べて良かったです。
- 3 実際の活動内容に対する感想や感動**
  - ・現地の生の声が聞けてよかった。
  - ・実際の活動を知り、参考になった。
  - ・現場からの生の声は本当に貴重ですね。
- 4 具体的な活動内容や経験に関するコメント**
  - ・支援の薬剤師人数や具体例について知ることができました。
  - ・実際の仕事の内容や動きをタイムスケジュールと共に共有していただけると参考になります。
- ・モバイルファーマシーのことを少し詳しく知れて良かった。
- 5 将来への意識や準備に関するコメント**
  - ・将来に被災当事者になることが予想されるので、備えることを考えさせられた。
  - ・災害がないことを祈るばかりですが、自分にできることを考えて生きていきます。
  - ・今後の災害対策についてもっと勉強して実地に活かせるようにします。

### 【被災地への応援メッセージ】

148名の方から心温まる応援メッセージを頂きました。各メッセージが持つ温かい気持ちや行動が受け取る方に伝わるようにまとめました。

- 1 応援・支援の継続**
  - ・「できる限り応援していきます。」
  - ・「これからも応援しております！」
  - ・「復興に向け頑張ってください。」
  - ・「少しでも早く復興する事を願っております。」
  - ・「皆様の日常が1日でも早く戻りますようお祈りいたします。」
- 2 体調への気遣い**
  - ・「御自愛の上、無理しすぎませぬよう活動ください。」
  - ・「疲れが出る時期でもあるのでご自愛ください。」
  - ・「お身体をお大事に。」
  - ・「無理しすぎることなく頑張ってください。」
- 3 具体的な支援や協力**
  - ・「直接支援は出来なくても、石川県産の物を買うなど、応援していきます。」
  - ・「できることは協力いたします。一緒に進んでいきましょう。」
  - ・「何か力になれることあれば、協力したいと常に思っています。」
- 4 復興を祈る**
  - ・「復興を祈念します。」
  - ・「一日も早く通常状態に戻ることをお祈りいたします。」
  - ・「一日も早い復旧復興を心より祈念しております。」
- 5 経験者からの励まし**
  - ・「東日本震災経験者です。頑張ってください。」
  - ・「阪神淡路大震災から復興してきた神戸から応援しております。笑顔で！」
- 6 激励・励まし**
  - ・「負けるな能登!!頑張ろう能登!!」
  - ・「頑張ってください。応援しています。」
  - ・「頑張らずに、頑張ってください。」
- 7 観光や訪問の意欲**
  - ・「また能登へ旅行に行きたいと思います。日々大変と思いますがご自愛いただきたいと思います。」
  - ・「少しでも早く復興して観光に行けるように願っています。」
- 8 個人の思い**
  - ・「皆様の復興が良い方向に向かうことをお祈り申し上げます。」
  - ・「心は常に共にあります。」

## 薬剤師国家試験にチャレンジ

北陸大学薬学部 実践実学系 准教授 興 村 桂 子

本紙上で解説する問題は、令和6年2月17～18日に行われた第109回国家試験の中から担当者が教員目線で選択した問題です。問題数も少なく、内容も偏っているかもしれませんが、昨今の国家試験にどのような問題が出されているのかを確認する機会として、また実務実習指導のご参考にして頂ければ幸いです。

### 《チャレンジ》

近年、個別化医療が進みつつあり、薬物治療の個別化に関連する内容として、遺伝的要因、年齢的要因、腎疾患、肝疾患、心臓疾患などを考慮した薬物治療についても薬剤師が関わる機会が増えてきており、近年関連の出題が増えてきている。

第109回薬剤師国家試験において、薬物代謝の遺伝子多型に関する問題が出題されたので取り上げて解説する。

### 問174（薬剤）

薬物代謝酵素の遺伝子多型に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 CYP2C19の遺伝子多型によってオメプラゾールの血中濃度時間曲線下面積（AUC）は変化するが、代謝物のAUCは変化しない。
- 2 CYP2D6の遺伝子多型が関与するイミプラミンのpoor metabolizer（PM）では、活性代謝物の血中濃度が高い。
- 3 アザチオプリンを使用する前には、UDP・グルクロン酸転移酵素（UGT1A1）の遺伝子多型の診断が行われている。
- 4 N-アセチル転移酵素（NAT2）には遺伝子多型が存在し、日本人では約10%がイソニアジドのアセチル化反応速度が速い群に属する。
- 5 アルデヒド脱水素酵素（ALDH2）はPMの頻度到人種差があり、白人と比べて日本人ではPMの発現率が高い。

\*\*\*\*\*【正答と解説】\*\*\*\*\*

問174 正答は2, 5です。

（解説）

選択肢1：誤

オメプラゾールの代謝については、「外国人のデータでは、健康成人にオメプラゾールを経口投与したとき、血漿中の主代謝物はオメプラゾールスルホン及びヒドロキシオメプラゾールで、これらの代謝物はいずれも胃酸分泌抑制作用をほとんど示さなかった。また、ヒ

ト肝ミクロソームによる in vitro 試験の結果から、ヒドロキシ体及びスルホン体の生成にはそれぞれ主に CYP2C19 及び CYP3A4 が関与し、ヒドロキシ体への代謝クリアランスはスルホン体の 4 倍であると報告されている。[オメプラゾン<sup>®</sup>錠 10mg, 20mg の添付文書 2022 年 11 月改訂（第 1 版）の 16.4 代謝 の項目から抜粋]との記載がある。ヒドロキシ体への代謝に CYP2C19 が関わっている点は正しいが、CYP2C19 の遺伝子多型によってオメプラゾールの血中濃度時間曲線下面積（AUC）は変化した場合、CYP2C19 の働きにより生成する代謝物の AUC も変化する。

CYP2C19 の日本人の PM（poor metabolizer）は約 20%（CYP の遺伝子多型で PM の発現頻度が最も多い）、白人の PM は約 3% 程度であり、人種差が大きい。また、プロトンポンプインヒビターであるランソプラゾールカプセル、オメプラゾールの代謝だけでなく、クロピドグレルなどの代謝にも関与している。

### 選択肢 2：正

イミプラミンの代謝については、イミドール<sup>®</sup>糖衣錠(10)・イミドール<sup>®</sup>糖衣錠(25) のインタビューフォームの「(2)代謝に関する酵素（CYP450 等）の分子種」の項目では、〈参考〉として、「イミプラミン及び活性代謝物デシプラミンの 2 位水素化に CYP2D6 が関与するといわれている。」の記載がある。

代謝に関連する酵素である CYP2D6 において代謝速度が遅い poor metabolizer（PM）の患者の場合は、活性代謝物が体内に蓄積傾向となるため活性代謝物の血中濃度が高くなる。

また、CYP2D6 はコデインに作用してモルヒネに変換し鎮痛作用を発揮するため、CYP2D6 の遺伝子多型により、鎮痛効果や副作用発現に影響があることが知られている。

### 選択肢 3：誤

アザチオプリンは 6-メルカプトプリン（6-MP）のプロドラッグである。投与されたアザチオプリンは速やかにグルタチオン-S-トランスフェラーゼ（GSH-ST）により 6-メルカプトプリン（6-MP）となり活性を示す。6-MP はさらにキサンチンオキシダーゼ（XO）による代謝を受けて、大部分が 6-チオ尿酸（6-TU）として尿中に排泄される。一方、細胞内に取り込まれた 6-MP は、ヒポキサンチン-グアニンホスホリボシルトランスフェラーゼ（HGPRT）によってチオイノシン酸（TIMP）に代謝された後、6-チオグアニンヌクレオシド（6-TGN）にさらに代謝される。6-MP 及び TIMP はまた、チオプリメチルトランスフェラーゼ（TPMT）によりメチル化され、それぞれ 6-メチルメルカプトプリン（6-methylo-MP）及びメチルチオイノシン酸（meTIMP）へ代謝される。[イムラン<sup>®</sup>錠 50mg のインタビューフォーム 2024 年 1 月作成（第 1 版）薬理作用(1) 作用部位・作用機序の項目および代謝(1) 代謝部位及び代謝経路の項目より抜粋]。そのため、TPMT 活性が低い場合には 6-TGN の曝露量が相対的に大きくなり、その毒性により高度の骨髄抑制を起し、致命的となる場合がある。

また、UDP・グルクロン酸転移酵素（UGT1A1）の遺伝子多型が関与するプロドラッグ

としてはイリノテカン塩酸塩水和物が知られており、遺伝子多型の状況により、薬効や副作用発現に影響が出る。「ヒトの肝及び各組織において、イリノテカン塩酸塩水和物はカルボキシエステラーゼにより活性代謝物（SN-38）に直接変換される。その他イリノテカン塩酸塩水和物は、CYP3A4により一部は無毒化され、また、一部は間接的にSN-38に変換される。SN-38は、主に肝の代謝酵素であるUDP-グルクロン酸転移酵素（UGT）の一分子種であるUGT1A1によりグルクロン酸抱合され、SN-38のグルクロン酸抱合体（SN-38G）となり、主に胆汁中に排泄される。UGT1A1には $UGT1A1*6$ 、 $UGT1A1*28$ 等の遺伝子多型が存在し、 $UGT1A1*6$ 、もしくは $UGT1A1*28$ においては、これら遺伝子多型をもたない患者に比べてヘテロ接合体、ホモ接合体としてもつ患者の順にSN-38Gの生成能力が低下し、SN-38の代謝が遅延する。」[トポテシン点滴静注40mg、100mg添付文書2023年8月改訂（第1版）16.4 代謝 より抜粋]。

#### 選択肢4：誤

イソニアジドの代謝に関与するN-アセチル転移酵素（NAT2）には遺伝子多型が存在し、日本人では約10%がNAT2の反応速度が遅いslow acetylator（SA）である。「16.4 代謝 イソニアジドは投与後、大部分は肝臓でアセチル化され、1-acetyl-2-isonicotinylhydrazineとなった後、1,2-diacetylhydrazine及びacetylhydrazineに代謝された。このN-アセチル化の代謝速度には遺伝的多様性（rapid又はslow acetylator）があり、人種差が見られる（日本人でslow acetylatorは10%以下）」[イスコチン® 原末・イスコチン® 錠100mg添付文書 2023年3月改訂（第1版）より抜粋]。

#### 選択肢5：正

アルデヒド脱水素酵素（ALDH2）は飲酒由来のアセトアルデヒドの解毒酵素であり、その他にホルムアルデヒドなどのアルデヒド類を基質としている [松本明子、日衛誌（*Jpn. J. Hyg.*），71，55-68（2016）。]。日本、中国、韓国などの東アジアのひとでは遺伝子の点突然変異により、酵素の働きが弱いひとが多くみられる。対立遺伝子が2本とも弱いホモ欠損型のひと（日本人の1割弱）は少量の飲酒で血液のアセトアルデヒド濃度が急激に増加し、激しいフラッシング反応（顔面紅潮、嘔気、頭痛、眠気）を起こすのでめったに飲酒しない。[e-ヘルスネット>健康用語辞典>飲酒>2型アルデヒド脱水素酵素、<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/alcohol/ya-007.html>、（2024年7月2日閲覧）]

（文責 興村 桂子）

## 医療DXについて

石川県薬剤師会 常務理事 松 田 泰 美

昨今、医療DXという言葉が頻繁に耳にし、国もそれを強力に進めようと色々な施策を打ち出してきています。

厚生労働省のHPでは「医療DXとは、保健・医療・介護の各段階（疾病の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求、医療介護の連携によるケア、地域医療連携、研究開発など）において発生する情報やデータを、全体最適された基盤（クラウドなど）を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えることです。」と記載されています。

皆さんはどのように解釈されているでしょうか？いろいろな捉え方があるのでしょうか、とにかくこれまでとはかなり違った医療提供体制になる事は間違いないように感じています。

では具体的に医療DXとして現在どのようなものが導入されており、また導入される予定なののでしょうか。

まず国の施策で進められているのですが、厚労省のHPによれば以下のような内容が掲載されています。

・オンライン資格確認（皆さんの薬局にも顔認証の端末があると思いますが、それ使うシステムです）

マイナンバーカード1枚で保険医療機関・薬局を受診することにより、患者本人の健康・医療に関するデータに基づいた、より適切な医療を受けることが可能

となるなど、マイナンバーカードを健康保険証として利用できます。

オンライン資格確認は、医療DXの基盤と位置付けられています。

### ・電子カルテ情報共有サービス

全国の医療機関・薬局をつなぐオンライン資格確認等システムのネットワークを活用し、電子カルテ情報等を医療機関や薬局との間で共有・交換する仕組みです。提供するサービスは次の3点です。

1. 診療情報提供書（退院時サマリー）を医療機関等が電子上で送受信できます。
2. 健康診断結果報告書を実施主体（医療保険者等）や全国の医療機関等に共有することができる仕組みです。
3. オンライン資格確認等システムと連携することにより、本人の同意のもとで、電子カルテ情報（傷病名、感染症、アレルギー、薬剤禁忌、検査情報、処方情報）及び健康診断結果報告書を全国の医療機関等で取得・閲覧可能となることや、国民等がマイナポータル上で確認できます。

現在、開発に向けワーキンググループ等が開催されているようです。

### ・標準型電子カルテシステム

医療DXシステム群（全国医療情報プラットフォーム）につながり、情報の共有が可能な電子カルテであり、民間サービス（システム）との組み合わせが可能な電子カルテシステムです。

こちらも現在、開発に向け技術的な要件について、利用者目線（医療機関等）・技術者目線（システムベンダー）

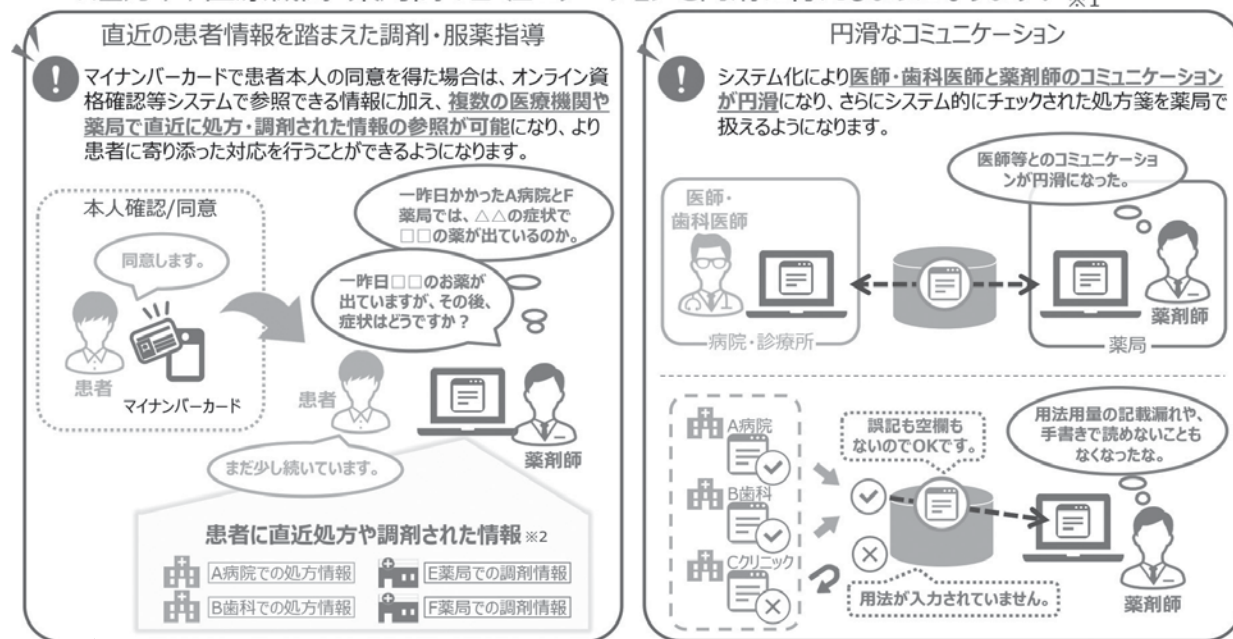
の知見収集の場としてワーキンググループ等が開催されているようです。

### ・電子処方箋

電子処方箋とは、電子的に処方箋の運

用を行う仕組みであるほか、複数の医療機関や薬局で直近に処方・調剤された情報の参照、それらを活用した重複投薬等チェックなどを行えます。

処方箋の内容の入力作業や、紙処方箋の保管が不要になることのほか、より丁寧な患者対応への注力や、医療機関・薬局間のコミュニケーションを円滑に行えるようになります。※1



ここでお知らせ！

現在、電子処方箋を応需可能な薬局の比率において石川県が40%越えの全国1位（特に白山市90%近く、野々市市70%以上）です。

その他に公費医療負担制度のオンラインによる資格確認、予防接種事務のデジタル化、介護情報基盤の構築、医療等情報の二次利用及び診療報酬改定DXなどの導入が挙がっているようです。

次に日本薬剤師会では、新しくオンライン服薬指導の機能を追加した電子お薬手帳をリリースしサービスを開始しています。なおこの電子お薬手帳はオンライン資格確認とも連動しています。

そして当県においても独自に運用している診療情報共有システムがあります。

まず皆様にも以前から参加を呼び掛けております「いしかわ診療情報共有ネット

ワーク」（ID-Linkというプラットフォームで運用）です。

これは患者同意を得られれば病院のカルテ情報が閲覧可能（医療機関によって開示情報は異なります）であり現在薬局で得られる情報としては国のシステムでは確認できない範囲の情報も得ることが出来ます。

更に医療機関においてはNOBORIというPHRアプリの導入（現在は公立松任石川中央病院、公立つるぎ病院、金沢医療センター及び能美市立病院で運用）が進みつつあり、薬局（現在50薬局ほどが導入）においてもこの機能を使用し処方情報の連動による患者サービスの向上が図られてい

ます。

このように国や地域において様々な医療DXの取組がなされており薬剤師業務においても例外なくDX化に取り組むべきと考えます。

ただシステムだけ導入すれば良い訳ではありません。導入する事で我々はこれ迄とは比べ物にならない位の情報を得られるようになるはずですが、その得られた情報を用い薬剤師業務の質をどの様に向上させて行くのかは今後の重要な課題です。

県薬剤師会と致しましても今後そのためのコンテンツを皆様に提案出来ますよう努力して参りますので皆様からも色々なご意見（こんな研修会を…こんな使い方がある…など）をHPのお問い合わせフォームから提案して頂きたいと思ひます。

幅広く色々な意見を伺いながら、より良い医療DX作り上げるための方法を探って行きたいと考えておりますので皆様是非ご協力をお願い致します。

## マット・デニス、ソングブック

なかもり けいじ

今では医薬品セールスは業務とは関係のないことはしてはいけないことになっているらしい。無用なインセンティブが発生しないとするためのようだ。しかしK君は5～6年前に始まった村上春樹氏がDJを務める東京FMのラジオ番組「村上RADIO」を金沢では聞くことができないためCDに落とし込んで、いまだに持ってきてくれている。以前僕が村上春樹氏の初期三部作について熱く語ったことがあったことが強く印象に残っていたのかもしれないが、いつしか僕は彼が来るのを楽しみに待つようになった。

今回は「マット・デニス、ソングブック」とタイトルが打たれているマット・デニス特集である。

何を隠そうジャズの作曲家で真っ先に浮かぶのはマット・デニスである。ガーシュイン兄弟も素晴らしいのであるがマット・デニスは僕の学生時代、生活の中に深く入り込むほどぞっこんになっていたことがあ

る。それだけに様々な曲の解釈を自分なりに持っているつもりだ。

### ○ Violets for your Furs

番組ではAngel Eyes やWill You Still Be Mineなど順当な曲が紹介される。来るか来るかと思っていたらViolets for your Fursが紹介された、このタイトルは日本語では「コートにすみれを」と訳されている。

「雪のちらつく冬のマンハッタン。でも君の毛皮のコートにつけるために、すみれの花を買ったら、とたんにあたりは春のようになってしまった」という歌です、と村上氏はこの曲を紹介していた。

しかしこれは男性の歌い手であるマット・デニスの目線なのだが、この曲を女性の歌手だと美しい情景が生まれる。Violets for your Fursとタイトルは変わらないのだが、I bought you violets for your fursと歌い出しの歌詞は女性ボーカルが歌うとき大胆にも次のように変わる。

… You brought me violets for my furs. これをピリー・ホリディは実に嬉しそうに歌います。「スマレをかってくれて、それをピンで留めてくれたの。その時魔法がかかりあたりは寒かったマンハッタンが春の日のように変わってしまったわ。あなたがやさしく私に笑いかけたときから、私たちはすっかり恋に落ちたのね。」この歌、実は女性が歌った方がニューヨーク・マンハッタンで恋する女心の変化を感じることができるのです。…

と僕だったらこんなふうに番組のシナリオを書くかもしれない。



それから僕が一番好きなマットデニスの曲であり、ジャズの中でも一番かもしれないという曲が紹介された。

### ○ Everything Happens To Me

「ゴルフの予定を入れると必ず雨。パーティーを開けば、上の階から苦情が来る。風邪を引いたり、電車を逃したり、そんな具合。まったくいろんなことが僕の身に降りかかる。」と村上春樹氏は歌詞を紹介する。しかしこれではこの歌の魅力を1/10ぐらいしか紹介していないことになる。

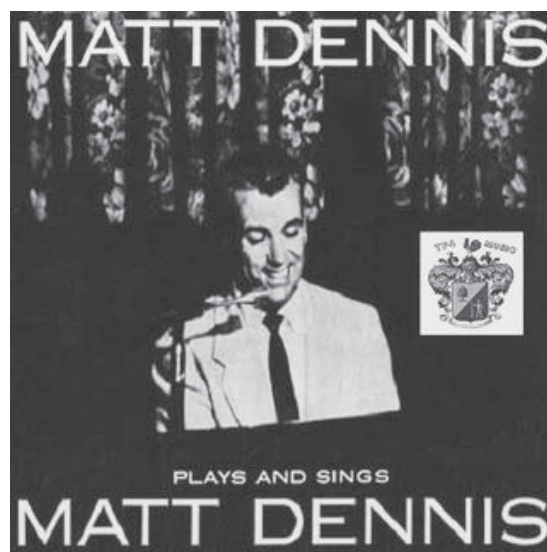
「ゴルフに行くと必ず雨が降り、パー

ティーを開くと上の階からうるさいと言われる。」というこの部分はそれでいいだろう。それから物語は始まる。「ぼくの人生はこのような風邪をひいたり電車に乗り遅れたりするような人生だと思っていた」さらに不運な出来事を並べていく。「はしかやおたふく風邪にかかるし、絶対勝つと思って切り札を出したら相手はそれよりも強い手を出し僕は負けてしまった。」

そんなあるとき素敵な女性に出会った。きっとその子が僕の人生のこんなジグスを終わらせてくれるものだと思った。僕は人生最大の賭けに打って出ることになる。ここからの歌詞はあまりにも悲しくも素敵なものになっている。

「電報を打ち電話をして、航空便で君に告白をした。でも君から来た返事は「さようなら」だった。しかもその返事の手紙には郵便料金不足の札がついていた。

そんな僕が恋に落ちたのは人生で一度だけ。君とじゃなくちゃダメだったのに。僕の人生でこんなもの、いろんなことが起こるね。」という悲しい結末をマットデニスピアノの弾き語りで歌っている。



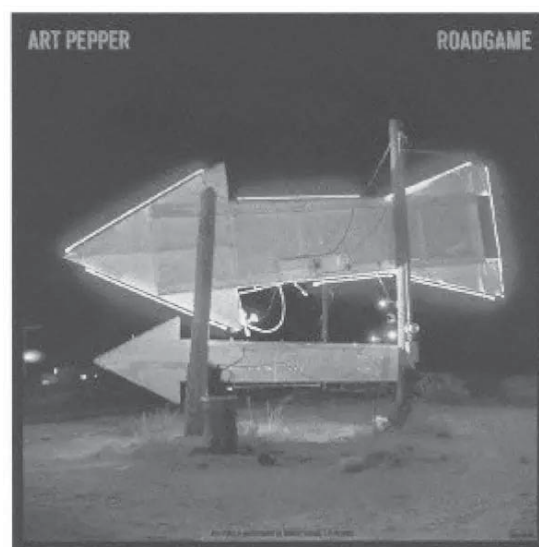
Duke JordanのPianoはさりげなく素敵な演奏だ。



アート・ペッパーのEverything happens to meは最高傑作。学生時代何度も何度も聞いたものだ。ジョージ・ケイブルスのピアノも美しい。アート・ペッパーのアルトサックスは若き全盛期のような美しいフレーズを響かせながら、時にはもがき苦しみ何度も悲鳴をあげ、麻薬でおぼれたものの奇跡的に復活した彼の壮絶な人生

を感じさせる演奏だ。

1981年Maiden Voyage, Los Angelesでの録音。翌年アート・ペッパーは亡くなった。このアルバムは日本では未発売。僕はタワーレコードで見つけて輸入盤を買った。その時、この曲の歌詞とアート・ペッパーと僕の人生がオーバーラップしていた。



## 祖父（薬剤師4代目渡辺為三郎）の 薬剤師免許証と陸軍薬剤官辞令書等の発見

金沢大学附属病院 緩和ケアセンター長 山 田 圭 輔

### はじめに

いしかわ県薬レポートNo.84（2021年1月）で、1）筆者の母方は渡辺姓で、江戸時代から続く薬種商（明治以降は薬剤師）の家系で、昭和62年（1987年）まで金沢市内で渡辺薬局を営んでいたこと、2）高祖父である2代目渡辺為三郎が石川県薬剤師会（その前身）の初代会長だったこと、3）祖父の4代目渡辺為三郎（1905-1988）が昭和12年（1937年）に薬剤少尉として日中戦争に出征した際に、石川県薬

剤師会が幟（のぼり）を立てて送り出したことなどを紹介した。

祖父が亡くなって35年以上、祖母が亡くなって20年以上が経過したが、最近になって祖母の筆筒の引き出しの中に、祖父の薬剤師免許証や陸軍薬剤官辞令書などが保存されていることを発見した。筆者も目にしたのは初めてで、それぞれに当時の内閣総理大臣等の名前が記され興味深く感じられたので、昭和初期の世相を含めて紹介させていただきます。



図 1. 渡辺為三郎の薬剤師免許証

内務大臣（内閣総理大臣と兼務）若槻礼次郎の名前が記されている。

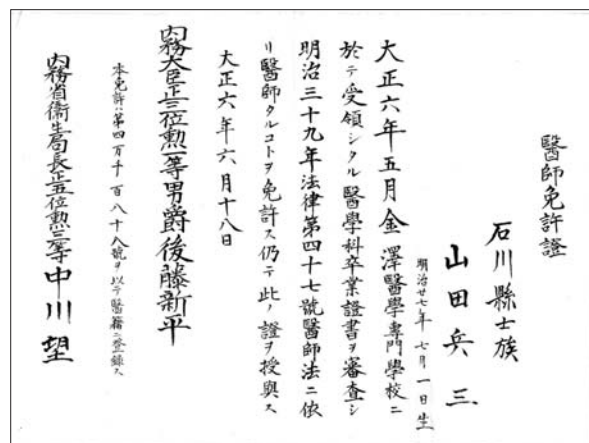


図 2. 山田兵三の医師免許証

内務大臣後藤新平の名前が記されている。

## 1) 薬剤師免許証

祖父の薬剤師免許証は大正15年（1926年）4月に発行されており、免許証には内務大臣若槻礼次郎の名前が記されている（図1）。当時の若槻は内閣総理大臣に任命されており（第1次若槻内閣：大正15年（1926年）1月から昭和2年（1927年）4月）、内務大臣も兼務していた。若槻は昭和最初の総理大臣であるが、高校の日本史で習うように、当時の問題は外交関係（とくに対中国、次いでロシア、欧米）と経済不況である（これらは今も昔も変わらない）。中国大陆でのいくつかの衝突や金融恐慌や台湾銀行不良債権問題などが生じ、落ち着かない時代になっていく中で、若槻内閣は退陣する。

次の田中義一首相の時代には、金融恐慌収束のための支払猶予（モラトリアム）や日本銀行からの緊急融資（高橋是清大蔵大臣）があり、金融事情は一時落ち着いた。一方で中国大陆では、蒋介石の北伐、山東出兵（昭和2～3年（1927～28年）に3回派兵）、張作霖爆殺事件（昭和3年）などが生じ混乱が増していく。

余談であるが、父方の祖父である陸軍軍医の山田兵三（1894-1970）は山東出兵

に派遣されている。兵三の医師免許証は、金沢市内の伯父夫妻の下で保管されていたが、数年前に筆者が引き継いだ（図2）。大正6年（1917年）発行の医師免許証には内務大臣後藤新平の名前がある（当時の内閣総理大臣は寺内正毅）。後藤は総理大臣ではないが、度量の大きい政治家、都市計画者で、東京市長を務め、関東大震災後の東京の帝都復興計画を立案、従事したことも知られている。

## 2) 陸軍三等薬剤官辞令書

昭和5年（1930年）3月に、祖父は陸軍三等薬剤官に任官されており、内閣総理大臣浜口雄幸の名前が記されている（図3）。

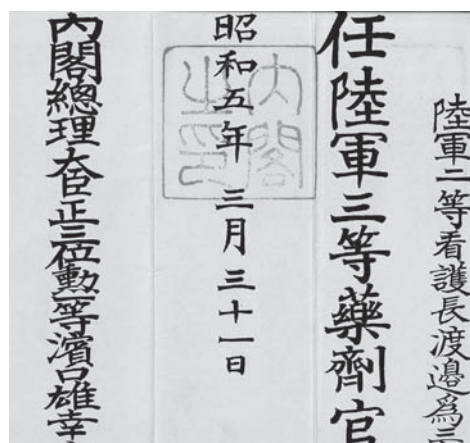


図 3. 渡辺為三郎の陸軍三等薬剤官辞令書  
内閣総理大臣浜口雄幸の名前が記されている。

これには祖父が先に陸軍二等看護長となっていたことも記されている。祖父が薬局を運営しながら陸軍と関係があったことは初めて知ったが、このことは大日本帝国時代の同世代の薬剤師にとって珍しくないことだったのか、時代背景をうけて祖父が積極的に活動していたのかなどは全く不明である。

浜口雄幸は、田中義一の次の総理大臣で、経済面では金解禁、緊縮政策（井上準之助大蔵大臣）、外交面では協調外交（幣原喜重郎外務大臣）を基本にロンドン海軍軍縮条約を締結したことが知られている。しかし世の中は落ち着かず、浜口総理は同年11月に東京駅構内で暴漢に銃撃され、それが原因で翌年に亡くなっている。東京駅新幹線乗り換え改札近くに今も浜口首相遭難現場のプレートが掲示されている。浜口内閣退陣後に若槻礼次郎が2度目の総理大臣に任命されるが（第2次若槻内閣：昭和6年（1931年）4月から12月）、同年6月に満州事変が発生し、いよいよ戦争の時代に突入していく。

昭和7年（1932年）に満州国が建国されるが、同国の代表的な企業が南満州鉄道株式会社である。この会社は日露戦争後の明治39年（1906年）に設立され、初代総

裁が先の後藤新平である。祖父は、一人娘の渡辺多恵子（後に筆者の母となる山田多恵子）の名義で同社の株式に投資していたが、敗戦によって大日本帝国と共に会社は消滅し、株券は紙屑になってしまった。今回、薬剤師免許証と共に南満州鉄道株式会社の旧株券も見つかった（図4）。この旧株券は、Yahooオークションではアンティークコレクションとして数千円程度で取引されていることも分かった。

### 3）陸軍薬剤中尉辞令書

昭和13年（1938年）の陸軍薬剤中尉の辞令書には、内閣総理大臣近衛文麿の名前が記されている（図5）。昭和12年（1937年）6月から14年（1939年）1月の第一次近衛内閣の時代である。この間に盧溝橋事件が起こり、近衛内閣は当初は拡大しないよう停戦交渉を行っていたが、時代の中で交渉は決裂し、日中戦争に拡大していく。

祖父渡辺為三郎は昭和12年8月から昭和14年まで中国蘇州に薬剤師として従軍し、幸いに無事に帰ってくることができ、金沢で終戦を迎えた。もう一人の祖父山田兵三は、陸軍軍医として昭和16年（1941年）に中国大陆に派遣されて、そのまま杭



図4. 南満州鉄道株式会社株券  
中央下に満鉄のシンボル特急「あじあ号」が描かれている。

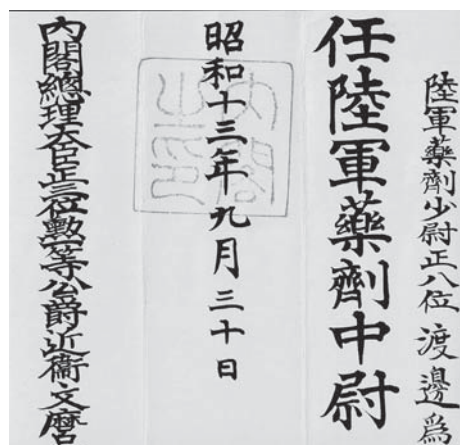


図5. 渡辺為三郎の陸軍薬剤中尉辞令書  
内閣総理大臣近衛文麿の名前が記されている。

州で終戦を迎え、戦後処理を終えて昭和21年（1946年）に金沢に帰ってきた。

### おわりに

戦中戦後の日本全体が貧しい中で、戦争から戻った祖父渡辺為三郎は薬局主として働く一方で、畑を耕し、鶏を飼育して、家族を養った。もう一人の祖父山田兵三は、帰国した際には50歳を超えており心身共に相当に疲弊していたと思われるが、成人していない5人の子供がおり、戦後は七尾市石崎の診療所で働き、その後に金沢市泉野で小さな山田医院を開業して家族を養った。

国際情勢、外交関係、経済問題あるいは大震災などで国は翻弄され、その中に人々は巻き込まれる。祖父達も戦争の時代の荒波に巻き込まれながらも薬剤師あるいは医師として働き、家族を養い、死までを生きた。筆者が生きているのもそのおかげである。

筆者の娘が薬剤師免許証を取得した令和6年（2024年）に、98年前の祖父の薬剤師免許証を発見したことは大きな驚きと喜びであった。僭越ながら本稿で昭和の時代と家族の歴史を振り返らせて頂きました。

## 小説の人物表現について

やまだの かかし

人の雰囲気や文章や言葉で伝えるとき、おざなりの表現でそのバリエーションも少ないのが普通だ。例えば「かわいい子」「素敵な子」という短いものでそっけなく表現し、長くてもせいぜい「いつも自信が体から発散しているような人」や「笑うとえくぼができる髪がきれいな女の子」ぐらいだろう。

しかし作家となるとそれは違ってくる。角田光代氏の短編小説を読んだ。30ページからせいぜい40ページぐらいで完結する短編小説なので人物を短い文章で表現しそれが的確で読む人が想像できなければならない。さすがプロフェッショナルの物書きは違うとうなされる。なんて凄いのだろうなどと思いながら読んでいた。それぞれの短編には男運がない女が描かれている。

自分は美人だということは自覚している

のだがそれが役立っていない女。その美しさは地元レベルのもので人生を劇的に変えることはないことを彼女は知る。

\*\*\*\*\*

私はひょっとしたら本当に美しいのか。その点においては人より秀でているのか。茨城に引っ越し、高校生の私はそんな疑問を抱きはじめた。ミスはっさくに応募したのは、自信があったからではなくて、客観的な答えを知りたかったからだ。そして私はミスはっさくに選ばれた。選ばれてみると、もっと答えが知りたくなった。私はどれくらい美しいのか。どのくらい人より秀でているのか。美しさが審査基準になっているものは、目につくそばから応募した。私はミス煎茶になりミスかしまになり、いばらき娘になった。

高校を出るところになって、私はようやく私が何ものかを知ることができた。私は美

しさという価値を持つ人間だったのだ。

ずば抜けた頭脳を持った男の子は国立大学に進学し、目をみはるような絵画を描いた女の子は美大にいき、流暢な英語をしゃべっていた女の子はロンドンに留学し、けれど、私の美しさは私をどこへも連れて行ってくれなかった。

短編集「ドラママチ」の中の「ワタシマチ」

角田光代著

\*\*\*\*\*

別の短編。夫が不倫をしていることを知りその女を突き止める。妻はその女の容姿を知り愕然とする話だ。

\*\*\*\*\*

恋人の浮気相手があきらかに自分より容姿端麗であるのと、その逆と、どちらがより傷つくのだろうと、かつて私は真剣に考えたことがあった。容姿端麗であるほうが傷つくという結論に達した。これはいわゆる机上の空論ではなくて、当時の私が体験して得た結論だった。浮気相手が容姿端麗であると、こちらは嫉妬に上乗せして容姿コンプレックスで苦しまなければならない。私の友人はその逆を主張した。つまり、不美人な女と浮気された方が傷つくに決まっている、と。彼女の主張は、思い出したいがもはや忘れてしまった。

平田庭子は不美人の類に入る。平たい板で、じわじわと押しつぶしたような顔をしている。上半身はみすばらしいくらいに痩せているのに、足が異常に太い。夫の恋人の美点を見つけ出してやるのも太っ腹な話だが、しいていえば、長く伸ばした黒髪がつやつやで、笑顔に愛嬌がある。

短編集「ドラママチ」の中の「コドモマチ」

角田光代著

\*\*\*\*\*

この短編の中で自分の夫について、次の

ように書いている。

\*\*\*\*\*

夫の保岡毅は太っている。初めて会ったとき、お歳暮で贈られてくるハムみたいだと思った。この人はきっと浮気はしないだろうと、続けて思った。浮気男の条件たる細やかさとある種の冷酷さに欠けていそうだし、そもそも女にもてないだろう。今思うと自分の単純思考に呆れてしまう。小学生のころうち立てたピーマン滅亡説と同じことだ。つまり、ピーマンは種を取り除くのが面倒なうえ苦くてまずい、あんなものはだれも好んで食べないだろうから、需要のなくなったピーマンは遠からずこの世から消えていくであろう…それがピーマン滅亡説だったのだが、それとまったく同じに、このハムみたいな男に浮気なんかできるはずないと思いこんだのだった。

短編集「ドラママチ」の中の「コドモマチ」

角田光代著

\*\*\*\*\*



僕はこの短編集を香林坊のスタバで読んでいた。右前を見ると高校を今年卒業したくらいの2人の女の子が向かい合って楽し

そうにドーナツとフラペチーノを飲みながら話しをしていた。僕の位置からは二人の姿ははっきりとは見えないのだが、こちらを向いている女の子は左利きのためか左手でドーナツを食べ顔が小さくスポーツブラントのジャージを着ている。かわいい子は何を着てもかわいく見えるのだ。背を向けている白いシャツを着た女の子は長い髪の毛しか見えないのだが、角田光代氏風にこの女の子を仮に萌音と名付け想像して書いてみることにする。

〈萌音は白いシャツが好きで、今日も軽く羽織っている。アッシュを入れたんだという割にはどう見ても明るめの茶色にしか見えない長い髪にアイロンをかけてきたのだろう、今日もさらさらと光っているのがまぶしく感じる。左後方45度から見られるのを彼女は好む。自分のかわいさが最大

限に発揮されるのを知っているからだ。そんな彼女の策略に乗せられた男が声をかけてきたのを何度か目にしたことがあった。

彼女の目はとても可愛いのだが、悩みどころは顎の部分が平均より長く頬がやや膨らんでいることだ。そのため小顔とはいいがたい。「ダイエットすれば細くなるかな」と言い、サラダ中心の食生活を続けるのだが1週間ほどであっさりと炭水化物中心に戻っている。写真のときは両手を広げ頬と顎を隠し恥ずかしそうにしなを作るポーズをとる。コロナで最大のメリットは風邪をひかなくてもマスクをつけることができることだと言い、マスクをつけ顔の両側を髪で隠せばかわいく見えるのだが、そうやって顎が見える部分を少なくしようと努力しているだけに男と食事に行くとなった途端憂鬱になるのだった。〉

## 第6回簡易懸濁法実技セミナー in 金沢を終えて

北陸大学薬学部 興村 桂子・毎田千恵子・高野 克彦

2024年3月10日（日）に第6回簡易懸濁法実技セミナー in 金沢（主催：北陸大学地域連携センター、共催：日本服薬支援研究会、後援：石川県薬剤師会・石川県病院薬剤師会）が北陸大学薬学部実験科学棟にて開催されました。今回も講師として、簡易懸濁法考案者の倉田なおみ先生（昭和大学薬学部 客員教授）をお招きし、金原寛子（公立松任石川中央病院）、宮東利恵（金沢医科大学病院）、中田いちこ（グリーン調剤）、田畑寛明（KKR北陸病院）、及び表題に記載のある北陸大学薬学部の3名の教員がファシリテーター（簡易懸濁法指導薬剤師または簡易懸濁法認定薬剤師）と

して参加しました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の対応として、石川県内からの参加に限定し会そのものもコンパクトにした「ミニ」版での開催でしたが、今回は数年ぶりにコロナ禍前と同様に、全国募集かつ対面での実施としました。

2024年1月1日に最大震度7以上の大地震が能登半島で発生しました。この地震により、石川県内をはじめ北陸3県などの医療機関が被災し、また、石川県のみならず全国から医療従事者が能登方面や避難所で医療支援活動に従事されている状況であることも鑑み、一時は開催を見送ることも



実技講習の様子



講義される倉田先生

考慮いたしました。しかしながら、1月1日までにお申込みいただいている先生方がみえたことと、1月1日以降にも参加のお申し込みが徐々に増えたこともあり、簡易懸濁法実技セミナーの実施が必要とされていることを肌で感じつつ、学内にて諮っていただいたところ開催することが決まりました。最終的には、石川県内外からの薬剤師22名と姉妹校である金沢医科大学病院の看護師で参加をご希望いただいた7名の合計29名のご参加となりました。被災地である能登方面からのご参加もあり、改めてその必要性の高さには驚いた次第です。

午前中には、倉田先生の講義「簡易懸濁法の基礎ー思い出そう！製剤学ー」において、医薬品の剤形および製剤学的な特徴を基に、錠剤の「つぶし」は危険であり、相互作用の回避のためにも簡易懸濁法が経管投与に適していることや、簡易懸濁法に関する情報の入手方法などを学びました。その後、簡易懸濁法の実技講習Aとして基本的な手技を中心に行いました。今回は簡易懸濁法に用いる注入器類およびチューブは、全て誤接続防止のための新規格（ISO80369-3）対応の接続部のものを使用し、チューブ通過性試験および崩壊懸濁試験を行いました。

午後は、簡易懸濁法の実技講習Bとし

て、配合変化や温度に配慮が必要な実例及びげんくボトル、ジーオーバッグの使用等を実際に試しました。その後に「服薬支援のための簡易懸濁法」の講義として、嚥下機能を低下させる医薬品や嚥下困難な患者の薬の服用方法等についての有用な情報や必須の技能を学ぶことができました。

実技講習は参加者3～4名からなるグループで行い、今回はほとんどのグループに看護師1名が参加し、実技指導いただきました。倉田先生による懇切丁寧な実技の解説・ご指導に歩調を合わせる形で全体を進めました。

セミナーを終えてのアンケート結果（石川県薬剤師研修センターの定型アンケート、28枚回収）では、ほとんどの方が「テーマに興味を持てた」「新しい知識が多かった」「かなり役に立つ」を選択されており、大変好評でした。

参加者からのご意見として、「大変勉強になりました！感謝します！」「実際に取扱いの機会が多い薬剤で活かしやすい。」、看護師の方からは「実技を行えてとても学びになりました。もっと薬剤師さんを頼りたいと思います。ちゃんと積極的に話していきたいと思います。ありがとうございました。」との記載等がありました。一方、「古典的な薬以外の情報もあるとなお良い

です。」とのご意見もありました。

近年の高齢化社会では、簡易懸濁法による経管投与は必須な技能であると思われますので、今回のセミナーで修得された服薬支援に関する知識や簡易懸濁法に関わる技能について、まずは日々活用と実践を繰り返すことでそれらに関わる実践能力向上に努めていただきたいと切に思っております。

本学地域連携センターでは、今後も簡易懸濁法および服薬支援に役立つ情報および

技術を修得することができる簡易懸濁法実技セミナーの開催を計画しております。多数の先生方のご参加を心よりお待ちしております。

最後に、この度の能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、そのご遺族や被災された皆様には心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

関係者一同、被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。



倉田先生を囲んで集合写真

## ソフィアが作ったこの世界…グノーシス主義

中 森 慶 滋

今年の1月1日、能登で数千年に一度という地震が起こった。その時思い出したのは「グノーシス主義」であった。

昨年読んでいた本に「グノーシス主義」という言葉に触れている箇所があった。その時からそれが頭から離れず僕はグノーシス主義に関する本を何冊か購入して読んだ。「グノーシス主義は」とても難解なので多分ほとんどは理解していないのだが、それを読み僕が頭に描いたことを書こうと思う。それは能登地震と共に蘇り世の中の

真実の一つではないだろうかと地震発生時考え続けていた。

キリストが亡くなってから300年後グノーシスという教えがひそかに広まり西暦400年ごろにそれは忽然として消えた。神を至高の存在とし人間は原罪を背負ったとするキリスト教の教えとは対抗しているため、グノーシスは異端とされたからだ。グノーシスが忘れ去られた20世紀中ごろエジプトの街ナグ・ハマディーで写本が発見された。13冊からなるその写本はコプト

語で書かれていた。グノーシスの教義は再びこの世の中に出ることになる。その本は宇宙の真実を伝えているとされ「ナグ・ハマディー写本」と呼ばれている。



ナグ・ハマディー写本とは

写本の中でもっとも有名なものは新約聖書外典である『トマスによる福音書』である（同福音書の完全な写本はナグ・ハマディ写本が唯一）。調査によって、ナグ・ハマディ写本に含まれるイエスの語録が1898年に発見されたオクシリニコス・パピルスの内容と共通することがわかっている。そして、このイエスの語録は初期キリスト教においてさかんに引用されたものと同じであるとみなされる。 Wikipediaより

この発見によりグノーシス主義は再び脚光を浴びることになる。心理学者ユングはグノーシス主義を「存在とは何か」、「存在の目的は何か」という最も根元的な次元で考え、無意識や個性化を提唱し、自我(ego)の限界を超えて完全な自己(self)に至ることと考えた。墮落した世界（自我）を乗り越え、正しい知識（自己）を得、最終的には神との合一（無意識）を求めることを目的とした。

この墮落した世界とは反宇宙的二元論を意味している。つまりこういうことだ。 Wikipediaから引用しようと思う。

グノーシス主義には様々なバリエーションがあるものの、一般的に認められるのは、「反宇宙的二元論」と呼ばれる世界観である。

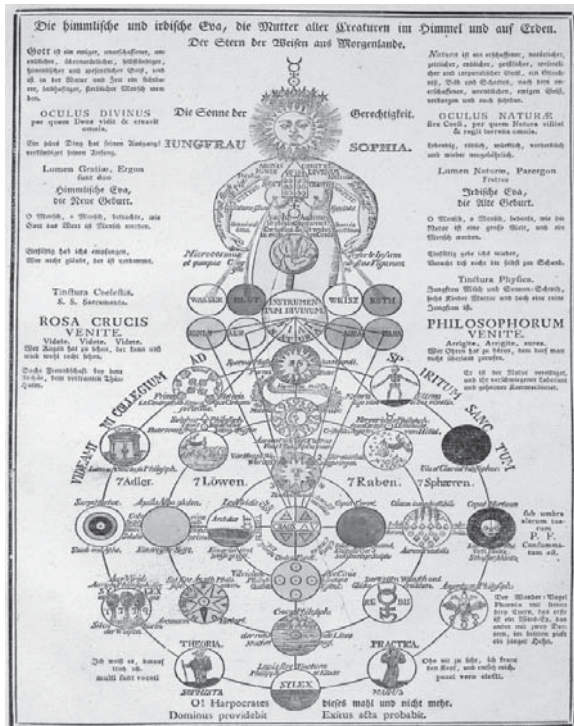
反宇宙的二元論の「反宇宙的」とは、否定的な秩序が存在するこの世界を受け入れない、認めないという思想あるいは実存の立場である。言い換えれば、現在、我々が生きているこの世界を悪の宇宙、あるいは狂った世界と見て、原初には真の至高神が創造した善の宇宙があったと捉える。

グノーシスの神話では、原初の世界は、至高神の創造した充溢（プレーローマ）の世界である。しかし至高神の神性（アイオーン）のひとつであるソフィア（知恵）は、その持てる力を発揮しようとして、ヤルダバオートあるいはデミウルゴスと呼ばれる狂った神を作った。ヤルダバオートは自らの出自を忘却しており、自らのほかに神はないという認識を有している。

グノーシスの神話では、このヤルダバオートの作り出した世界こそが、我々の生きているこの世界であると捉えられる。

Wikipediaより

この宇宙には最高の至高神と女性的な存在である「エンノイア」がペアとなりそこから順次「アイオーン」と総称される神がそれぞれ男女のペアで存在し最下位の「テトレス」と「ソフィア」のペアに至るまで30のアイオーンが存在しプレーローマという世界を作っている。その最下位のソフィアの好奇心から作った世界がこの世の中である。この世の中は物質で支配されていて、我々はその世界に幽閉されていることになる。



ハンブルク＝アルトナの薔薇十字団による  
ソフィアの神秘的な描写。1785年

筒井賢治氏が書いた「グノーシス」を参考にさらに分かりやすく書こうと思う。

\*\*\*\*\*

ではこのグノーシス主義は何を信奉するのか。それはこの世界の外、あるいはその上にあるいわば「上位世界」、そしてそこに位置している「至高神」である。そして人間の靈魂も、もともとはこの上位世界、別名「プレーローマ」の出身であり、現在は这个世界に幽閉されている形になっている。そこで、靈魂が身体を含むこの世界から解放され、故郷である上位世界に戻ること、それがグノーシス主義者にとっての「救済」となる。そしてこうした事情を人々に啓示するために上位世界から派遣されてやってきたのが救済者イエス・キリストだったのだと説明される。

「グノーシス」筒井賢治著

\*\*\*\*\*

この宇宙に至高神をはじめとして30の神がいるが最下位の神が物質を中心とした

この世界を作った。高位の神は精神を中心とした善の世界を作ったのだが、物質中心の我々の世界はそれとは対極にあるため劣った世界となった。つまり这个世界は善の世界に対して苦しみから逃れられない悪の世界である。这个世界から我々を救済するために上位の世界から派遣されたのがキリストだというのがだ。

能登の災害を思う時この物質中心の世界の悲惨さと、この世の中を作ったとされる神ヤルダバオートの存在を悲しく思うのである。



物質中心の世界を作った「ヤルダバオート神」

## 第64回北陸信越薬剤師大会・第57回北陸信越薬剤師学術大会について

### 葦原海さんとの対談「私はないものを数えない」

北陸信越薬剤師大会 大会長 中 森 慶 滋

日常において様々な事を思い浮かべという事は、生きていく中で必要なのかもしれない。それは「想像」という言葉で表すとするならばジョン・レノンのイマジンが思い浮かぶのだがここではそれは当てはまらない。想像できるということの意味は思い描くことができる状況を前提にするということにあるからだ。例えば地球から1万光年離れた惑星から地球を眺めたときの感想であるとか大谷選手のようにメジャーリーグでホームランを打った時の気分など。これらは想像することすらできない。そういう意味ではジョン・レノンが言うImagineは本来ありえない理想を語っているので僕が感じていることは間違っていないと思う。

両足を根元から切断したことを知ったときの気持ちは、はるかに自分の許容範囲から逸脱しているため想像することは不可能だ。

突然の不幸に見舞われたとき、また余命が短いことを告げられたときアメリカの精神科医エリザベス・キューブラー＝ロス博士が次のように言ったことは有名である。

これは死を目前とした人が死を受け入れるまでのプロセスのことで、キューブラー＝ロスの5段階モデルまたは受容過程と呼ばれている。

受容のプロセス

エリザベス・キューブラー＝ロスが発表した受容に至る5つの過程。

○否認・隔離      ○怒り      ○取引  
○抑うつ      ○受容

「私の状況に対しての怒りはありませんでした。怒りの気持ちという意味でその時当てはまるのは、携帯が事故で壊れてしまったので早く新しいのを買ってほしいのに何でそうしてくれないのかということに怒っていました。(笑)」今振り返るとこの時のことばがとても印象的であった。語ったのは葦原海さん。7月3日東京のホテルで石川県薬剤師会の橋本副会長と二人でお会いした。

葦原さんについてWikipediaから貼り付ける。

\*\*\*\*\*

葦原 海（あしはら みゅう、1997年11月14日[2]-）は、日本のモデル、タレント、インフルエンサー、講師である。愛知県出身。車椅子モデル。「μ（ミュー）」という名義で活動していたこともある。

来歴

2014年、16歳の時の事故により両足を失い、車椅子利用者となる。

2016年、NHK番組内で行われたファッションショーをきっかけに、モデル・タレントの活動を始める。

最初は、μ（ミュー）という名義で活動。現在の葦原海となった。

2020年、YouTubeを開始。

2021年、東京オリンピック・パラリンピック2020大会の公式文化プログラムで

ある東京2020 NIPPON フェスティバルのうち、テーマ「参加と交流」として実施する主催プログラム「わっさい」の出演者に選ばれる。

\*\*\*\*\*

彼女が事故について書いているのをWEBで見つけた。

\*\*\*\*\*

葦原海 Episode2：突然の事故、両脚切断、そんなことで諦めない！

16歳、高校1年生の終わり。

ふと気が付くと、私は暗闇の中にいた。

「私、死んだのかな？」

漠然とそんなことを考える。

そのうち、一筋の光が射ってきて闇が晴れた。最初に目に映ったのは、私を見て泣いているお母さんだった。

「(あ、生きてる??)」

白いベッド、白い部屋。

私は事故にあって、数日間意識を失っていた。

ICU（集中治療室）の中で、全身に包帯やビニールに巻かれていた。事故前後の記憶が全然ない。何が起こったのかよくわからない。ただ、自分が生きてるということにびっくりした。暗闇の中で、自分は死んだのだと思ってたから。でも、実際に生死の境をさまよったのは確かだった。

骨盤にひびがあるから動かないでと言われた。

骨盤にひび。……それだけで済んでるわけない。そんな気がする。

もしかしたら顔がえぐれてるかもしれない、身体のどこかが麻痺して動かないかもしれない。何があったのか覚えてないけど、こんな状態になるような事故だったんだから、何があってもおかしくないはず……。そして、何気なく布団を動かそうとしたと

き、私は両脚を失ったことに気づいた。

脚の傷口から菌が入って最悪死ぬかもしれない。生き延びるためには、脚を切るしかなかったらしい。ずっと布団の中に入ってたから、気づくのに時間がかかった。

あるはずの脚がない。もう、自分の脚で歩くことはできない。

ICUを出てからも、まともな生活を送れるかどうか保証できない。

脚が短すぎて、車いすに乗ってもまともに生活できないかもしれない。

もしかしたら寝たきりの生活になるかもしれない。

そう言われても、私は不思議と冷静だった。

<https://keypage.jp/episode/ashiharamyu-02/>

\*\*\*\*\*

両足を事故で切断した葦原さんのことを知ったのはTikTokであった。僕は葦原さんの明るさとけなげに生きようとしている姿に感動したのである。その時から葦原さんの存在は意識するようになった、世の中にはすごい人がいるものだ。

北陸信越薬剤師大会が2024年に石川県で行われるため、石川県薬剤師会で大会実行委員会が立ち上がった。僕は葦原さんを特別講演者に呼びたいと言い彼女を紹介し動画を委員にみせた。委員の共感を得て、満場一致で了承された。しかし彼女が講演を受けてくれるか、受けてくれたとしても特別講演を組み立てられるのか、様々な壁があることは承知していた。しかしその時僕は全てうまくいくことを確信していた。

委員会が立ち上がった日は11月14日。僕はその日葦原さんが投稿した動画を見ていた。ケーキに輝いている24のろうそくをとり25に差し替えるという動画。14日は葦原さんの誕生日なのだ。この瞬間葦原さんは大会に来てくれると確信したのであ



る。

ホテルに行くときすでに橋本副会長は到着してソファに座っていた。橋本先生はお迎えに行ってきますと言ひ、彼女はいなくなった。僕は一人で5つ星ホテルの空間を眺めながめ葦原さんを待った。周りでは様々な人たちが喫茶を楽しんでいた。

気がつくと車いすの女性が通路を進んできた。葦原さんだ。髪に留めた薄い紫のリボンがかわいい。ホテルの空間に彼女を照らすスポットライトのように光が差し込んでいるように感じた。驚いたことに自宅から電車を乗り継いで一人で電動車いすを操作してきたようだ。何ら健常者とは変わらない行動に障害という文字は彼女から消えているのを感じた。

隣に葦原さんが座ると彼女からは女性としての美しさ、そして大女優のような風格を感じた。この空間は彼女のために存在しているのだと思う。やがて一時間が経過しようとしていた時、僕は強烈な体験をした人にしか到達できない哲学を彼女から感じていた。それはとても丁寧に話す言葉の

端々から、両足切断という経験は彼女にとって一つのできごとに過ぎないことに気がついた瞬間でもあった。そして彼女がWEBに書いている言葉を思い出した。

\*\*\*\*\*

その時に苦しいと感じていたことは、すべて意味があった。「過去は変えられない」っていうけど、自分の捉え方次第で、「辛い過去」はプラスに変えていくことができると思う。

<https://keypage.jp/episode/ashiharamyu-05/>

\*\*\*\*\*

僕は、彼女から人として「とても大きくて美しい存在」を感じたのである。



# 第64回北陸信越薬剤師大会・第57回北陸信越薬剤師学術大会 開催要綱

**テーマ** Think QUALITY 私はこのように聞き視て考え そして活動した

**主催** 北陸信越薬剤師会・公益社団法人石川県薬剤師会

**会期** 令和7年2月22日(土)～24日(月・振休)

**会場** 金沢大学医学部宝町キャンパス 十全講堂、医学部記念館  
〒920-8640 金沢市宝町13-1

**日程**

2月22日  
土曜日

|       |                 |       |                  |
|-------|-----------------|-------|------------------|
| 17:30 | 19:00           | 19:30 | 21:00            |
| WEB開催 | World Session I | 休憩    | World Session II |

2月23日  
日曜日

|                     |       |       |             |                  |
|---------------------|-------|-------|-------------|------------------|
| 12:30               | 13:30 | 14:45 | 15:45 16:00 | 18:00            |
| 十全講堂<br>(WEBハイブリッド) | 受付    | 薬剤師大会 | 特別講演        | 休憩               |
| 医学部記念館<br>(現地のみ)    |       |       |             | シンポジウム①<br>「災害A」 |
|                     |       |       |             | ポスター掲示           |

2月24日  
月曜日(振休)

|                     |      |                  |            |                   |
|---------------------|------|------------------|------------|-------------------|
| 8:00                | 9:00 | 10:30            | 11:00      | 12:30             |
| 十全講堂<br>(WEBハイブリッド) | 受付   | シンポジウム②<br>「災害B」 | 休憩         | シンポジウム③<br>「生成AI」 |
| 医学部記念館<br>(現地のみ)    |      | ポスター掲示           | ポスター<br>示説 | ポスター掲示            |

**World Session**



**テーマ「世界の薬剤師と能登半島地震を考える」**

Session I 「各国の災害対応」

Session II 「世界から日本の薬剤師を考える」

**特別講演**



**演題「Positiveに生きる。能登半島地震で私が考えたこと」**

講師 草原 海 氏 (モデル / パフォーマー)

**シンポジウム①** テーマ「能登半島地震が我々に残したもの」

**シンポジウム②** テーマ「いきるということ・・・能登半島地震を経験して」

**シンポジウム③** テーマ「生成AIが変える新世紀薬剤師の未来」

**参加者の声**

あなたの声を参加登録の際にお聞かせください。

「あなたが人にやさしくなった時のこと」「あなたにとっての病気のメリット」などを、参加登録の際にお書きください。それをまとめ、みんなで共有したいと思います。

**学術大会**

シンポジウム・一般演題(ポスターのみ)

**開催方式**

現地参集及び一部 Web 配信のハイブリッド方式での開催となります。

**参加費**

参加登録料(現地・Web) 8,000円・北陸信越薬剤師会会員 5,000円(薬学生 無料)

**参加申込**

参加登録は事前にアスヤクLIFEで行い、登録料は指定した方法でお支払いください。

**大会事務局**

公益社団法人 石川県薬剤師会 〒920-0032 石川県金沢市広岡町イ 25 番地 10  
TEL: 076-231-6634 メールアドレス: kenkyaku@plaza-woo.jp

**その他**

詳細については、石川県薬剤師会ホームページをご参照ください。  
(<http://www.ishikawakenyaku.com/>)



石川県薬剤師会  
ホームページ

## 石川県職員（薬剤師）採用試験のお知らせ

令和7年度採用薬剤師選考試験（職務経験者）を以下のとおり行います。県庁や保健福祉センター（行政）、保健環境センター（検査・研究）など、様々な職場で様々なキャリアを経験できます。是非お知り合いの薬剤師で、ご興味がある方にお声かけください。

**採用予定** 6名程度

**受験資格** 昭和55年4月2日以降に生まれた方

**職務経験** 薬剤師として2年以上

**試験日** 11月17日（日）

**申込締切** 10月31日（木）【当日消印有効】



詳細はQRコード  
からご確認ください

— お問合せは、石川県健康福祉部薬事衛生課まで TEL：076(225)1441 —

## 令和6年度 会 務 日 誌

公益社団法人 石川県薬剤師会

| 月 | 日  | 曜 | 本 会 会 務 等                                                   | 一 般 会 務 等                                           |
|---|----|---|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 4 | 2  | 火 |                                                             | 第34回保健医療福祉調整本部会議（Web開催）                             |
|   | 3  | 水 | 第64回北陸信越薬剤師大会・第57回北陸信越薬剤師学術大会に関する、ゼストとの打合せ                  |                                                     |
|   | 5  | 金 |                                                             | 令和6年度石川県薬剤師会・東海北陸厚生局石川事務所連絡会（金沢駅西合同庁舎：中森会長、乙田常務理事）  |
|   | 9  | 火 |                                                             | ひもの義昭 県政報告会・復興支援チャリティー懇親会（金沢ニューグランドホテル：中森会長、伊藤常務理事） |
|   | 10 | 水 | 石川県中高生薬剤師セミナー2024オンラインミーティング（Web開催）                         |                                                     |
|   | 12 | 金 | 第1回開局常任幹事・支部長会および第1回常務理事会合同会議（Web開催）                        |                                                     |
|   | 16 | 火 | 第15回TQ制作委員会（北陸信越薬剤師学術大会制作準備委員会）（Web開催）                      |                                                     |
|   | 20 | 土 |                                                             | 自由民主党石川県支部連合会 第71回県連定期大会（ホテル日航金沢：欠席）                |
|   | 21 | 日 | 第1回薬剤師PS講座イノベーション研修会【能登半島地震チャリティー報告会】（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催） |                                                     |
|   | 22 | 月 | 実務実習に関する金沢大学との打合せ                                           |                                                     |
|   | 24 | 水 | 学業初任者研修会（Web開催）                                             | 全国薬剤師研修協議会実務担当者会議（Web開催：藤原副会長）                      |
|   | 25 | 木 |                                                             | 第1回いしかわ診療情報共有ネットワーク協議会あり方検討WG（Web開催：松田常務理事）         |

| 月 | 日  | 曜 | 本 会 会 務 等                                                                                        | 一 般 会 務 等                                                                                                                         |
|---|----|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 | 1  | 水 | 第1回保険委員会                                                                                         | 第2回石川県感染症連携協議会（石川県庁とWebのハイブリッド開催：中森会長）                                                                                            |
|   | 2  | 木 |                                                                                                  | 令和5年度いしかわ健康フロンティア戦略推進会議（石川県庁とWebのハイブリッド開催：藤原副会長）<br>県と国保連合会との打合せ（国保連合会：綿谷副会長、伊藤常務理事）                                              |
|   | 7  | 火 | 葦原海さんに関する打合せ                                                                                     |                                                                                                                                   |
|   | 8  | 水 | 第1回薬剤師生涯学習事業委員会（Web開催）                                                                           |                                                                                                                                   |
|   | 9  | 木 | 県薬監査                                                                                             | 令和6年度第1回石川県医療計画推進委員会（令和5年度第2回医療計画推進委員会）（石川県庁とWebのハイブリッド開催：中森会長）<br>令和6年度（第65回）石川県防災総合訓練 第1回打合せ会議（津幡町役場とWebのハイブリッド開催：綿谷副会長、竹端常務理事） |
|   | 10 | 金 |                                                                                                  | 広島県薬剤師会会長と中森会長の対談（Web開催：中森会長）<br>第1回石川県学校保健会運営委員会（石川県庁とWebのハイブリッド開催：中森会長）<br>石川県学校保健会 第1回理事・代議員研修会（Web開催：中森会長、村田常務理事）             |
|   | 11 | 土 |                                                                                                  | 日本保険薬局協会北陸ブロック会議（ホテルアローレ：中森会長、乙田常務理事）                                                                                             |
|   | 13 | 月 | 第2回開局常任幹事・支部長会及び第2回常務理事会 合同会議（Web開催）                                                             |                                                                                                                                   |
|   | 14 | 火 | 第1回理事会（Web開催）                                                                                    |                                                                                                                                   |
|   | 15 | 水 |                                                                                                  | 日本薬剤師会 総会議事運営委員会（日本薬剤師会会議室：長野県薬剤師会 加賀美秀樹代議員（令和6、7年度は長野県が当番））                                                                      |
|   | 16 | 木 | 葦原海さんとの打合せ（Web開催）                                                                                |                                                                                                                                   |
|   | 19 | 日 | 令和5年度保険業務研修会（Web開催）<br>女性薬剤師部会総会（金沢健康プラザ大手町）<br>石川県病院薬剤師会定例総会（石川県地場産業振興センター：中森会長）                |                                                                                                                                   |
|   | 20 | 月 |                                                                                                  | 令和6年度石川県薬物乱用防止指導員協議会（Web開催：村田常務理事）                                                                                                |
|   | 22 | 水 |                                                                                                  | 第1回石川県医療計画推進委員会 災害・救急医療対策部会（石川県庁とWebのハイブリッド開催：柏原副会長）                                                                              |
|   | 24 | 金 | 羽咋支部総会（はくい薬局：藤原副会長）                                                                              | いしかわ長寿大学能登北部校（石川県立生涯学習センター能登分室：）【中止】                                                                                              |
|   | 25 | 土 |                                                                                                  | 小森たくお国政報告会（金沢東急ホテル：中森薬連会長、伊藤薬連副幹事長）                                                                                               |
|   | 26 | 日 | 第2回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）<br>加賀支部総会（かが交流プラザさくら：澤野専務理事）<br>白山ののいち支部総会（グランドホテル白山） |                                                                                                                                   |
|   | 27 | 月 | 第16回TQ制作委員会（北陸信越薬剤師学術大会制作準備委員会）（Web開催）                                                           | 石川県防災会議（石川県庁とWebのハイブリッド開催：柏原副会長）                                                                                                  |
|   | 29 | 水 |                                                                                                  | 第1回都道府県会長協議会（日本薬剤師会：中森会長）                                                                                                         |
|   | 30 | 木 |                                                                                                  | 第1回都道府県薬剤師連盟会長会（AP日本橋：中森薬連会長、橋本薬連副会長兼幹事長）<br>本田あきこ中央後援会 令和6年度第1回役員会（AP日本橋：中森薬連会長、橋本薬連副会長兼幹事長）                                     |

| 月 | 日  | 曜 | 本 会 会 務 等                                                   | 一 般 会 務 等                                                                                         |
|---|----|---|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 | 31 | 金 |                                                             | 令和6年度 第1回北陸信越ブロック連絡協議会<br>(Web開催：中森会長、柏原副会長、崔副会長、<br>橋本副会長、綿谷副会長、藤原副会長、澤野専<br>務理事、谷内事務局長)         |
| 6 | 1  | 土 |                                                             | 日本薬剤師会災害対策委員会・情報交換会（ホ<br>テル金沢）                                                                    |
|   | 3  | 月 | 令和6年度北陸三県若手薬剤師指導者育成<br>フォーラム打合せ（Web開催）                      |                                                                                                   |
|   | 4  | 火 | 第2回薬剤師生涯学習事業委員会（Web開催）                                      |                                                                                                   |
|   | 5  | 水 | 第3回開局常任幹事・支部長会（Web開催）                                       | 令和6年度薬剤師首長地方議員意見交換会（AP<br>日本橋：橋本薬連副会長兼幹事長、宇茅金沢市<br>議会議員）                                          |
|   | 7  | 金 |                                                             | 北陸信越ブロック会長会議（Web開催：中森会<br>長）                                                                      |
|   | 8  | 土 | 小松能美支部総会（一浪）                                                | 公益社団法人石川県看護協会 令和6年度通常総<br>会（石川県地場産業振興センター：中森会長）                                                   |
|   | 10 | 月 | 臨時常務理事会（石川県薬剤師会とWebのハイ<br>ブリッド開催）                           | 緊急避妊薬販売に係る環境整備のためのモデル<br>的調査研究に関する説明会（Web開催：乙田常<br>務理事、塩谷理事、吉野理事）                                 |
|   | 12 | 水 | 第1回総務委員会（石川県薬剤師会とWebのハイ<br>ブリッド開催）                          |                                                                                                   |
|   | 13 | 木 |                                                             | 能登半島地震医療支援団体慰労会（ホテル金<br>沢：中森会長、崔副会長）                                                              |
|   | 16 | 日 | 第128回定時総会、薬連評議員会（ホテル日航<br>金沢）                               |                                                                                                   |
|   | 17 | 月 |                                                             | 公益社団法人薬剤師認定制度認証機構 令和6年<br>度定時社員総会、第32回認定薬剤師認証研修機<br>関協議会（秋葉原UDXカンファレンス：橋本<br>副会長、藤原副会長）           |
|   | 18 | 火 | 第3回常務理事会（Web開催）                                             |                                                                                                   |
|   | 20 | 木 | 第1回国保ヘルスアップ事業委員会（Web開催）<br>スーパーネット・ジャパンとの薬剤師システム<br>に関する打合せ |                                                                                                   |
|   | 23 | 日 | 第3回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石<br>川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）              |                                                                                                   |
|   | 25 | 火 | 第17回TQ制作委員会（北陸信越薬剤師学術大<br>会制作準備委員会）（Web開催）                  |                                                                                                   |
|   | 27 | 木 | 金沢支部総会（ITビジネスプラザ武蔵：宇茅薬<br>連顧問）                              | 第1回石川県保険者協議会（石川県地場産業振<br>興センター：藤原副会長）<br>北陸信越ブロック会長会議（Web開催：中森会長）                                 |
|   | 28 | 金 |                                                             | 県庁勤務薬剤師会総会懇親会（ホテル金沢：中<br>森会長）                                                                     |
|   | 29 | 土 |                                                             | 第104回日本薬剤師会定時総会（ホテルイース<br>ト21東京：中森会長、綿谷副会長）<br>第13回石川県歯科医師会 会員総会・懇談会（ホ<br>テル日航金沢：柏原副会長）           |
|   | 30 | 日 |                                                             |                                                                                                   |
| 7 | 4  | 木 |                                                             | 令和6年度第1回石川県医療審議会（石川県庁<br>とWebのハイブリッド開催：中森会長）                                                      |
|   | 5  | 金 |                                                             | 第2回石川県学校保健会運営委員会・審査委員<br>会（石川県庁：中森会長）<br>石川県学校保健会 第2回理事研修会（石川県庁<br>とWebのハイブリッド開催：中森会長、村田常<br>務理事） |

| 月 | 日  | 曜 | 本 会 会 務 等                                             | 一 般 会 務 等                                                                               |
|---|----|---|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 7 | 6  | 土 |                                                       | 第46回新任薬剤師研修会（金沢医科大学病院）                                                                  |
|   | 7  | 日 | 第1回理事・支部長・職域部会長・薬連評議員合同会議・かかりつけ薬局推進会議並びに第2回理事会（Web開催） |                                                                                         |
|   | 8  | 月 | 第4回開局常任幹事・支部長会（Web開催）                                 |                                                                                         |
|   | 9  | 火 | 第2回総務委員会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）                        |                                                                                         |
|   | 10 | 水 | 第4回常務理事会（Web開催）                                       |                                                                                         |
|   | 11 | 木 | 第1回かかりつけ薬剤師・薬局機能促進事業委員会（Web開催）                        |                                                                                         |
|   | 12 | 金 | 石川県中高生薬剤師セミナー2024直前ミーティング（Web開催）                      | 令和6年度いしかわ食育推進委員会（石川県庁とWebのハイブリッド開催：村田常務理事）                                              |
|   | 17 | 水 | 第1回学術研究倫理審査委員会（Web開催）                                 | マイナ保険証の利用に係る表彰（石川県庁：中森会長）                                                               |
|   | 21 | 日 | 石川県中高生薬剤師セミナー2024（石川県地場産業振興センター）                      |                                                                                         |
|   | 22 | 月 | 第18回TQ制作委員会（北陸信越薬剤師学術大会制作準備委員会）（Web開催）                |                                                                                         |
|   | 23 | 火 |                                                       | 自由民主党石川県支部連合会 職域支部・友好団体との懇談会（金沢東急ホテル：中森薬連会長、橋本薬連副会長兼幹事長）                                |
|   | 24 | 水 |                                                       | 第2回都道府県会長協議会（日本薬剤師会：中森会長）<br>日本医療薬学会「地域薬学ケア専門薬剤師制度」における連携研修マッチングに係る全国説明会（Web開催）         |
|   | 25 | 木 | 本田あきこ支部訪問（1日目）                                        | 令和6年度（第65回）石川県防災総合訓練 第2回打合せ会議（石川県地場産業振興センターとWebのハイブリッド開催）                               |
|   | 26 | 金 | 本田あきこ支部訪問（2日目）                                        | 北陸新幹線建設促進石川県民会議令和6年度総会（石川県地場産業振興センター：谷内事務局長）                                            |
|   | 27 | 土 | 本田あきこ支部訪問（3日目）                                        | 小森たくお国政報告会およびサマーパーティ（金沢ニューグランドホテル：中森会長）                                                 |
|   | 28 | 日 | 第4回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）            |                                                                                         |
|   | 30 | 火 | オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会1日目（Web開催）                   | 第1回いしかわ診療情報共有ネットワーク協議会（Web開催：松田常務理事）                                                    |
|   | 31 | 水 | オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会2日目（Web開催）                   | 第39回ひもの義昭友の会トロピカーナビアパーティ（金沢東急ホテル：中森会長、柏原副会長、綿谷副会長、藤原副会長、伊藤常務理事）                         |
| 8 | 3  | 土 | 石川県選出国会議員との情報交換会                                      |                                                                                         |
|   | 5  | 月 | 第5回開局常任幹事・支部長会（Web開催）                                 |                                                                                         |
|   | 6  | 火 | 馳県知事・柚森健康福祉部長との情報交換会                                  |                                                                                         |
|   | 7  | 水 |                                                       | 石川県薬事振興会令和6年度 第1回正副会長会議、理事会、総会並びに振興会長表彰選考委員会（金沢ニューグランドホテル：中森会長、柏原副会長、橋本副会長、綿谷副会長、藤原副会長） |
|   | 8  | 木 | 第5回常務理事会（Web開催）                                       | 奥能登公立4病院機能強化検討会（石川県庁とWebのハイブリッド開催：中森会長）                                                 |
|   | 25 | 日 | 第5回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）            | 第71回石川県学校保健研究大会（石川県地場産業振興センター：中森会長）                                                     |

| 月  | 日  | 曜 | 本 会 会 務 等                                   | 一 般 会 務 等                                                             |
|----|----|---|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 8  | 27 | 火 |                                             | いしかわ長寿大学石川中央校（石川県社会福祉会館別館：乙田常務理事）                                     |
|    | 29 | 木 | 第64回石川県学校薬剤師研修会（Web開催）                      |                                                                       |
| 9  | 8  | 日 |                                             | 北陸三県若手薬剤師指導者育成フォーラム（石川県地場産業振興センター）                                    |
|    | 9  | 月 | 第6回開局常任幹事・支部長会（Web開催）                       |                                                                       |
|    | 21 | 土 |                                             | 第3回都道府県会長協議会（大宮ソニックシティ：中森会長）                                          |
|    | 22 | 日 |                                             | 第57回日本薬剤師会学術大会（埼玉県さいたま市）                                              |
|    | 23 | 月 |                                             |                                                                       |
|    | 25 | 水 |                                             | 日本薬剤師連盟臨時評議員会（AP八重洲：中森薬連会長）<br>第1回本田あきこを激励する会（AP八重洲：中森薬連会長）           |
|    | 29 | 日 | 第6回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）  |                                                                       |
| 10 | 26 | 土 |                                             | 全国若手薬剤師フォーラム（クロスウェーブ船橋）                                               |
|    | 27 | 日 | 第7回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）  |                                                                       |
| 11 | 9  | 土 |                                             | いしかわ介護フェスタ（石川県産業展示館）                                                  |
|    | 10 | 日 |                                             | 令和6年度（第65回）石川県防災総合訓練（津幡町）                                             |
|    | 24 | 日 | 第8回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）  |                                                                       |
|    | 27 | 水 |                                             | 湖南学院での薬物防止指導講話（湖南学院：伊藤常務理事）                                           |
| 12 | 15 | 日 | 第9回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）  |                                                                       |
| 1  | 15 | 水 |                                             | 第4回都道府県会長協議会（日本薬剤師会：中森会長）<br>新年賀詞交歓会                                  |
|    | 16 | 木 |                                             | 第2回都道府県薬剤師連盟会長会（AP日本橋：中森薬連会長）<br>本田あきこ中央後援会 令和6年度第2回役員会（AP日本橋：中森薬連会長） |
|    | 19 | 日 | 健康サポート薬局に係る研修会（Web開催）                       |                                                                       |
|    | 26 | 日 | 第10回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催） |                                                                       |
|    |    |   |                                             |                                                                       |
| 2  | 9  | 日 |                                             | JPLフォーラム（AP日本橋）                                                       |
|    | 13 | 木 |                                             | 本田あきこ中央後援会事務担当者連絡会議（Web開催：谷内事務局長）                                     |
|    | 16 | 日 | 第11回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催） |                                                                       |
|    | 22 | 土 |                                             | 第64回北陸信越薬剤師大会／第57回北陸信越薬剤師学術大会（金沢大学十全講堂、医学部記念館）                        |
|    | 23 | 日 |                                             |                                                                       |
|    | 24 | 月 |                                             |                                                                       |
| 3  | 15 | 土 |                                             | 第105回日本薬剤師会臨時総会（ホテルイースト21東京：綿谷副会長）                                    |
|    | 16 | 日 |                                             |                                                                       |
|    | 26 | 水 |                                             | 日本薬剤師連盟定時評議員会（場所未定：中森薬連会長）<br>第2回本田あきこを激励する会（場所未定：中森薬連会長）             |

**連盟だより****本田あきこ オレンジ日誌**

参議院議員・薬剤師 本 田 顕 子

**■オーバードーズ（OD）への対応**

&lt;4月号&gt;

春めいた陽気の中を舞う桜花の彩りが新たなスタートをお祝いしているように映る季節を迎えました。

私が平日の大半を過ごす議員会館や国会議事堂周辺を入社・入職、人事異動などに伴う挨拶をされる方々が行き来する姿や、3月28日に可決成立しました令和6年度予算の関連資料が各府省から届くことを通じて、新年度の始まりを感じることができます。

新年度は新たな目標や計画に取り組むモチベーションを高め易いと言われますが、その反面、生活環境や職場環境の変化が心身に影響を与えることがありますので、各自一人ひとりの注意と周囲への配慮が必要な時期でもあります。

日常の苦労・苦痛、対人関係のトラブル、孤独などの個人を取り巻く困難や不安が薬物乱用の要因の一つと言われている中、救急搬送事例や中毒情報センターへの相談事例の調査から、若年層によるOTC医薬品の過剰摂取（オーバードーズ；OD）への対応が急務であることが分かります。

麻薬・覚醒剤などと比べて、若年世代にとって手が届きやすいOTC医薬品のOD対策のため、厚生労働省では薬機法改正を念頭にOTC医薬品の適正な販売方法の検討を進めています。

他方、ODを根本的に防ぐには、ODの危険性と適正使用の重要性の理解を広く促すことが大切であり、厚生労働省と文部科学省とが連携して啓発・教育を推し進める役割を担うべきと考えています。

そのような観点において、厚生労働省が令和5年補正予算として、学校薬剤師等の協力を得て啓発・相談対応を充実させるために1,600万円を計上したことの意義は大きく、文部科学省の小中高生向けの健康教育関連予算との連携可能性について確認作業を続けます。

薬の正しい使い方や薬に関する相談先があること等を未来ある青少年に伝えるため、両省を知る立場としてOD防止の橋渡し役を務めてまいります。

**■薬学の「ちから」 ～多様な人材を求める社会に応える～ <5月号>**

令和6年2月に行われました薬剤師国家試験（第109回）の結果が3月19日に公表され、新たに9,296名の薬剤師が誕生しました。受験者数は13,585名。20歳代の年齢別人口が減少傾向にある中、相対的に薬剤師を目指す割合が大きくなっています。

薬剤師の従事先人数は薬局が最も多く、全ての従事先に占める割合（構成割合）は30年

前の平成6年から増加が続き、直近の令和4年は約6割となっているのに対して、病院・診療所に従事する薬剤師については、人数は近年微増しているものの構成割合は減少傾向にあります。薬剤師の不足・偏在の解消に関しては、第8次医療計画に基づいて各自治体の薬務主管課・医務主管課と連携のうえ、地域医療介護総合確保基金の活用および出向・出張等による地域内調整を進めることに加え、引き続き処遇改善に向けた取組が必要と考えています。

薬剤師の従事先により顕著な減少傾向が見られるのは医薬品製造販売業・製造業です。平成24年以降、人数の減少が続き、割合も当時の11.2%から8.0%に低下し、薬学を学んだ卒業生（4年制を含む約1.1万人）の製薬系企業への就職者数も近年減少傾向にあります。

薬学から得る資質は多岐にわたります。

製薬産業への薬剤師の数や割合の減少が直接的に現下の医薬品供給不足と結びついているとは言いませんが、供給不足の発端となりました製造・品質に係る薬機法違反を生じさせない社内管理体制を整備するうえで、薬学系人材が貢献できると考えています。

経済安全保障の観点から生産拠点の国内回帰の必要性が指摘される中、国内生産力を高め、かつ品質が保証された医薬品の安定的な供給に持続性をもたせるため、多様な人材を輩出する薬学の「ちから」で生産現場の製造管理・品質管理の体制強化を図っていききたいと思います。

今年度も「骨太の方針」を策定する時期が近づいてまいりました。

人口減少が続く中、限られたリソースを適正に分配する観点に立って、社会が求める様々な分野に恒常的に薬学系人材を供給できるシステムの構築について、薬剤師および薬学関係者との議論を重ねてまいります。

## ■時節到来 ～来夏に向けて～

<6月号>

新型コロナウイルス感染症の感染症法における位置づけが2類相当から5類に見直されてから約1年が経過しました。

引き続き基本的な衛生管理に努めながらではありますが、ようやく従来のように広域に移動できるようになりましたので、各都道府県および各支部の皆様から多くのご案内をいただき、国政報告やご挨拶をさせていただいておりますことに感謝申し上げます。

全国各地で医薬分業の歴史に触れる中で、私は第19代日本薬剤師会会長の石館守三先生の次の言葉を紹介させていただいております。

日本では、製薬とか、有機化学とか、薬学のレベルは高くなったが、その薬学の学問を国民に還元するのは薬剤師の務めである。

しかるに、わが国の薬剤師の現状をみると、正当に社会的に評価されていないように思える。薬剤師に力がなかったら、薬学の本当の将来はない。(昭和45年)

いまから約50年前に守三先生が述べられたこの言葉には、薬学を学んだ薬剤師が国民のために力を発揮して、正当に評価されるようにならなければ薬学の価値はない、という意味が込められていると思っています。

薬剤師議員である私も薬剤師として、国民の命と暮らしを守るため、長引く医薬品の供給不足の現状をしっかりと捉え、製造・品質の管理体制の整備、中間年改定を始めとする薬価引下げの影響、さらには経済安全保障の観点での原薬調達に関する課題解決に向けた議員活動の一つひとつについて、全国を訪問させていただく中で精一杯お伝えし、皆様からのご指導もいただいて政策実現につなげてまいります。

## ■通常国会閉会

＜7月号＞

6月23日、第113回通常国会が閉会しました。

今国会では元日の能登半島地震の復旧・復興支援、次の大規模災害を見据えた体制づくりに関して活発な審議が行われたほか、物価対策・賃上げ対応、そして政治資金問題などが争点でした。

会期中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官でしたので、所属委員会での質疑の機会はありませんでしたが、政府答弁は衆参あわせて計9回行いました。また、公務として文部科学省関連の施設への視察をできるだけ行い、予算の執行状況や組織運営・事業活動に関する諸課題等を本省に持ち帰り、今後の施策の企画立案に生かしています。

自民党の厚生労働部会では、令和6年度の「3報酬改定」と「薬価改定」の方向性が決着した直後の1月の段階から、令和7年度に控える薬価中間年改定の取扱いを部会の最優先事項にするよう発言するとともに、紅麹使用食品の問題が生じた後の4月には、食品の安全と国民の健康を断固守ることに加えて、風評被害を生じさせないための情報発信の必要性を訴えました。

そして6月、政権の重要課題や次年度予算や税制改正などの足がかりとなる「骨太の方針2024」の政府原案に対して、薬局DX推進、中間年改定、費用対効果評価、抗菌薬等の産学官連携での開発についての修正を求めました。その後の政調全体会議および閣議決定された文書に意見の全てを反映できたわけではありませんが、関係者の皆様の声と私自身の政策に少しは近づけることができたと思います。

参議院議員として丸5年が過ぎました。薬剤師、薬業界及び薬学を取り巻く情勢が依然厳しくかつ今後も大きく変化・進化していく中、未来に進むには歴史を知ること大切だと思います。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」（オットー・フォン・ビスマルク元独首相）

偉人の言葉を自身に言い聞かせながら、国会閉会中も一つひとつ真摯に対応する毎日ですが、これからもよろしくお願い申し上げます。



令和6年6月21日  
国会閉会中における事案等の取扱いを議題とした、参議院「資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会」の散会后、神谷政幸議員とともに

## 政幸だより

参議院議員・薬剤師 神谷 政幸



### ■能登半島地震の被災地を視察しました〈4月号〉

令和6年能登半島地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご家族や被災された方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

令和6年3月11日、能登半島地震による被災状況と薬剤師の活動を視察するため石川県を訪問しました。視察には石川県薬剤師会副会長の橋本昌子先生と日本薬剤師会災害対策委員会委員長の越智哲夫先生に同行していただきました。

主な内容は以下の通りです。金沢で石川県病院薬剤師会の森戸敏志会長と面会后、穴水町の薬局を訪問し原将充能登北部支部長と石川県薬剤師会の竹端裕常務理事に面会。その後、公立穴水総合病院、珠洲健康増進センター、珠洲市総合病院を訪問し発災からの活動を伺い、いしかわ総合スポーツセンター（1.5次避難所）を訪問しました。

特に印象に残ったのは、穴水町で伺ったお二人の先生のお話でした。薬剤師は持参薬を見れば瞬時に現在の手持ち薬から代替薬が提案できる。厳冬期の避難所は締め切った環境になるため、CO<sub>2</sub>モニターを利用した換気指導や感染対策が重要。地域の薬局や薬剤師は減少しており、自ら被災しながらも、災害活動は様々な役割を少ない人数で対応してきたとの話を伺いました。

元々、医療従事者が少なかった上に、地震の影響で道路が寸断された半島の地理的条件もあり、勤務する施設にたどり着けなかった職員も多かったと聞きました。その中で、被災しながらも懸命に活動された石川県薬剤師会の先生方、また応援に駆け付けた日本薬剤師会、日本病院薬剤師会の先生方、医薬品供給にご尽力いただきました卸の皆様改めて敬意と感謝を申し上げます。今回の視察で得た知見をもとに政策や国会等での発言を通じ、一日も早い復興を後押しすると共に、国土強靱化に取り組んで参ります。結びに、今回の視察にご尽力いただきました関係者の皆様に御礼を申し上げます。



### ■予算委員会で質問に立ちました

〈5月号〉

令和6年3月28日の参議院予算委員会で質問に立ちました。武見厚生労働大臣に対し、能登半島地震における薬剤師の支援活動と医薬品卸に対する評価について質したところ、被

災地では発災直後から自ら被災しながらも活動を行った薬剤師や、モバイルファーマシーを含め全国から支援に駆け付けた日本薬剤師会、日本病院薬剤師会の会員に対し感謝の言葉がありました。医薬品卸においても倉庫や営業所における荷崩れの被害が生じ、発災直後より道路の状況や悪天候などがあったものの、基本的には翌日に現地に届ける体制が整備されたことなどに対して感謝の言葉がありました。

また岸田総理に対し、薬価基準の頻回な改定が製薬業界の利益を圧迫し、医薬品供給問題にも影響を与えている現状や、薬価改定の資産減の影響を吸収しきれず経営が苦しい薬局の現状を訴え、令和7年度中間年改定は中止にするか、本来の主旨である乖離幅が大きい品目の範囲で行うべきと主張し総理の考えを質しました。総理からは「薬価の毎年改定は、市場実勢価格を適時に反映し、国民の負担を抑制する観点から実施しているものであるが、これまでの薬価改定においては、不採算医薬品の薬価を引き上げるなど、医薬品の安定供給問題にも適切に対応してきた。診療報酬改定のない令和7年度の中間年改定の在り方については、昨年末、厚生労働省の中医協で了承された令和6年度薬価制度改革の骨子において、引き続き検討するとされており、令和6年度速やかに議論を開始し検討を進めていく」との回答がありました。総理の答弁に対し、平均乖離率は令和5年度調査で6%と過去30年で最も小さくなっており、次の中間年改定をこれまでのように0.625倍の範囲で行うことは現実的ではない。賃上げを実施しつつ、医薬品流通体制と地域の医薬品提供体制を守るために、是非前向きな検討が行われるよう要望しました。

YouTube  
令和6年3月28日  
参議院予算委員会での質問



## ■ 医薬品供給問題について厚生労働委員会で質問しました <6月号>

令和6年4月4日の厚生労働委員会で質問に立ちました。本年4月1日より、製造販売業者は6カ月以内に医薬品の供給不安が生じるおそれが判明した場合、厚労省に供給不安報告を行うこととなりました。この情報をもとに、同じく4月1日から厚労省のホームページに、医療用医薬品供給状況が掲載されています。供給に関する情報が事前にあれば、薬剤師は事前に用意可能な代替品を検討することが可能になります。代替処方を提案するなどして、処方医と連携をとり、患者さんが薬を手にすることが出来る環境を作ることが重要であり、効果的と考えます。さらに、同種同効薬の検索機能が充実すれば、前述のようなやり取

りがしやすくなることが期待されます。

これら情報の効果的な集約や提供方法について厚労省に質したところ、令和5年度補正予算事業において、薬局や医療機関などの関係者がより利用しやすい形で報告できる方法と、見やすい形で見ることができるシステム化に向けた検討を開始したとの回答がありました。昨年4月25日の厚生労働委員会において、医薬品供給情報が随時反映されるような仕組みを要望したことを受けての厚労省の対応に感謝の言葉を述べると共に、説明のあった調査研究事業は補正予算による事業であることから、来年度も予算化し、さらに使い勝手のよい方法を検討するよう要望しました。

その後、5月14日の厚生労働委員会で質問に立ち、後発医薬品の安定供給等の実現に向けた産業構造のあり方に関する検討会の進捗について質した上で、安定供給確保については法制度にしっかりと位置付けるべきとの意見を述べました。

医薬品の供給問題には薬価、産業構造、感染症の流行など様々な要因が絡み合っており、問題解決には時間がかかる可能性もありますが、政府や関係者と情報交換を行い、問題解決に向けてしっかりと対応して参ります。

YouTube  
令和6年4月4日  
厚生労働委員会



YouTube  
令和6年5月14日  
厚生労働委員会



## ■骨太の方針2024について

<7月号>

骨太の方針2024（経済財政運営と改革の基本方針2024）は、令和6年6月11日に開催された第8回経済財政諮問会議で原案が示されました。これを受けて自民党では6月12日の8時から厚生労働部会が開催され、私と本田顕子先生は、四大臣合意が行われた平成28年はデフレ下であり、医薬品の供給不足や物価高騰等、当時と状況が異なっていることを強く訴え、中間年改定については、廃止若しくは見直しを行うべきと主張しました。さらに、電子カルテの導入や電子カルテ情報の標準化に加えて、薬局における電子調剤録（服薬情報）の導入や当該情報の標準化の追記を求めました。

同日15時から開催された政調全体会議において、大串正樹厚労部会長から、中間年改定の廃止等に加えて、医療DXの記載箇所に薬局が抜けていることを指摘のうえ、調剤録等薬局のDX化の追記を求めていただきました。

6月17日の政調全体会議で示された修正案には「2025年度薬価改定に関しては、物価上昇などを取り巻く環境の変化を踏まえ、その在り方について検討する」という文言と、「調剤録等の薬局情報のDX・標準化の検討を進める」という記述が追記されました。同会議において、私から改めて中間年改定の廃止を求めると共に、医薬品の供給問題については早期に解決する旨が欠落していることを指摘し、文言の追加を求めたところ、

6月21日に閣議決定された骨太の方針2024に「足下の医薬品の供給不安解消に取り組む」の文言が追記されました。

本田顕子先生は文科省の政務官を務めておられますので、厚労部会では発言できますが、政調全体会議で政務三役は発言できません。今回の対応で、薬剤師議員が2人いることの重要性を改めて認識しました。これからも本田顕子先生と共に頑張って参ります。



## 令和6年能登半島地震に心を寄せて

金沢市議会議員・薬剤師 宇 夢 裕 基

元日に発生しました令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方、被害にあわれた方に、心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。想定を超える大きな地震であり、直接的な被害のみでなく、長期にわたる避難生活等で能登地方や金沢以南での地域医療体制もひっ迫しました。特に能登地方で薬局、病院、その他薬事に関わっていた方は、ご自身が被災者でもありながら、被災者支援もすることになり、大変なご苦労があることと拝察します。

そのような状況の中、石川県薬剤師会では役員や有志が一丸となり、復旧復興にあたりました。特に当初数か月は不休で活動された方も多く、医療者としての責任感や、被災者支援の熱い思いを間近で感

じた。

私は、石川県薬剤師会の災害対策本部、石川県の医療福祉調整本部を行き来し、両者をつなぐ役割を担わせていただきました。指揮命令系統が異なると、立場の違いや、得ている情報の違いにより、主張や意見が食い違ってしまうものです。それを調整するのが、いわゆる「災害薬事コーディネーター」であり、全体を見渡せる鳥の目と、現場の意見を理解できる虫の目が必要なのではないかと思います。今後の災害に備え、この災害薬事コーディネーターの育成が急務であると感じました。薬剤師の参議院議員である神谷まさゆき先生には、参議院厚生労働委員会にて必要性を訴えていただいたところで、大変感謝をしております。

す。引き続き、同じく薬剤師で参議院議員の本田あきこ先生とも連携しながら、現場の声を国政に届けていきたいと思います。

最後になりますが、今回の令和6年能登半島地震において、直接的に被災地や被災者支援を実施された先生はもちろん、その先生の分まで通常業務をされた職場の方々、またその間に地域医療を支えてくださった全ての先生、関係者の皆様に心より敬意を表します。まだまだ復旧復興は続いております。今後も被災地や被災者に心を寄せていきましょう。

### 【うだひろきの議会解説】

金沢市議会には、前回紹介した常任委員会の他に、特別委員会が4つ設置されています。これは、毎年立ち上がる委員会です。毎年組織される「議会広報委員会」の他に、議会の中で適切なテーマを3つ選別組織します。令和6年度は、「都心軸再整備特別委員会」「防災・復興特別委員会」「公共交通特別委員会」が組織されました。

いずれも、現在の金沢市にとって喫緊の課題であり、議会として意見を出し、総意を作っていくことになります。

主義主張が異なる議員が集まって1年の間に総意を作るということは、大変な作業であり、この特別委員会の委員長を任されるのは、通常3～4期以上の議員になります。常任委員会の委員長は通常2期以上であり、比較すると差が明確です。

今年度は、私は「議会広報委員会」に所属しています。1年に4回発行される「議会だより」、夏休み中に開催する「こども議会」など、様々な取り組みを通じて、議会活動を市民に伝える工夫をしています。特に「議会だより」は、金沢市内の全世帯に配布され、議会での発言内容、態度表明などを確認することができます。これまで、年4回の全ての議会で質問をさせていただきました。これからも、皆様の声を届けることができるように頑張って参ります！



石川県医療福祉調整本部にて  
薬剤師の中出先生、西田先生と

# Think QUALITY

薬剤師学術大会 金沢

私はこのように聞き視て考え  
そして活動した



## ■ 特別講演

「Positive」に生きる。  
能登半島地震で私が考えたこと  
葦原 海 氏 (モデル / パフォーマー)  
16歳の時に、事故で両足を切断した葦原 海さん。  
失ったもの得られたもの



QRコードから葦原 海さんの動画が視聴できます。



## ■ シンポジウム

「能登半島地震の Quality とは」

- ① 能登半島地震が我々に残したもの  
② いきさということ・・・能登半島地震を経験して



## ■ Zoom World Session

「世界の薬剤師と  
能登半島地震を考える」

- A. 各国の災害対応  
B. 世界から日本の薬剤師を考える



## ■ シンポジウム

「生成 AI を薬剤師業務に活かす  
可能性を考える。  
生成 AI は新世紀薬剤師をさらに  
次のステージへと導くのか。」  
座長 上村 直樹 (東京理科大学 嘱託教授)

会期、会場が変更になりました

2025年(令和7年)

2/22土▶▶24月振休

金沢大学医学部宝町キャンパス(十全講堂、医学部記念館)

大会長 中森 慶滋 (公益社団法人 石川県薬剤師会 会長)

## ■ 開会式

「鎮魂」パッサン無伴奏チェロ組曲第一番プレリウド 演奏

第64回北陸信越薬剤師大会・第57回北陸信越薬剤師学術大会

大会事務局 / 公益社団法人 石川県薬剤師会 〒920-0032 石川県金沢市広岡町イ 25 番地 10 TEL: 076-231-6634 メールアドレス: kenyaku@plaza-woo.jp

## 原稿を募集しています。

- ◇「県薬レポート」では、この小冊子をより一層愛されるものにしたいと願って、読者の皆様から広く原稿を募集しています。
- ◇テーマや内容、体裁は自由です。評論、随筆、意見、提言、店頭体験談、趣味の話、詩、短歌、俳句、川柳、或いはマンガ、イラスト、カット、写真等々何でも結構です。ただしあまり長いものは御遠慮の程を……。
- ◇原稿はデータで石川県薬剤師会までメールでお送りください。

その他：採否は編集委員会におまかせください。

## 「県薬レポート」編集委員会

委員：綿谷 敏彦、藤原 秀範、橋本 昌子  
伊藤 昭一、野村 政明、塩谷 明美  
吉野 貴大、坂野由宇希

石川県薬剤師会ホームページのURL

<http://www.ishikawakenyaku.com/>

eメール・アドレス

kenyaku@plaza-woo.jp